

# T-ACT

つくばアクションプロジェクト



筑波大学  
University of Tsukuba

# 2015

活動報告書



TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

# 目次 -T-ACT 活動報告書-

## はしがき

### アクション／プラン

地球人への Message ～ 4年生の大学史～ (12066A) .....	1
【IT 業界セミナー】 IT ベンチャー企業内定者による、 「ベンチャーという選択肢をとった訳」 (13019A) .....	3
【第三弾】 日本の難民問題の取り組みを通じた国際交流・国際協力 (13030A) .....	5
TEDxTsukuba 2013「一期一会」 (13052A) .....	7
Team8 3rd state ～ imagine the future ～ (13055A) .....	10
雙峰祭学生プロレス 5周年記念興行スタッフ募集！！ (13057A) .....	13
Tsukuba for 3.11 第6弾 (13059A) .....	14
音楽で国際協力を！チャリティーオーケストラつむぐ第二回 (13061A) .....	16
iGEMに参加する (13065A) .....	20
松美池アヒルポート「博士号」の復活 (13071A) .....	21
【第四弾】 日本の難民問題の取り組みを通じた国際交流・国際協力 (13073A) .....	24
あなたの意見を言える場所 ―CSC― (13086A) .....	25
東北、フクシマを見に行こう、そして考えよう ―東日本大震災文化的復興プロジェクト@つくば― (13089A) .....	27
陸前高田ドキュメンタリー『あの街に桜が咲けば』上映イベント@つくば (13090A) .....	29
つくばで恋チュン (13091A) .....	31
学生フォーミュラに参戦しよう！ (13092A) .....	33
Eating Place Map for Muslim Project part2 (13093A) .....	35
ラヂオつくばで T-ACT を広めよう！ (13097A) .....	37
筑波大学「エドワード・サイード OUT OF PLACE」上映会 (13098A) .....	39
球面のボードゲームで遊ぼう (13101A) .....	40
筑波大学にヒーロー・アクションサークルを作ろう！ (13102A) .....	42
Astro Cafe ～未知の宇宙への招待状～ (13104A) .....	43
TEDxTsukuba 2014 (14001A) .....	44
Young Americans つくばスペシャル2014に参加しよう！ (14003A) .....	45
UNICO ～星空から笑顔の輪を vol 1～ (14004A) .....	47
イベント VS お掃除ロボット派遣屋さん～ロボットでお掃除いたします～ (14006A) .....	51
Tsukuba for 3.11 第7弾 (14007A) .....	53
有志！神輿大好き人 (14008A) .....	55
松美池アヒルポート「博士号」の運用 (14010A) .....	56
平砂トンネル・壁面リニューアルプロジェクト (14011A) .....	59
ゆめ花火2014 (14014A) .....	61
つくバグ2014 “昆虫青年” が “昆虫少年” を育てる！ (14015A) .....	63
チャリティーフットサル大会 サッカー×社会貢献 (14016A) .....	65
「歩きスマホ」をなくそう！！ (14017A) .....	66
みにぷろー見に行こう、そして考えよう東北プロジェクトー (14018A) .....	67
つくバリ MAP (14019A) .....	68
iGEMに参加するⅡ (14020A) .....	69
LEGO ブロック作品展示会 (14022A) .....	70
球面のボードゲームで遊ぼう 2 (14023A) .....	72
Women's Hackathon at Tsukuba (14024A) .....	75

1000000人のキャンドルナイト2014 @筑波大学 ーでんきを消してスローな夜を。ー (14025A).....	78
プレゼンひろば 第二弾 (14026A).....	79
セクシュアルマイノリティ×医療 (14027A).....	81
院生プレゼンバトル2014 (14028A).....	84
TKB 就活コミュニティ2016卒向け就活セミナー (14029A).....	87
競技としてのゲーム =e-Sports 振興プロジェクト = (14034A).....	88
TOGASHISM ~サプライズ・フラッシュモブ~ (14035A).....	90
リクルート出身の創業社長と語る「働く」を語ろう! ディスカッションセミナー (14037A).....	92
全学的映画制作プロジェクト (14038A).....	93
トヨタヒトシ上映会 (14039A).....	94
児童養護施設での学習ボランティア (14040A).....	96
T-1グランプリ2014 (14041A).....	98
~誰にでもわかる案内を3学棟内に~ (14043A).....	100
T-ACTの活動登録者数を増やそ~♪~雙峰祭前の短期集中~ (14044A).....	101
むし食うべ:昆虫食をまじめに考える (14046A).....	103
Team8 ~かけがえのない友達、時間、出会い~ (14047A).....	106
サイエンス・コミュニケーショントレーニング (14048P).....	107
つくちよこプロジェクト2014 (14049A).....	108
雙峰祭 学研企画強化プロジェクト2014 (14051A).....	110
Dinner for Refugees ~難民を知ろう~ (14055A).....	112
ハロウィン留学生交流会2014 (14056A).....	114
サッカー×社会貢献~新しいスタイルの社会貢献 (14057A).....	116
小中学生とのミュージカルワークショップ体験 (14058A).....	118
Omochi Language Club Next Generation (14064A).....	120
ジャイアンナイト ねくすと@筑波大学 (14067A).....	122
筑波大学学園祭ライブ2014 (保留).....	124
学生による大学と社会の学術交流推進 (14070A).....	126
つくばLT(ライトニングトーク) (14078A).....	127

## ボランティア

「ボードゲームの広場」(20140003V).....	129
茨城県警察大学生サポーター (20140018V).....	130
「ボードゲームの広場」@矢中の杜 (20140019V).....	131
合唱コンクールのための合唱指導サポート (20140022V).....	132
市民農園でのバーベキュー ふれあいボランティア (20140024V).....	133
守谷市陸上競技大会に向けての放課後練習補助 (20140027V).....	134
「冬の学びの広場」学習支援ボランティア募集 (20140029V).....	135
第42回筑波山梅まつり 縁結びイベント (20140030V).....	136
キララちゃんバス10周年記念「記念誌作成PJT」(20140031V).....	137
特別支援教育対象児童の学習や学校生活のサポート (20140033V).....	138
キララちゃんPJT vol.2「新川お掃除大作戦」(20140037V).....	139

2014年度実施状況報告.....	140
-------------------	-----

## 編集後記

## はしがき

「つくばアクションプロジェクト」(T-ACT)の『活動報告書(平成26年度)』をお届けします。本プロジェクトは、平成20年度に採択された「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」にはじまります。学生の自主性と社会性の育成を図るために、学生生活の中で学生が「やりたい」と考える健全で多様な活動を大学として支援することを目標としています。

平成23年度末で学生支援GPが終了となりましたが、本企画の成果が認められ、その翌年からは筑波大学における人間力育成支援事業の一環として継承されています。したがって、T-ACTが学生支援GPとしてスタートしてから今年で7年になります。T-ACTには、学生が主体となって企画するT-ACTアクションと、教職員が主体となって企画するT-ACTプランがありますが、平成25年度からは、学生による主体的なボランティア活動を支援するT-ACTボランティアという新たな枠が設立されています。学外から各種のボランティア情報を収集して、その情報を参考に学生が自ら主体的にボランティア活動を企画するプロジェクト型にすることで、学生の「やりたい」という活力を、学内に留まらず学外にも展開させています。社会に出て学外の人とふれあい、様々な経験を積んでもらうことにより、社会貢献・地域貢献を通して学生の成長を支援するものです。

T-ACTにおいて大学公認の活動として承認された企画の総数は、この7年間で550件ほどにのびました。本報告書には、昨年度に実施された約80件の企画のうち、活動報告が提出された企画について掲載されています。それ以前の企画については昨年発行された活動報告書をご覧ください。本年度も文字通り多種多様な活動が実施されました。その中で特に印象に残ったのは、特別賞を受賞した「つくばで恋チュン」という企画です。これはAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」のプロモーションビデオを、学内の多くのグループごとに踊って収録し、動画登録サイトにアップするという企画でした。非常に多くの参加者が、心一つにすることで完成作品に辿り着きました。いろいろ失敗もありましたが、企画者達の「やりたい」という思いが濃縮されていて、高く評価されました。

また、秋に開催された公開シンポジウムでは、「T-ACTの軌跡と可能性」をテーマに、これまでの活動を振り返り、将来展望について学内外の講師の方々に語っていただきました。同時に開催された外部評価では、ボランティア活動の在り方について貴重なご意見をいただきました。本プロジェクトの継続・発展のためにご尽力いただいた学内外の皆様、それから、活動を大いに盛り上げることにより、プロジェクトの高評価をもたらしてくれた学生および関係者の皆さんにお礼を申し上げます。

本プロジェクトは、平成26年度から学生生活支援室のひとつの部会からT-ACT推進室へと発展的に改組されました。今後は、ボランティア関連の機能強化や国際化対応を図りながら、さらに展開していくことになります。皆様のこれまで以上のご支援とご助力をお願いいたします。

平成27年4月

T-ACT推進室長  
田中 博

## 地球人への Message ～ 4年生の大学史～ (12066A)

T-ACT プランナー 堀之内 彰 (生命環境学群地球学類4年)

### 活動内容

4年生の大学生生活 4年間について話を聞くことで、1～3年生が今後の大学生生活を考える・視野を広げるきっかけをつくる。

地球学類では、学類をあげての懇親会や専攻・分野での懇親会が開かれ他学年と交流する機会が多いが、学生の意識は専攻選びや研究室選び等に向いている。

自身が就職活動を経て、学問的部分だけでなく大学生としての有意義な4年間、また卒業後のキャリアについて考えるきっかけが特に1・2年生のうちにあるといいなと思い、企画するにいたった。また、同期である4年生が大学生生活で経験したり感じたりした貴重なものをアウトプットせずに卒業するのはもったいないと思ったことも、企画のモチベーションである。

### 活動計画

- 12月中旬 企画内容を練る、パートナー依頼および決定
- 12月下旬 話し手(4年生)候補決定
- 1月上旬 話し手オファーおよび決定、会場をおさえる
- 1月中旬 広告媒体(ピラ)作成、1～3年生の授業にて宣伝
- 2月上旬 話し手と打ち合わせ、その他直前準備(物品借用・スライド作成・資料作成)
- 2月当日 本番
- 2月中旬 反省、活動報告書作成および提出

### 活動期間

平成24年12月1日～25年2月28日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：渡辺亮佑(地球学類)、田中英恵(地球学類)、松本真弥(地球学類)、小堀詠美(地球学類)、其田有輝也(地球学類)

P：兼子純(生命環境系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動した内容

地球学類生1～4年生の有志による、地球学類 OBOG へのインタビュー訪問の実施。  
インタビュー後に地球学類情報誌「Laetters」として編集、3000部出版(企画書を提出し、学類費を利用)。  
地球学類1～4年生への配布および、地球学類オープンキャンパス参加者への配布。

#### ・目標達成度

100%

#### ・得られた成果

企画書を学類へ提出し、制作費をいただき、地球学類の縦のつながりの中で OBOG を訪問しまとめることが出来た。そしてその内容を次の世代へとつなぐことで、インタビュアーが得た経験や知識、OBOG の想いを伝えることに成功した。

地球学類の課題として、縦のつながりが希薄であることが問題であった。それは、学類生同士(1～4年生)、学類生と社会人との間に交流がなく、継続した繋がりを作ることが出来なかったからである。それにより、自身の卒業後の進路や社会人に成ることへの実感を感じることが難しかったが、今回の出版企画のなかのグループ活動や、社会人の知識と経験の伝達により、多少なりとも OBOG の繋がりを形成し、次の世代にその想いを伝達することが出来た。

### 今後の課題

#### ・活動中の課題

- ・上手に質問をし、話を展開するインタビューの知識や経験が乏しかった。
- ・OBOG や紹介していただいた先生とのやりとりで失礼があった。
- ・文章の統一感を図ることが出来なかった
- ・分野ごとに人数の偏りが出てしまった
- ・学年ごとに有志を集める際に、企画の想いを伝えることが出来なかった
- ・継続的に繋ぎ続けるための組織としての運営をすることが出来なかった。

#### ・今後の課題

継続した繋がりを作ることは困難である。学類内の各学年に OBOG との繋がりを持つようとする学生、その繋

がりを大きな活動にまで持ち上げる想いと活動力がある学生は残念ながら少ない。次につなげ続けるためには学類としての仕組みづくりが必要である。

### 経験者からのメッセージ

何もない状態でも、やろうと思えばできることはたくさんあると感じました。

何はともあれやりたいことを TACT の担当の方や、先生や先輩に相談してみましょう。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

OBOG や学類内の先輩後輩と関わることで、これまでになかった経験や知識を得ていた。それにより、社会人になることへのイメージが湧き、先輩と後輩の繋がりができることで学類内の関わりに幅と厚みが出た。

### T-ACT に関する感想

過去の事例やトラブル等の一覧（お金の集め方や組織の運営の仕方）があると、新しく始める人は参考になりやすいと感じます。

## 【IT 業界セミナー】 IT ベンチャー企業内定者による、「ベンチャーという選択肢をとった訳」 (13019A)

T-ACT プランナー 天本 涼太 (システム情報工学研究科 M1)

### 活動内容

#### ——動機と目標——

あなたはベンチャー企業と大手企業の違い、その特徴をしっかりと認識しているでしょうか。また、「働くこと」とは何か考えたことはあるでしょうか。

就活をはじめるとあって、ベンチャー企業への入社と大手企業への入社、それぞれのメリット・デメリットについての具体的な知識を持つておくのは非常に有益なことです。

とくに、将来の夢を持っている人や、ものづくりが好きな人にとって、これらの情報はあなたの人生そのものを変えるきっかけになるかも知れません。

あなたにはあなたに合う企業の性質というものがあります。

あなたにはあなたの働く目的があるはずです。

しかし、それらの性質や目的について考えるきっかけは、学内には中々見つからないものです。

私はこの点を問題視し、今回の企画を提案することにしました。

本セミナーでは、これから就活を始める学生を対象に、ベンチャー企業や大手企業といった枠に囚われず、「働くこと」や、「キャリア」について考えるきっかけを与えることを目標にしています。

#### ——企画内容——

これから就活という現実と向き合うこととなる新3年生と M1 におくる、就活キックオフセミナー！

主催者：天本涼太

講演協力：株式会社サポーターズ

講演予定者：14卒内定者 3名 (VOYAGE GROUP、サイバーエージェント、ミクシィ)

講演日：5/15 (水曜日)

講演場所：3B311 (3B 棟 3階311号室)

予定時間：18:30~20:30

講演内容：

- ・ IT ベンチャー企業内定者によるパネルディスカッション
- ・ 座談会、個別相談会
- ・ その他、東京のインターン紹介、キャリアの考え方についてのプレゼン、IT 業界の説明などを予定

※参加費は無料です。また、特定の企業の利益になるような話をするイベントでもありません。

詳細・参加登録は以下の URL よりどうぞ！

(定員15名とありますが、50名程度まで受け入れることが出来ます)

### 活動計画

- 4月 株式会社サポーターズの代表取締役社長と交流会を行う  
IT ベンチャーセミナー開催の提案を受ける
- 5月 IT ベンチャーセミナー開催の準備
- 5月15日 IT ベンチャーセミナー開催予定
- 5月末 活動報告書をまとめ、提出  
活動終了

### 活動期間

平成25年 5月 7日~25年 6月 3日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：齋藤創太 (システム情報工学研究科)

## 活動報告

### 活動成果

- ・ 活動内容

05/15 (水) 18:30~21:00

3B311にて就活キックオフセミナーを開催。

- ・ 目標達成度

中

理由：パートナーの先生を見つけることが出来ませんでした。

しかし、イベント自体は盛況・好評を博しました。

**・得られた成果**

参加者、学類3年生と博士前期課程1年生合わせて20名。

ITベンチャー企業内定者との面談でも、みなさん積極的に質問し、就活に対する各々の疑問を解消されました。

**今後の課題**

イベントの詳細を明らかにし、責任の所在を明記した上で、本校教員にパートナーのお願いをする必要がありました。

イベント当日の講演者は、みな、私とは間接的にしかつながりのない人ばかりだったので、講演内容についての調整などを行うのが大変でした。

**経験者からのメッセージ**

上記と同じような内容ですが、

＞イベントの詳細を明らかにし、

＞責任の所在を明記した上で、本校教員にパートナーのお願いをする

これは大切なことです。

責任の在り処を、常に意識して行動するとよいでしょう。

**運営者側から見たパーティシパントの変化**

就職活動についてのマイルストーンを得られたとおもいます。

特に、筑波大学内ではベンチャー企業についての知識を得られる機会があまりないので、参加者の皆さんにはとても良い経験になったのではないかと考えています。

**T-ACT に関する感想**

特にありません。

イベント開催についての相談にも乗ってくださり、誠にありがとうございました！



## 【第三弾】日本の難民問題の取り組みを通じた国際交流・国際協力 (13030A)

T-ACT プランナー 富澤 麻琴 (社会・国際学群国際総合学類3年)

### 活動内容

「えっ!? 日本に難民いるの?」

日本に難民がやってくることをどのくらいの人知っているだろうか。

また、彼らつくば市の隣、牛久市にある施設に収容されていることを筑波大の学生は知っているのだろうか。

あまり知られていない日本の難民問題を、少しでも多くの人に知ってもらいたい! 収容所にいる彼らの少しでも力になりたい!

そんな思いで活動していきます。

### 活動計画

6月20日 「世界難民の日」イベント企画

7月 勉強会

9月 講演会「無国籍について考える(仮)」〈日常的な活動〉

・東日本入国管理センターへの面会訪問活動

⇒現在は週に1度、牛久市にある東日本入国管理センターを訪問し、そこに収容されている人々と面会しています。様々な国籍の方々と実際にお会いして、話をしていく中で、相手を元気づけたり逆にこちらが元気づけられたりと、交流を通じた支援をしながら様々な経験をしています。

・被収容者への日本語サポート活動

⇒主に収容所にいる人々に対して、日本語の練習教材を差し入れたり、オリジナルの日本についてのコラムを差し入れたりして、日本語の勉強のサポートを行っています。

・難民申請にかかる翻訳活動

⇒私たちが関わっているすべての人々が難民というわけではありませんが、難民の人々は日本で難民として認定してもらうためには、その証拠書類を提出しなければなりません。その書類が端的に言えば、日本語で提出されなければならないという決まりがあります。その書類の翻訳のお手伝いをしています。

・各種イベントの立案・実施

⇒これら様々な活動を通して学んだことを外部発信したりするイベントの企画をします。昨年、一昨年と「難民交流会」と題して一般の方と CLOVER がお世話になっている外国人の方々をお呼びして、交流したり難民問題について学ぶ場を設けました。その他、他団体との共同開催などにも参加します。

・各種媒体を用いた情報の発信

⇒現在 CLOVER では、

ブログ (<http://cloveryouth.blog109.fc2.com/>)

Facebook (<http://www.facebook.com/CLOVERyouth>)

Twitter: @clover\_youth

HP: 作成中

を用いて、活動報告や各種イベント情報を発信しています。

### 活動期間

平成25年5月23日～25年9月30日

### T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 帖佐光江子 (国際総合学類)、藤井理美 (心理学類)、長谷川綾 (国際総合学類)、関亜沙美 (国際総合学類)、北山亜佳音 (国際総合学類)、田中清鈴 (国際総合学類)、佐々木めぐみ (生物資源学類)

P: 明石純一 (人文社会系)

### 備考

※社会貢献プロジェクト採択課題 ※既存団体のために既にメンバーはおりますが、随時新規のメンバーは募集しています。

## 活動報告

### 活動成果

・活動内容

5月29日 全体ミーティング

6月5、13、19日 全体ミーティング

6月7日 イベント幹部ミーティング

6月17日～21日 「世界難民の日」イベント週間 (写真展実施)

6月25日 反省会

7月9日	幹部まとめ
7月17、24、29日	面会 & 当事者との交流
8月16日	活動報告書製本完成
8月5、21、26日	面会活動
9月20日	事前準備
9月23日	シンポジウム担当者打ち合わせ
9月30日	シンポジウム「無国籍って？難民と考える国籍の話」開催

#### ・目標達成度 & 成果

「世界難民の日」という日を多くの人に知ってもらえた。

⇒写真展の一角に、感想などのコメントを記入した紙を貼っていき、一つの四つ葉（クローバー）を作成した。  
多くの人の参加・協力により、大きな四つ葉の作品を仕上げる事ができた。

#### 「無国籍」シンポジウム

アンケートの結果より、多くの方が、「国籍」について初めて考えたという回答。当事者である難民2世の方にもご登壇いただくことができ、より身近に、よりリアルに、無国籍の問題について考えることができ、国籍や人生のバックグラウンドが異なっても、私たちは同じ人間であり、これから出会うひとりひとりと向き合っていくことの重要性を知ることができた。

#### 今後の課題

無国籍シンポジウムにおいて、夏季休業を挟んだために、準備の遅れが生じ、当日の運営スタッフの調整が難しかった。

⇒早めの仕事割り振りのリストやタイムスケジュールの作成が必要であった。

#### 経験者からのメッセージ

仲間をつのって、いかに協力するか。周りの友達・知り合いを一人ずつ巻き込んでいき、大きな団体・イベントを作り上げる。これがイベント成功のカギだと思います！

#### 運営者側から見たパーティシパントの変化

2つのイベントを通して、難民問題に対して、それぞれの考えや思いを、一層膨らますことができていた。  
これにより、仲間と自分の考えを共有したり、難民支援活動への姿勢や、工夫がみられるようになった。

#### T-ACT に関する感想

いつも相談事をする時、丁寧のっていただけて助かります！！  
いつもありがとうございます！

# TEDxTsukuba 2013「一期一会」(13052A)

T-ACT プランナー 中本 佳宏 (生命環境科学研究科 M2)

## 活動内容

私たちの企画では、アメリカの非営利団体 TED (テッド) の公認イベント「TEDxTsukuba (テデックス ツクバ)」を企画・運営し、イベントでつくば独自のアイデアを共有・発信することでつくば市内の知的コミュニティの活性化を目指します。

このイベントを立ち上げた背景として、つくば市内の様々なコミュニティ間の交流がこれまで限られてきたという問題意識があります。それらのコミュニティからスタッフ・講演者・一般参加者がイベントに集まることで、コミュニティ間の新たな横の繋がりを生み出し、コミュニティを横断した新たなアイデアや取り組みが生まれるような環境を作ります。

私たちはこのイベントを年 1 回のペースで継続的に開催し、最終的にはつくば市全域の知的コミュニティを包括的に網羅した新たなプラットフォームに成長させることを目標としています。

### ☆ TEDxTsukuba について ☆

つくば市で行われている魅力的な研究や取り組みを、つくば市内の人々に分かりやすく伝えたい。

つくば市内の様々なコミュニティの関係性を強化することで、つくば市の新たな発展に貢献したい。

わたしたち TEDxTsukuba は” Spread Globally, Connect Locally ” というスローガンの元、これらの目標に対して取り組んでいます。

TEDxTsukuba では、つくば市で活躍する行動力ある方々を講演者に招き、アイデアの発信によりつくば市の「今」を伝えていきます。

また、TEDxTsukuba は一般的な傍観型イベントと異なり、講演者・参加者・スタッフにより作られる双方向交流型イベントです。

イベント参加者のコミュニケーションを通じて新たなアクションを創造し、つくば市の知的コミュニティの形成、活性化を図っていきます。

### ☆ TED について ☆

「Ideas Worth Spreading (価値あるアイデアを広めよう)」という理念の元、TED は1984年にアメリカ西海岸でスタートしました。TED の名称は「Technology」、「Entertainment」、「Design」の頭文字に由来し、これらの要素により新しい未来が形作られるという設立当初の予見に基づいています。現在ではあらゆる最先端のアイデアを発表するイベントとして、著名、無名を問わず、世界中から優れたアイデアを持つ人々を講演者に迎えた刺激的なイベントを毎年開催しており、世界に最も影響を与えるイベントの一つとして、確固たる地位を築いています。詳しくは、TED.com (<http://www.ted.com/>) をご覧ください。

### ☆ TEDx について ☆

TEDx とは、TED 同様「Ideas Worth Spreading」の価値観のもと、理念に賛同した各地域の意欲ある主催者によって、世界各都市で独自に開催されるイベントです。TEDx の「x」は、各地域で独自に運営されている TED プログラムであることを意味し、TED 本部から全体の方針は提供されるものの、それ以外のコンテンツは全て独自に作成されます。厳選された講演者による講演や TED Talks の鑑賞を中心としたプログラムを組み、新たな人々のつながりや熱い議論を生み出すことを目的としています。現在では、137か国、1400都市において TEDx イベントが開催されています。

## 活動計画

### ▼ TEDxTsukuba 2013 開催概要 ▼

コンセプトテーマ：「一期一会」

日時：2013年12月8日(日曜日)13時～19時頃

※17:30(予定)からアフターパーティー

場所：つくばサイエンス・インフォメーションセンター

(〒305-0031 茨城県つくば市吾妻1-10-1 ノバホール横の併設施設)

講演者：6名を予定

参加者：県内外から50～100名程度

### ▼ コンセプト ▼

「一期一会」とは、「人との出会いを大切にし、誠心誠意を尽くして相手をもてなさない」という茶道の心得を表した諺です。茶事において亭主と客人の間で交わされる一杯の茶には、現代にも通じる普遍的な先人の教えと深いコミュニケーションが隠されています。

私達 TEDxTsukuba はこの古くからの教えに立ち返り、つくばで行われている先進的な研究や取り組みの根底にあるアイデアに焦点を当てます。各分野の第一線で活躍する方々の講演を通じて、参加者の皆様と様々な分野のアイデアを共有し、新たな視点で世界を捉え直すきっかけを提供します。

また、イベント後にはアフターパーティーを開催し、参加者の皆様と講演者の方々が自由に交流できる機会

を設けます。多様な人々とのコミュニケーションを喚起することで、参加者の皆様が自分自身を見つめ直し、新たなアクションを起こすきっかけを提供します。

#### ▼スタッフ募集▼

イベントのコンセプトに共感し、スタッフとして運営に参加を希望する意欲的な学生（学群生／院生問わず）を募集します。経験の有無は問いません。

応募にあたって理解していただきたい事柄：

- －すべてのポジションはボランティアです。時には広島風お好み焼きが提供されます。
- －イベントを実現するには大きな努力が伴います。仕事が完遂するまでプロ意識を持ってご参加いただける方のみご応募いただけますよう、お願いします。
- －仕事は楽ではありませんが、その分、素晴らしい仲間に出会え、著名なイベントを作り上げたという達成感があなたを待っています。

#### ▼募集するポジション▼

- ・講演者対応  
イベント講演者の選定、講演の依頼、講演内容の打ち合わせなどを行います。
- ・広報／参加者対応  
イベントの告知、オーディエンスの募集、TEDxTsukuba ウェブサイトに掲載する文章の作成、当日のお客様への対応を行います。
- ・会場準備  
TEDx イベントらしい会場デザインの立案、イベントに必要な備品・什器等の調達、参加者に給仕する軽食・お菓子・飲物の用意、会場設営／撤収のスケジュール立案など、イベント会場の準備全般を計画します。
- ・スポンサー対応  
イベントのコンセプトに共感していただき、スポンサーになっていただける企業様とのスポンサー交渉を行います。
- ・映像エフェクト  
イベント内で利用する、映像・音響効果を作成します。
- ・翻訳  
イベントに関する資料の翻訳、講演内容の翻訳（後日、講演ビデオを YouTube にアップロードする際、英語字幕をつけます）を担当します。可能であれば、当日の同時通訳を行います。
- ・撮影／照明  
イベントでの講演者の講演（一人最大18分、6名を予定）をビデオ撮影するための機材準備、撮影の計画、イベント後ビデオ編集を行います。
- ・会計  
各パートへの予算配分の決定、経費の管理を行います。
- ・HP 作成  
Wordpress をベースとした TEDxTsukuba のウェブサイト構築します。

#### ▼活動スケジュール▼

- 9月 講演者への講演依頼や、広報のためのウェブサイトコンテンツの作成、企業へのスポンサー交渉を行います。
- 10月～11月 講演者を決定し、打ち合わせを重ねて講演内容を練ります。また、講演概要がまとまり次第、オーディエンスの募集を行います。会場の設営計画や必要な備品・什器の調達、スポンサー交渉もこの時期です。
- 12月 7日に会場設営とリハーサルを行います。イベント終了後は、講演ビデオの編集を行い1ヶ月以内に YouTube にビデオをアップロードします。また、各パートの活動報告書を作成します。

#### 活動期間

平成25年 9月 1日～26年 2月28日

#### T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：宮脇崇数（理物質科学研究科）、藤本恵美、小松昇平（生命環境科学研究科）、田沼亜裕美、本多健太郎（人間総合科学研究科）、平嶋健太、池田裕太郎、相原郁美、大久保達也、後藤琢磨（人間総合科学研究科）
- P：Taylor De Mar（生命環境系）

## 活動報告

### 活動成果

- ・活動内容
- 6月 運営チームキックオフ（ミーティングは以後 Google Hangout など隔週に1回程度開催）
- 7月～8月 イベントのコンセプト立案、講演者のリストアップ・参加交渉

8月～12月 講演者との打ち合わせ、イベントのタイムスケジュールの立案、イベント会場の選定・予約、協賛企業との渉外、什器の調達、広報・イベント HP の立ち上げ（公式 HP、facebookHP）、チケット販売の渉外、イベント保険の渉外など

12月8日 イベント開催

・目標達成度

講演者を確保（6組8名）

協賛企業の獲得

参加者の確保

・得られた成果

参加者80名、全体で100名規模のイベントを開催

山海嘉之教授をはじめ、つくばで活躍される講演者をつくば市内外に紹介する機会を作ることができた

### 今後の課題

イベントの支出を全て参加者の参加費（後払い）でまかなったので、資金が足りないという問題が生じた。

↓協力していただける地元の方々のつてを頼って、色々な備品・什器を借用

↓会場設営、参加者への飲食物の提供など、多方面の方にお世話になりました。

責任者のみならず、イベントの運営に参加する人はつくば市内外に係らず多くの人々に協力していただける様な信頼関係を持っていると良いと思います。

### 経験者からのメッセージ

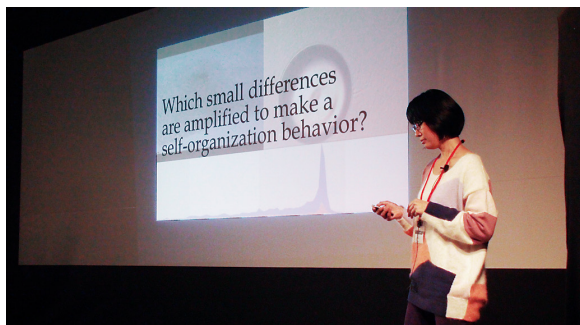
T-ACT を利用して、大学内の学生の世界から一歩出て、色々な経験ができれば良いと思います。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

イベントを楽しんでいただけたと思います。

### T-ACT に関する感想

パンフレットの印刷で大変お世話になりました。



## ● Team8 3rd state ~ imagine the future ~ (13055A)

T-ACT プランナー 岸本 京子 (人文・文化学群比較文化学類3年)

### 活動内容

活動内容目的は筑波大学における留学生と日本人学生の交流の促進である。

現在筑波大学には世界中の国から来た留学生が数多く在籍している。国際化が進む中、こうした環境で留学生と日本人学生が交流していくことで、異文化理解や様々な価値観を吸収する機会が得られると思う。また、せっかくこうした環境があるにもかかわらず、留学生との交流は十分とは言えない状況にある。留学生の中には、せっかく日本に来たのに日本人の友達があまりできないという悩みを抱えた学生もいる。

こうした背景から、留学生と日本人学生が交流できる機会を設けることや、密接な関係づくりを積極的に促進していく必要があると感じた。

Team8では、誰でも気軽に参加できるイベントを開催したり、日本文化の理解を深めるワークショップなどを企画する。また、「ものづくり」を通じた交流をしていくことで、より密接な関係を築くことを目的として、情報誌の作成も行う。

これらの活動には留学生と日本人学生がどちらも関わっていき、お互いをサポートしながらイベントやマガジン作りを進めていく。「ともに何かをつくる」という活動はより深い関係を築く上で効果的であり、さらに相互理解や異文化理解を深めていくことができる。

最終的な目標は、留学生の母国に遊びに行けるような深い関係を築くことである。そして、留学生が日本に、筑波大学に来て良かったと心から思えるような思い出作り・関係づくりをしていくことも本活動の軸として置いている。

### 活動計画

- 10月 Team8ミーティング／相撲を見に行こう／みんなでランニング／マガジン準備／お月見パーティー／ハロウィンパーティー
- 11月 Team8ミーティング／武道体験（柔道、剣道、弓道）／マガジン執筆／書道体験／紅葉をみに、高尾山に登ろう
- 12月 Team8ミーティング／クリスマスパーティー／富士急ハイランドに行こう／マガジン執筆／文化体験研修（笠間）
- 1月 Team8ミーティング／お正月ワークショップ／マガジン発行／着物着付け体験／和菓子作り体験
- 2月 Team8ミーティング／Team8ベトナム合宿（コアメンバーの勉強合宿）／留学生の国のお料理コンテスト
- 3月 Team8ミーティング／留学生お別れパーティー／春休み旅行体験談／新入生ウェルカムパーティー

### 活動期間

平成25年10月1日～26年3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：稲垣和希（人間総合科学研究科）、谷田部遼（体育専門学群）、村田明穂（比較文化学類）、竹下光（比較文化学類）、渡邊美智子（比較文化学類）、武智玖海人（比較文化学類）、九鬼征太、Paloma Benavides、Farrukh Asharapov、早稲田浩二

P：小屋一平（北アフリカ研究センター）、吉原ゆかり（人文社会系）

## 活動報告

### 活動成果

#### ★ Team8スポーツクラブ

担当：稲垣和希（体育大学院1年）、岸本京子（比文2年）、早稲田浩二（体育2年）谷田部遼（体育4年）

目的：学内にいる留学生及び日本人学生が抱えるなやみのうちの一つは運動不足である。というのも筑波大学には体育専門学群が誇る施設あるとはいえず、一般学生には非常に使いづらいのが現状。そこで実際に体育の学生と協力して、「定期的」な運動イベントの一環として立てたイベントの第一弾。

日時：11月9日（土）10時～

場所：春日体育館

〈得られたこと〉

なかなか運動をしない大学生にとってはかなりいい運動になった。サッカーというチームプレイを通して、言葉の通じない留学生でも協力して楽しく活動することが出来た。

〈反省点〉

少しサッカーというスポーツの特性上、運動を苦手とする留学生には辛かったためだろうか、人数が少なかっ

た気がする。次は、どの留学生でも簡単にできるようなスポーツイベントにしていくべきだと強く感じた。

### ★ Team8 Kamakura Trip

担当：谷田部遼（体育4年）岸本京子（比文2年）、竹下光（比文2年）、渡邊美智子（比文2年）村田秋穂（比文1年）、Paloma Benavides（ペルー）

目的：留学における一つの難関としては、自分の足で電車に乗ってどこかにあそびに行くということである。しかし、日本語の運用能力が低い留学生にとっては、「乗り換え」だったり「切符購入」ということは大きなハードルとなる。そのため、これらの問題を解消し日本文化を体験することもかねて鎌倉へ行くこととなった。また一日を通しての旅行を通じて、人とうまくかわること、リーダーシップ育成能力なども鍛えることも狙いとしている。この旅行に関わる人には事前のオリエンテーションにおいて、鎌倉の場所の説明、神社の参拝方法なども一緒に勉強した。

日時：11月23日（土）事前オリエンテーション  
12月1日（日）旅行

場所：事前オリエンテーション 図書館2階セミナー室A  
旅行、高德院、鶴岡八幡宮、横浜中華街

参加者：27人（オーガナイザー5人）

Kaitlyn Sakiko Chow	USA
Lee suuhyun	Korea
Su Jinjie（进杰 宿）	China
趙雪婷	China
Marta Ławniczak	Poland
James LOR	France
Vitor Roberto Almeida Castro	Brazil
Yuna Koreeda（是枝優那）	Japan
Frank Gass	France
Rose Leger	Canada
Lee Jin Sun	Korea
Rakhman Angsagan	Kazakhstan
Baiseitova Dana	Kazakhstan
Matija Novakovic	Kazakhstan
Inkara Seitkaliyeva	Kazakhstan
Aurélien BRIET	France
Laëtitia Grégoire	France
Gabi	Peru
Kim Tong Keon	Korea
Lee Dong Hyeon	Korea
Rached Moalla	Tunisia
Braulio Fernandes de Carvalho	Brazil

Organizers	Country
Kyoko Kishimoto（岸本京子）	Japan
Hikaru Takeshita（竹下光）	Japan
Haruka Yatabe（谷田部遼）	Japan
Paloma Benavides	Peru
Akiho Murata	Japan

〈得られたこと〉

今回は、どんな場合に対しても対応できるようにかなり準備を入念に細かく行ったため、問題なくスムーズにできた。特によかった点が4点。①オリエンテーションも、しおりも当日の流れもすべて両言語対応にしたため、混乱や不安などが非常に少なかった。②夜ご飯である、横浜中華街は食べ放題のプランを選んだ。これは宗教・習慣に理由のある学生に配慮したプランで、ムスリムの留学生でもベジタリアンの留学生でも対応できたことが非常に良かった。③今回は朝から行くとはいえず、2つの神社しか選ばなかった。というのも大人数で行くために、かなりの時間を要すると考えられたため、移動時間を3倍にして計算した。大成功。④オーガナイザーが以前その場所に行ったことがあったため、非常に移動もスムーズであったことと、グループを4つに分けて、各グループにリーダーを設けたことによって、運営統括が非常にスムーズであった。

〈反省点〉

留学生個人の問題がみられた。たとえば、グループ分けしたのにも関わらず、韓国人は韓国人で固まる傾向があったこと、独りよがりの行動をしてグループに後れを取らせてしまうこと等。同時に日本人学生が少なく、少

し運営者の身体的負担が大きかった。

★ Fitness Chain

担当：九鬼征太（体育大学院 2年）、岸本京子（比文 2年）、谷田部遼（体育 4年） Farrukh Asharapov（タジキスタン）、稲垣和希（体育大学院 1年）

目的：Team8スポーツイベント第二弾。ローランド先生という教授の指導の下、前回の反省も踏まえて、今回は Fitness という誰でも参加しやすい形のスポーツイベントにした。このイベントをすることによって、日本人学生、そして留学生の交流促進、そして運動不足解消の手だすけをすることを目的としている。

日時：12月 2日 19：00～

場所：筑波大学内 T ドーム

参加者：50人

〈得られたこと〉

かなりの留学生（特に女子留学生）が興味を示してくれて、最終的に50人を超えた。広報も非常に円滑に、そしてかなりの準備をしていたため、問題なくスムーズにいくことができた。さらに、今回は Fitness のなかで日本人と留学生のペアワークを取り入れたことが良い交流の場所を生んだと考える。

〈反省点〉

かなり好評であったために、定期的なイベントにするかを検討してみたい。

★ Omochi Language Club

実施日

10/11・10/18・10/25・11/8・11/15・11/22・12/6・12/13・12/20・1/10・1/24・1/31

担当：岸本（比較文化 2年）、竹下光（比較文化 2年）、渡邊美智子（比較文化 2年）

活動内容

言語交換をメインに毎週金曜日に5C 棟タイパチに集合してのち、18：30に307、308教室に移動。最初の一時間は外国語を、後半の一時間は日本語を留学生と日本人が交互になって言語を教えあうという活動を継続的に行っている。

〈得られた成果〉

多くの日本人、留学生が会うきっかけ口になった。とくに、英語に自信がない日本人でも、日本語に自信がない留学生でも参加しやすいような活動づくりが実現できたと思う。

今後の課題

私はこの秋学期、この活動に参加してより国際交流とは何か、について考えさせられました。留学生と会話するから国際交流か？それとも英語を話すから国際交流か？それとも留学生と日本人が共同で何かのイベントを創り上げるから国際交流か？など多くのことを考えさせられました。言語の問題はもちろんですが、それよりも、言語を超えて異文化を理解し、いかに異国の相手を理解できるか、そして自分自身を発信できるかが非常に重要になってくると思いました。

ひとつ重要な課題点として、やはり国際交流活動をするにあたって、宗教のことをより考えようと思いました。今回の活動で、ムスリム、ベジタリアンの人が多く絡むことが多く、食べるものに関して不快な思いをさせてしまったことが多かったため、次回以降、食べるもの、ラマダンなどには十分きを付けて活動に臨む所存です。

経験者からのメッセージ

イベント作りは非常に楽しいです。

しかし、良いイベントをつくるには普段の3倍のエネルギーが必要です。どうやって人を集めるのか、どうやって宣伝しようか、どうやって物資を準備しようか、当日の運営は誰が行うか。

しかし、そうやって真心こめて、頑張ってきたイベントだからこそ得られるものは大きいと思います。

是非自分の1番の活動を行ってください！

運営者側から見たパーティシパントの変化

特に、国際交流をするにあたって日本人学生の変化が見られました。

Omochi にくる日本人は最初は英会話を狙いに来ていたようですが、だんだん私たちの活動に慣れていくことによって、留学生と本当の意味での友達作りをしようとする姿も見受けられました。

このような形で私たちは、一生継続するような友達をこの活動によって作って欲しいと思っております。

T-ACT に関する感想

特にありません。

半期間大変お世話になりました。



## ● 雙峰祭学生プロレス5周年記念興行スタッフ募集!! (13057A)

T-ACT プランナー 久保 希久男 (医学群医学類6年)

### 活動内容

11月3日、雙峰祭1日目の松見池ステージ横の特設リングにて筑波大学プロレス研究会主催の学生プロレス5周年記念興行が行われます。今回はこれまでの中でも最も規模の大きいものとなる予定ですので、レスラー及びリングスタッフ等を募集しております。雙峰祭会場の中心で学生プロレスという青春の無駄遣いを私たちと一緒にしませんか？

### 活動計画

- 10月 企画プロモーションPV撮影、フライヤー、ポスター作成、練習など  
練習場所は浮間船渡「GOCOO STUDIO」もしくは桜総合体育館
- 11月3日 雙峰祭5周年記念興行  
1部 11時～  
2部 17時～(予定)
- 12月 総括(プロレスは必要とされているのか)  
反省会(お客様をOMOTENASHIできたか)  
来年の新歓について(本部企画として採用されるべきか)

### 活動期間

平成25年10月1日～26年3月31日

### T-ACT オーガナイザー/パートナー

- O:小平義之(情報メディア創成学類)
- P:入江賢児(医学医療系)

### 備考

完成したPVをすぐに流したいので、最短の申請期間でよろしくお願いいたします。

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 10月 合同練習
- 11月3日 雙峰祭興行

#### ・目標達成度

グッドパフォーマンス賞を獲得した。  
学生プロレス5年目にしての集大成を示すことができたといえよう。

### 今後の課題

5年目ということで、すべての自体は想定範囲内であった。  
このイベントのノウハウを筑波大学に残すことができなくて残念である。

### 経験者からのメッセージ

自分が「いまやりたいこと」と、周囲の人が「望んでいること」、自分の人生が「何を求めているのか」この3つの間の均衡点を妥協なく模索し続けることに、あらゆる楽しみとやりがいとが生まれてくるのだと経験しました。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

今回の企画では、各参加者が自律的に自分の希望を提示してきた。そしてそれを実践しようとした。

## Tsukuba for 3.11 第6弾 (13059A)

T-ACT プランナー 福井 俊介 (生命環境学群生物資源学類3年)

### 活動内容

東日本大震災から2年が経過し、甚大な被害を受けた東北地方においては、未だ復興の道半ばであり、長期的且つ持続可能な支援が必要である。また、ここつくば市においては、原発事故による被害を受け、およそ500名が福島県より避難しており、未だ事態の收拾のめどが立たないなかで、つくばでの生活をいかに支援していくかは大きな問題であると言える。

本活動においては、学生だからこそ出来る復興支援をテーマに、「Tsukuba for 3.11」「Tsukuba for 3.11 第2～5弾」にて行ってきた活動をベースに行う。宮城県気仙沼市、福島県いわき市においては、現地で活動する支援団体や地元住民と連携し、ニーズとマッチしたボランティア活動や、聞き取り事業を行う。つくば市においては、避難者を対象にコミュニティ新聞の発行や交流会を開催し、つくば市内でのコミュニティ形成に貢献する。

また、近頃ニュースなどでの震災の報道が少なくなり、関心喚起を促すことが重要であるといえることから、学内においては、学生の関心を喚起するために報告会やスタディーツアーを企画する。

### 活動計画

- 10月 活動開始  
新規メンバー集め  
つくしま10月号発行
- 11月 学園祭出店  
つくしま秋期交流会開催
- 12月 つくしま12月号発行
- 1月 つくしま冬季交流会開催
- 2月 つくしま2月号発行

### 活動期間

平成25年10月10日～26年3月26日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

○：下田梢（看護学類）、内海亜紀子（芸術専門学群）、霜鳥太一（人文学類）、藤田朋花（比較文化学類）、大原光代（社会工学類）、木村奈那子（看護学類）、園田有紀乃（芸術専門学群）、立川哲之（生物資源学類）、小池ちはる（比較文化学類）、松本一平（社会工学類）、椎名智弘（生物資源学類）、細田真萌（体育専門学群）、千田紗織（知識情報・図書館学類）、山下裕之（心理学類卒業生）

## 活動報告

### 活動成果

- 10月 活動開始  
新規メンバー集め  
つくしま10月号発行
- 11月 学園祭出店  
つくしま秋期交流会開催
- 12月 つくしま12月号発行  
第7回活動報告会実施  
しゃべり場 ボランティアスタッフ
- 1月 つくしま冬季交流会開催  
なこそ「双葉ダルマ市」ボランティアスタッフ  
新春しゃべり場 ボランティアスタッフ
- 2月 つくしま2月号発行
- 3月 東北 ReDays 参加  
なこそ希望アートフェス2014 ボランティアスタッフとして参加  
3.11こころのあかりプロジェクト スタッフ兼パネラーとして参加  
常陽新聞に団体掲載

#### ・目標達成度

9割ほど。実施した活動は全て達成できた。そして、コミュニティ新聞「つくしま」の発行により福島の方とのつながりを持つことが出来た。

交流会の広報をもう少し力を入れられれば良かったと感じた。

### ・得られた成果

コミュニティ新聞「つくしま」の発行、また2度の交流会の開催により、つくばに避難されている福島の方とのつながりを持つ事ができた。学生と福島の方との交流だけでなく、福島の方同士の間にもつながり、コミュニティ形成の支援を助長することができた。

また、学園祭で東北の飲食物を販売したり、種々の展示を行った事は、多くの人々に東北について知ってもらう良い機会となり、関心喚起につなげることができたと感じている。

### 今後の課題

今後の課題としてまず挙げられるのが、続ける事。

東日本大震災による被害は甚大であり、今がれきなどはかなり撤去され表面的には落ち着いてきたように見えるが、人の心に残した爪痕というのはなかなか消し去る事は出来ない。復興にはほど遠い状況である。その一方で、震災復興ボランティアの数は全国的に減少している。そして、人々の震災に対する関心というのも薄らいできている。

そのために、自分たちは筑波大生として一個人としてできることは何か考え、続けて活動する事が大事だと感じた。そして、多くの人々をこの活動に引きこむことで多くの人々に震災について感じてもらえることが重要だと感じている。

今回の活動では、その人の引き込みがあともう一步といったように感じている。しかし、活動に際して新たに関わってくれた仲間が増えたのはとても良かったと感じている。

他にも、どこまで活動すれば良いのか、ここで終わりという明確な目標がないという点で悩まされる事があった。だが、メンバーで話しあい思いを共有することで、自分たちなりの答えを出しながら前進していく事が出来たと思う。

### 経験者からのメッセージ

一番大事なのは「やりたい!」「なんとかしたい!」といった気持ち。

それさえあれば何でも出来る!

あと必要なのは一緒に活動する仲間。一緒に悩み、試行錯誤することも時には必要。それは大変な事だけれど、きっと大きくジャンプできるきっかけになるはず!

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

それぞれが自分の考えをもって考えられるようになったと思う。

復興にたいする答えはないけれど、そうやって考える事がとても大事な事だと感じた。その結果それぞれが積極性をもって活動に参加できるようになったと思う。

### T-ACT に関する感想

特にないです。いつもありがとうございます!

これからもお世話になりますが、よろしくお願いします。



## 音楽で国際協力を！チャリティーオーケストラつむぐ第二回 (13061A)

T-ACT プランナー 黒木 嗣子 (医学群医学類3年)

### 活動内容

国際協力活動をしようというときに、海外に行って支援活動をする、ということ以外にも国際協力の形がある。それは、国際協力に関心のある人を増やすことや、金銭面での支援をすることだと考えた。

私たちは「オーケストラつむぐ」という名でクラシック音楽のコンサートを開き、その中で国際協力活動の紹介を行う。コンサートでの収益の一部は寄附をする。

### 目的 1 国際協力活動の周知

支援の始まりは、「知る」ことにある。支援地域の現状や支援方法について知ることが、人が支援をする第一歩となる。そんな国際協力活動への入口を作るべく、演奏曲目の合間に活動紹介の時間を設ける。具体的には、他のNPO団体や学生団体に依頼をし、その団体の活動や活動の背景にある現地の様子を、当日舞台上でプレゼンテーションする。

### 目的 2 プラン・ジャパンへの寄附

収益の一部をプラン・ジャパンへの寄附に当てる。チケットは有料であるがこれは営利目的ではない。本番のホールの代金やチラシの印刷費といった運営費用をチケット代でまかない、他は全額寄附する。

### 目的 3 クラシック音楽の普及

クラシック音楽を普段聴かない人にクラシック音楽の良さを伝えることを目的として、本格的なクラシック音楽の演奏を目指す。そのために計画的に練習を行う。

前半には、オペラを20分程度に要約してストーリー紹介を交えて、曲を抜粋し、有名なオペラの紹介をする。

現在指揮者に、水戸博之さんを迎え、水戸さんの指導のもと音楽を作っていくことが決まっている。

### 活動計画

- 9月 ホールの申し込み
- 10月 指揮者、プログラムの決定  
寄附先（プラン・ジャパンには様々な寄付方法があるため）の決定  
演奏者の募集、連携団体への依頼
- 11月 広報活動
- 12月 全体での練習開始
- 1月 チケット販売開始
- 2月
- 3月 演奏会本番

### 活動概要

2014年3月22日(土)19時より

杉並公会堂（東京都杉並区）大ホールにてコンサートを開催する。

### プログラム

オペラより抜粋してストーリー紹介と主要な曲の演奏（歌つき）

舞台上での国際協力活動の紹介

ブラームス作曲、交響曲第1番

### 会計

チケット代は未定。

前回は一律1000円であり、そのうち500円を寄付に、500円を運営費にあてた。

### 外務

他の国際協力団体と連携をとり、演奏会の宣伝をお願いする。

国際協力の活動紹介を行わせてもらえないか依頼する。

### 演奏会

演奏会当日のホール手配、当日の演奏会の裏方進行。

### 広報活動

プログラム、寄付先が決定した時点でチラシを作成する。

チラシを友達に手渡しする、他の演奏会のプログラムに挟み込みをする

杉並公会堂、他の施設にチラシを置く、連携団体にチラシを配る

などの広報活動を行う予定でいる。

HPを作成しており、ここでも広報活動を行う。

また広報活動として、ブログやFacebook ページ、twitterなどで活動報告をする。

## 楽譜

準備した楽譜を PDF 化し、パスワード付きの団員ページにおいて公開することをもって配布する。

## 練習会場

練習日程決定後、都内の公共施設を中心に会場を予約する。

## 活動期間

平成25年9月1日～26年3月22日

## T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：高山珠美、菊地いずみ、間野智子（医学類）、佐藤有斗、松本惇奈、加藤里奈、櫻井静（医学類）、弓削絵理子、長島萌、保家慎治、山岡司、宮坂大修、井筒瑞果、佐々木絵理、田口梓（医学類）、山原有未  
P：三輪佳宏（医学医療系）

## 活動報告

## 活動成果

## 1、名称

オーケストラつむぐ第二回演奏会

## 2、目的

国際 NGO プラン・ジャパンの『パキスタンにおける女の子のための教育プロジェクト』へコンサートの収益を寄付する。

国際協力活動の周知。

## 3、日程

2014年3月22日（土） 18：30開場 19：00開演

## 4、場所

杉並公会堂

〒167-0043 東京都杉並区上荻1-23-15

## 5、主催

オーケストラつむぐ

## 6、後援

杉並区

つくばアクションプロジェクト T-ACT 承認番号13061A

## 7、参加者

演奏者、スタッフ：90名

指揮：水戸博之

ソリスト：土屋繁孝、澤地豪、山下裕賀、森歩惟、小寺彩音、山下未紗

## 8、結果

## 【演奏会概要】

1部 企画「いま、わたしたちにできる国際協力」(10分間)

3つの紹介（1オーケストラつむぐのコンセプトの紹介、2寄付先であるプランジャパンの紹介、3プランの中の特に今回の寄付先にかかわる Because I Am A Girl の紹介）を、壇上でビデオを流しながらスピーチを行った。

2部 オペラ抜粋 モーツァルト作曲「フィガロの結婚」(約30分間)

抜粋上演のため、ストーリーがわかりやすいよう、朗読を入れて演じた。

3部 ブラームス作曲 交響曲第一番（約50分間）

【来場者数】 349名

【寄付金額】 177,596円

【寄付先】 プラン一般プロジェクト No.14505：パキスタン 女の子のための教育プロジェクト（対象地域の1000人以上の女の子に、公教育に準ずる教育の機会を提供することを目的としたプロジェクト。長期的には地域全体の識字率の向上を目指している）(<http://www.plan-japan.org/join/priority/project05.html>)

## 【来場者アンケート結果】

感想（個人あてのメッセージは除いた）

・企画についての感想

◆若い皆さんが真摯に国際問題に向き合っていること、本当に素晴らしいです。ただ地味な活動ほど一般の人にはなかなか伝わらず、現代においては積極的にマスメディアに働きかけて取り上げてもらうのが得策かと思います。◆目的を持つての国際協力には感銘を受けた。◆私達にも協力できることがあるかもしれないと感じた。パンフレットをみながら行動に移していきたい。◆「国際協力」というと、難しそうなイメージがあるが、簡単に自分のできる限りのものでも協力できると知り、良かった。◆ビデオは手が込んでいて、よ

くできていると思いましたが、活動内容はわかりにくい点がありました。通常この程度のビデオでは、活動内容と集めた資金の活用について詳しく紹介するのが筋ですが、これではイメージビデオですね。◆いまわたしたちにできることから、という原点的な発想で活動していることに敬意を表したい◆初めて知りました。長く続けていってください。◆前回より少しわかりやすいのですが、もっと大きく（広く、目立つ）ようにしてもいいのでは？◆国際社会のため大変素晴らしい活動。協力したいと思います。◆意気込みがあり、よかったです。◆同じ女性としてとても共感。今後も続けて、協力できることをしたいと感じた。◆何故オーケストラで国際協力なのか気になった。頑張ってください。◆スライドがわかりやすく、とても良かった。ロビーで紹介してくださる団体さんにもっと笑顔があるといいと思う。音楽とのつながりがあつたらもっと素敵。◆興味深かったです。ブースの前に紹介パンフがないところがあり少し残念。◆とても分かりやすく、共感できた。◆Raise your Handの企画はとても良いと感じた。◆興味深く感じた。もっとスクリーンを活かしたのでは？あとせっかく音楽もやっているのに、音なしで紹介はもったいないと思う。音楽を活かした方がいい（BGMでもシンバルとかでも…）

#### ・演奏会全体

◆このような形でのボランティアへの参加、オーディエンスとしての参加を通しての国際協力の場を設けてくれてありがとう。この素敵な活動を今後もずっと続けてください！本当に来てよかった。◆杉並公会堂、設備、音響も良く素敵なホールだった。◆折角練習を積んでこれだけの演奏ができるのだからもっと集客について考えるべき。開演時間が遅すぎる。素晴らしい活動をしているのだから、誇りを持ってもっとたくさんの人に聴いてもらわないともったいない！！◆泣けるほど感動しました。◆安い料金で聴けるのが良い◆学生のオケメンバーとはいえ、なかなかの音だった。これからはがんばって！せっかくの「支援・周知」目的なら、余計観客誘引（例：近くの学校・生徒を招待するなど）を工夫して素晴らしい演奏・音楽を生徒たちに直接届けて下さい！（空席が目立ったので）◆今後も素晴らしい演奏を頑張ってください。◆自分の恵まれた才能、得意技で自分が楽しむだけでなく、社会貢献しようという高い志に感心し、エールを送ります。◆演奏お疲れ様です。大学の枠を超えて一致団結した演奏、とてもすてきでした。ありがとうございます。◆とても若さあふれてよかった。◆今後ともよろしくお願いします！このようなすてきな団体に応援頂いて本当に幸せです。これからはがんばってください。（プランの方より）◆金沢から聴きにきてよかった。また来たいです。◆今回で2度目だが、オペラ、本当に素晴らしかった！これからはがんばってください。◆演奏お疲れ様です。大学の枠を超えて一致団結した演奏、とてもすてきでした。ありがとうございます。

演奏会では、開演前に10分間、映像とスピーチを通して、コンサート開催の意図と、寄付先の紹介を行った。これは、実際に寄付をする側であるお客さんに、どんな目的の何の活動のために寄付をしたのか理解してもらう狙いをもって行った。

また、休憩時間（20分間）にはロビーに2階において寄付先団体以外の団体の活動紹介ブースを設けた。国際協力と一口に言っても、その活動や関わり方は多岐にわたる。演奏会を聴きにいらしたお客さんが、興味を持てるような活動と出会う場となることを狙い、様々な種類の6団体呼び実際にその団体の方々に実際に来ていただいて活動を紹介していただいた。

また、ロビー3階においては、Raise Your Hand～世界の女の子のために手を上げよう～を行った。これは、手を挙げる姿を写真に撮り、その写真を署名が署名の代わりとなって世界を変える力となる、というプランの運動である。これは、寄付先の支援になるということとプランの紹介という意図に加えて、身近でできる国際協力の一例としてロビーで行った。コンサートに来て寄付をするということ以外の、身近でできる支援の方法を紹介する意味で、このような企画をロビーで行った。

以上のように、演奏でクラシック音楽の素晴らしさや、音楽を通して団員の国際協力への思いを伝えるというだけでなく、具体的な活動によって国際協力活動の周知にも力をいれたことを特色とした活動となった。

団員にとってもつむぐの企画は、一人一人の国際協力活動への意識を高めるきっかけとなる場所もあった。練習中の休み時間に連携団体の方々に来ていただき、活動紹介を行っていただいた。これは、演奏会を開くという発信者である私たちがもっと様々な活動があることを勉強しようという試みであった。しかし、演奏に参加している曲によっては活動紹介の時間に練習場所にいないことがあったり、練習になかなか参加できない団員も多く、その効果はまちまちであった。今後団内でどう勉強していくかが課題となった。

#### 今後の課題

団内や指揮者の方と企画の共通理解がとれなかったことが一番の反省点。

#### 経験者からのメッセージ

どんなグループでも、グループに対する意識の差があると思います。その差が広がると、目指しているものにもずれがおこって活動に支障をきたすので、たまに会って話して少しずつ修正し続けることが必要だなと思いました。

## 運営者側から見たパーティシパントの変化

以下に団員からのアンケート結果（回収率40%）を載せる。

- ・オーケストラつむぐに参加して国際協力活動への意識が変化したか？

◆かわった。 ◆正直国際協力の企画にあまり触れることができなかったのがそこは残念でした。練習を休んでしまったりしたので ◆微妙 ◆より多くの人に知ってもらいたいと思った。 ◆特に大きく変わったわけではない。 ◆もともと大学で同じような問題に目を向けていたので、あまり意識は変わりませんでした。 ◆少し変化した ◆観客には効果があったと思いますが、実際奏者にはあまり伝わらなかったかと思います。 ◆国際協力活動と言うと凄く大きなことだという意識でしたが、今回の企画でこんなにも身近で自分にも出来る小さなことでもお手伝い出来ると思えばもっと積極的にやらねばと感じました。 ◆様々な国際協力活動があることをまず知ることができた。これからは自分でもできる形で参加できればと思った。 ◆はい ◆国際協力活動という身近なイメージが無かったのですが、演奏会の集金を寄附に回すというやりかたの参加方法もあるんだなと知ることが出来ました（少しだけ身近に感じる事が出来ました）。 ◆はい。 ◆ほとんど知らなかったことに興味が湧いた ◆正直なところ、これほど国際協力を携わっている団体があるとは思っておらず、それに身近でできる国際協力というのは今まで知らなかったため斬新だった。これからも関われる範囲でも、何か支援になることをやっていきたいと思う。 ◆大学生で自分なりに国際協力に貢献できることをきちんとやっている人がいるということ、体感し、その人たちのようになれたらカッコいいと思えた。 ◆舞台袖で企画を見ていて、学生でも出来る国際協力があることを知りました ◆日常生活であまり意識していなかったのが、国際協力に取り組む多くの団体の存在やその活動を知れた。特に raise your hand など自分にも出来ることがあると思えた。 ◆はい。 ◆大きな行動に移さなくても、身近でできる国際協力があるなら、自分にもできそうだと感じました。 ◆変化したように思う ◆国際協力活動を身近に感じられるようになってよかった。 ◆興味を持つようになったので、変化したと思います。

## iGEM に参加する (13065A)

T-ACT プランナー 日原 奨希 (生命環境学群生物資源学類2年)

### 活動内容

10年ほど前に iGEM という競技がアメリカで始まった。iGEM とは遺伝子操作の技術と発想を競う合成生物学の大会である。日本でもこの大会に参加している大学は10校ほどあるが、筑波大にはまだない。そこでこの T-ACT では、この iGEM を行うサークル作ることを目標とする。

### 活動計画

10月～11月 メンバー集め、及び顧問の教員を探す  
12月～6月 ひたすら勉強  
7、8月 実験開始

今回の企画では学群生の学習範囲を遥かに越えたことをやります。そのため、勉強期間はかなり長くなることが予想されます。最短で7、8月に実験開始だと思えます。また、多くの教員、院生のお力をお借りしなければならぬはず。そして、T-ACT では、サークルを立ち上げる段階までやらせて頂きたいと思えます。

### 活動期間

平成25年10月22日～26年 4月22日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：照屋心之助 (生物資源学類)、日隈千尋 (生物資源学類)、田村陽 (生物資源学類)、杉崎真 (生物学類)、ガ  
ニ工拓也 (生物学類)、佐藤実希 (生物資源学類)、濱野直樹 (生物学類)  
P：YING BEIWEN (生命環境系)

### 備考

学類生、院生、教員全て募集しています。企業に協賛を頂きにいたり、ホームページを運営したり、実際に実験したりと様々なことを行なう予定です。iGEM に興味があれば、学類も問いません。より多くの人に参加して頂けたら幸いです。

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

週1回の MT を11月から現在 (5/6) まで続けてきました。  
春季休暇中などで集まれないときは、Skype を用いた MT を行いました。  
また3/12に京都で開催された iGEM 交流会にも参加しました。  
この交流会を通して、他大学の iGEM チームと交流を持つことが出来ました。

#### ・目標達成度

50%ほどであると考えます。  
国際大会である iGEM2014に資金、技術不足で参加できなかったのが一番の要因です。  
今度は iGEM2015を目指そうと思えます。  
ただ、メンバーも集まり、顧問も決まったので、50%にしました。

#### ・得られた成果

メンバーが決まり、役職も決まりました。  
顧問も決まり、実験を行う場所のおおよその目処がつかしました。

### 今後の課題

資金の集め方を再検討することです。

### 経験者からのメッセージ

自分の中で明確なビジョンを持ってから行動することをお勧めします。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

今回のプロジェクトにはオーガナイザーしかいなかったため、この項目は省きます。

### T-ACT に関する感想

MT で使用する教室 (プロジェクターを使用することが出来る教室) が T-ACT の方であるといいな、と思うことがありました。



## ● 松美池アヒルボート「博士号」の復活 (13071A)

T-ACT プランナー 登 大遊 (システム情報工学研究科 D2)

### 活動内容

#### 【背景】

筑波大学の第一エリアにある松美池は、南側に森林を有する、長さ約180m、水深約30cmの中規模の貯水池であり、調整池としてのみならず水浴びやボート遊びなどにも利用可能な潜在的価値を有しています。松美池の価値を十分に引き出すことができれば、本学の学内外に対する魅力はより一層高まることは間違いありません。しかし、現状では松美池は日常的には鑑賞目的以外ではほとんど利用されていません。松美池が明るい雰囲気となり多くの人々に盛んに利用されるようになるためには、何らかのきっかけが必要です。

#### 【目的】

本企画は、松美池においてボートを浮かべ、安全に配慮した管理を行ないつつ、当該ボートに希望者が乗船し湖面を航行することができるようにすることを目的とします。ボートの管理やメンテナンス等は、本企画メンバーによって行います。松美池は水深が浅い比較的 안전한人工池であるため、ボートには何時誰でも乗ることができる状態が理想的ですが、当初は安全のために、事前に簡易的な講習を受けた上でユーザ登録を行った学生や大学関係者のみが乗ることができるような施錠管理の仕組みを構築します。これらの詳細については、大学関係部課等と適宜協議しながら決定いたします。

#### 【目標】

本企画が実現すれば、休み時間・放課後・休日等に、ユーザ登録を行った学生や教職員等が気分転換のために安全かつ気軽にボートに乗ることができるようになります。これにより、短期的な利点として、ボートの搭乗者およびそれを周辺から眺める人々が楽しみを得ることができ、よって学問や研究のための気力が引き起こされます。また、ボートを漕ぐ際の体力消費は、日頃の運動不足を解消する効用もあります。さらに、大学内の池においてボートを安全に管理運用するための知見を得ることができます。長期的には、ボートが日常的に浮び、また航行している松美池の情景が学内外に浸透し、本学のイメージのさらなる向上の実現につながることを期待できます。

その他の有益な効果としては、本企画においてボートが頻繁に漕がれることにより、水質浄化の効果を期待することができます。一般に、水流の少ない貯水池は水質が悪化しやすく、そのような水中の水質汚染物質を除去するためには、浅層曝気(せんそうばっき)法が有効であるとされています。ボートを漕ぐ際に空気が水面に触れれば、浅層曝気が起こり、水中の酸素濃度が上昇して水質汚染物質を分解する微生物が活性化し、水質が向上する可能性があります。本企画では可能であればその効果の有無を測定したいと考えます。

#### 【ボート『博士号』の経緯】

ところで、本計画の実現には少なくともボート一艇が必要となります。ちょうど、松美池付近の陸上には「博士号」という名称の足漕ぎ型の謎のアヒル型ボートが仮置きされています。このボートは、確認済みの情報によれば、十数名の学生有志(複数の学類等に所属)が、ボート遊びをするために、所有者であるつくば市にある民間企業(以下「A社」といいます。)から無償でレンタルし、大学のロゴマークや「IMAGINE THE FUTURE.」等の文字を塗装し、加えて「松美池観光マップ」や「松美池に生息する虫」などの実用的な内装を施した後に、10月15日午前中に松美池に投入したものであるということです。しかし、ボートが適切に施錠管理されておらず、かつ安全上の対策等も十分とはいえないのではないかという指摘があったことから、その後一旦、自主的に陸上に引き上げられ、返却を待つ状態となっていることが確認されました。本企画の計画者がA社に相談をしたところ、本ボートは新品同様であり現在も問題なく航行可能であり、かつ、A社としては本来のレンタル期限の11月末からさらに6ヶ月貸し出しを継続して差し支え無い旨の承諾がありました。本企画では、A社および当初の設置関係者からの了解を得て本ボートをそのまま利用したいと考えます。当該ボート「博士号」については、ボート遊びをしている様子等がインターネット上で大変話題になっているため、今回の企画を契機として博士号が松美池に復活することになれば、本学の魅力はさらに増大することは間違いありません。

### 活動計画

2013年11月 本企画を開始する。ボートの管理や安全対策について検討するため、ボートを湖面に設置して各種の安全検証や試験動作を行ない、安全上の懸念事項を洗い出す。これに基づき、今後の運用方針を策定する。運用方針について、関係部課と協議して調整し、最終的に了承を得る。本格運用を行うまでは、試験以外の目的ではボートの運航は禁止し、常時施錠する。ボート上または近傍に小型の立て札を設置し、本ボート運営に興味がある方はT-ACTのWebサイトを参照してメンバー登録することが可能である旨を案内する。

2013年12月 時期および詳細な方法は未定であるが、12月頃を目処に、ボートの一般利用のためのユーザ登録および簡易的な安全講習の仕組みを構築する。ボートのメンテナンス体制を確立する。これらの仕組みの構築においては、できる限りインターネットおよび学内ネットワークを利用することを検討する。簡易的な安全講習については、e-ラーニングシステムの仕組みを実現するのが

望ましい。仕組みの構築が完了したら、試験的に運用を行ない、問題点を見つけてそれを改善する。

2014年

1月以降 試験的な運用の結果が良好であれば、本格運用を開始する。

2014年5月 本企画によって得られた知見および効果をまとめる。

ボートの管理方法については、当初はナンバー式南京錠を用いてワイヤー施錠し、ユーザ登録者のみが暗証番号を知る方法によって行うこととしたい（暗証番号は定期的に変更する）。ただし、将来ユーザ登録者が増加した場合においては、セキュリティ上、単一の暗証番号に依存することが難しくなり、また、運航ログを自動的に生成する必要性が生じられると思われる。この場合においては、例えば学生証をかざすとボートの施錠が解錠されるような専用の係留装置を新たに考慮し、実装したい。

#### 活動期間

平成25年11月6日～26年5月5日

#### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：根本晃輔（情報科学類）、細谷啓（情報科学類）、河野拓人（情報科学類）、米司伊織（情報科学類）、平野孝則（情報メディア創成学類）、小林正樹（知識情報・図書館学類）、小西伶児（社会工学類）、佐藤賢吾（心理学類）、樋口博（情報科学類）、本巢賢史（情報科学類）、青木大祐（情報科学類）、犬塚健斗（工学システム学類）、三戸健一（情報科学類）、閑野伊織（システム情報工学研究科）、山口芽衣（生命環境科学研究科）、小西響児（図書館情報メディア研究科）

P：新城靖（システム情報系）、吉原ゆかり（人文社会系）

#### 備考

本企画における計画、立案、管理、メンテナンス、安全対策などの運営に関与されることを希望される奇特な方は、「オーガナイザー」を選択して参加してください。上記の運営に参加する予定はないけれども、ひとまず試験期間（11月、12月等）にボートに乗りたい（試験に協力しても良い）方は、ひとまず、「パーティシパント」を選択して参加登録してください。「予定希望人数」は目安であり、特段の意味はありません。

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

2013年11月

そもそも松美池がアヒルボート遊びを行うために適切な場所であるかどうかを調査するため、松美池に関する公式資料を調査した。筑波大学建設当時のいくつかの公文書を調べたところ、この池は人工池であり、池の湖畔にあるコンクリートの階段状の構造物は、「水への接近性を高めるための池中まで連続するステップ」として利用されることを目的として設置されたと明記されていた。また、筑波大学キャンパスにおいて、土地利用を犠牲にしてまでこれらの大きな池を設置した建設当時の理由は、「ボートやヨット、魚釣りや水遊びなど多角的な利用ができる」ようにするためであったことも明記されていた。（筑波大学の施設・環境計画（1982年4月）より）

上記の調査により、松美池でボート遊びを行うことは、単に適切であるというだけでなく、むしろ本学建学時に想定されていた本来の池の活用方法であるということが分かったので、本企画を推進するための気力が一段と湧き出てきた。

2013年12月

松美池でボート遊びを行うためには、松美池の注排水の仕組みについて把握しておく必要がある。そこで、施設部の協力を得て、書庫で松美池の図面を閲覧した。しかしながら、発見された図面はいずれも松美池の建設途中（池の面積が現在の半分程度）のものであり、松美池の現状を反映した図面は見つからなかった。発見された図面によると、松美池の設計上の最低水位は約50cmであることが分かった。

松美池に入り、水深を測定したところ、場所によって若干異なるが、おおむね設計水位に同じく約50cmであることが分かった。

学生生活課、総務課、広報課および施設部とのミーティングを実施した。「利用者がアヒルボート乗船中に何らかの理由で池の中で下船しなければならなくなる可能性がある。その際、池の中で利用者が転倒し、その上にアヒルボートが覆い被さった場合、利用者が湖底とボートとの間に挟まれて身動きが取れなくなってしまうと危険である。」という懸念が示された。また、専門業者に問い合わせたところ水深は60cm程度あれば望ましいという回答があったという。しかし、松美池の水深は50cm程度であり、10cm程度不足する。そこで、現在の松美池の水深50cm程度であっても安全にアヒルボート遊びを行うことができるかどうかのさらなる検討が必要となった。

2014年1月-3月

今冬は大変寒冷であり、日中であっても松美池での長期間の作業が困難であることから、活動は捗らなかつ

た。

なお、2014年2月の大雨・大雪の際は、松美池の水位が急上昇し、アヒルボートは文化系サークル会館付近の陸上にひとりでに上陸した。そこで、一時的に「近付かないこと」という内容の紙を貼付けた。その後、数人でまた池の中に戻した。

#### 2014年4月

2013年12月に懸念事項として挙げられていた水深の問題について検証するため、人間がアヒルボートの下に潜水して泳ぎ、アヒルボートの反対側から出ることができるかどうかの実験を行うことにした。

しかしながら、松美池に潜水をする者を募集したが、松美池の水は大変神々しく厳かであり、畏れ多いということから、潜水希望者は見つからなかった。

そこで、等身大のマネキン人形を1体購入し、穴をあけるなどして水を注入して沈むようにした。この状態でマネキン人形がアヒルボートの下を慣性のみでくぐり抜けることができるかどうか検証したところ、問題無くくぐり抜けることができた。また、アヒルボートに1人が乗船している状態であっても問題無くくぐり抜けることができた。これらのことから、松美池の中で転倒するなどした人の上にアヒルボートが覆い被さった場合でもその人が抜け出すことができるだけの余裕空間が存在することが分かった。

これらの実験を学生生活課職員の立会いのもとで行った。

#### ・得られた成果

残念ながら今期の大部分は寒冷であり、運用開始まで至らなかった。しかし、運用上の知見を得ることができ、また安全確認を行うこともできた。

引き続き次期企画を実施し、運用をできるようにしたい。

#### 今後の課題

松美池は冬期は大変寒く、長時間の作業が困難であることが分かった。



## 【第四弾】日本の難民問題の取り組みを通じた国際交流・国際協力 (13073A)

T-ACT プランナー 富澤 麻琴 (社会・国際学群国際総合学類4年)

### 活動内容

「えっ!? 日本に難民いるの?」

日本に難民がやってきていることをどのくらいの人知っているだろうか。

また、彼らつくば市の隣、牛久市にある施設に収容されていることを筑波大の学生は知っているのだろうか。彼らが日本社会で生活するとき、安心して暮らせるようになるにはどうしたらよいただろうか。

その答えの一つとして、私たち日本人がこの問題を「理解する」ことがあげられる。

そこで、あまり知られていない日本の難民問題を、少しでも多くの人に知ってもらいたい! 収容所にいる彼らの少しでも力になりたい! という思いから、このイベントを企画しました。

### 活動計画

\* 『あなたの一歩で世界がつながる難民交流会2013』

11月上旬 チームに分かれ準備開始

11月中旬 リハーサル・改善・調整

12月 イベント反省・報告書等作成

\* 難民問題に関する講演会 (仮)

2月 イベント実施予定

### 活動期間

平成25年11月1日～26年3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 帖佐光江子 (国際総合学類)、原知加子、紙谷あかり (国際総合学類)、後藤さや (国際総合学類)、高橋雄太 (物理学類)、清水弘次

P: 中野優子 (人文社会系)

### 備考

※社会貢献プロジェクト採択課題

※既存団体のために既にメンバーはおりますが、随時新規のメンバーは募集しています。

## 活動報告

### 活動成果

毎週水曜日

東日本入国管理センターへの訪問・面会活動

放課後: ミーティング

11月30日 「あなたの一歩で世界がつながる～ CLOVER 難民交流会2014～」開催

### 今後の課題

報活動に力を入れ、より多くの人にイベントに参加してもらうことが出来れば、一層の国際交流の効果がみられると思えました。

また、参加者が多くなることで難民問題の認知度向上の速度が上がると思います。

### 経験者からのメッセージ

何を伝えるのかの軸や想いを大切に計画的に取り組むと良いと思います!

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

今まで知らなかったという声を聞くことが出来たり交流したことで理解が深まったとの意見をもらうことが出来た。



## ● あなたの意見を言える場所 —CSC— (13086A)

T-ACT プランナー 上野 遼太郎 (社会・国際学群社会学類2年)

### 活動内容

CSCはComprehensive Students' Conference(広い範囲の学生による話し合い)の頭文字をとったものです。性別・専門・文理・学年などの垣根を越えて価値観を共有できる「場」の提供を目指します。学校帰りに喫茶店やラーメン屋へ寄るような気分で来てもらうことがコンセプトなので、運営者は固定しますが、参加者は固定しません。また、単発的なイベントではなく、日常的に話し合うというムーブメントを作ることを目的としています。CSCでゆるく気軽に話し合っ、価値観や人間関係を広げるのに役立ててもらえればと思います。

お喋り会には趣味や好きな異性のタイプなどの話題が良い気もしますが、CSCでは立場による考え方の違いがより鮮明になる、政治や社会を話題にしていくつもりです。「政治」や「社会問題」という漢字に身構えてしまう人も多いと思いますが、政治のよく分からないところや皆さんが実際にいる社会の在り方についても話し合いたいと思います。他の政治討論会と違い、あくまでも「お喋り」が中心なので、知識不足や決めつけはもちろんです。話が逸れることも一向に気にしません。むしろ、率直に思うことを共有することで見えてくるものがあると考えています。

こうした目的を達成するために、CSCは運営メンバーを中心に討論会を開きます。討論会では、最初に自己紹介をして、自分が大学で学んでいる分野の話をしたり、出身地の話をしたりします。次に、CSC運営メンバーのプレゼン担当者が、自身に関心を持つ政治や社会の問題についてプレゼンをします。このプレゼンは、話し合いの前提となる基本的な知識を共有するために行います。その後、皆でプレゼンの話題について話し合っていきます。誰かが暴走すればプレゼン担当者の主導で話を戻すこともありますが、基本的には何か言いたい人が言いたい事を言っていきます。だから、喋るように強要されることはありません。記録係がこの話し合いを記録して、後日、議事録として皆で振り返れるようにします。

自分とは違う立場の人の考え方や、政治や社会の問題について、少しでも興味のある人にはぜひ来てほしいと思います。

### 活動計画

- 1月 広報活動で参加者を増やしつつ、試運転として討論会を開き、団体の在り方を探る。テーマの1つは若者論だが、その他の詳細は未定。
- 2~3月 上記の活動に加え、可能であればSNSを使った意見交流会を実施し、運営者は新入生の勧誘や今後の活動について計画を練る。
- 4~6月 より良い活動を目指し、次のT-ACT申請のための方向性を検討する。

### 活動期間

平成26年1月14日~26年6月13日

### T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 藤木耀(国際総合学類)、大木啓太(比較文化学類)、山下史雅(比較文化学類)、本間信和(教育学類)、齋藤駿介(社会学類)

P: 五十嵐沙千子(人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 1月16日 近況報告会
- 1月24日 討論会「一部で流行っているらしい若者論」
- 1月30日 討論会「日本人の青い自殺」
- 3月25日 討論会 → 中止
- 5月01日 討論会 → 中止、ミーティングに変更
- 5月22日 討論会「教師って何だろう？」
- 5月28日 討論会 → 中止

※加えて、イベントや企画に関する、facebookでの情報交換。

#### ・目標達成度

討論会を開いている時点で目標は達成しているが、参加者の日程が合わず、中止になった討論会が多くなって

いる。  
これは春休みと新歓による要因が大きいと考えられる。

#### ・得られた成果

討論会のための資料が3回分。

その内、議事録 1 回分。資料に議事録を書き込んだものが 1 回分。

#### 今後の課題

- ・日程の調整
- ・記録作成過程の洗練

#### 経験者からのメッセージ

ポイントは宣伝

#### 運営者側から見たパーティシパントの変化

討論会の開催の度に、「面白かった」「勉強になった」という感想を耳にした。

学類の垣根を越えた討論・意見交換は、多角的な思考を身につけることに貢献できただろうし、背景となる知識を異にする人に自分の意見を伝える能力を磨ききっかけにもなったと思われる。

#### T-ACT に関する感想

登録・記録・報告を志向すると、雰囲気は固くなるのでオーガナイザーやパーティシパントについて細かい事を言わないで済むようにさせてもらえると助かります。

**活動内容**

2011年3月11日に東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災が発生しました。あれからもうすぐ3年経とうとしている今でも、完全に被災地が復興したとはいえません。被災地で困っている人々のために何か力になりたい。少しでも手助けしたい。そう発生当時思った方、今もそう思っている人は多いのではないのでしょうか。

僕もそう思い、今もそう思っている一人です。

しかし、僕は被災地に実際足を運んで復興支援をしたことは今までありません。

それは、ボランティアというものに懐疑的だからです。どんなに崇高な理念のもとで被災地にいったとしても結局偽善に過ぎないのではないだろうか、行くことで自発的に立ち直る人の妨げとなるのではないだろうか…様々な疑念が僕の中にあります。行って被災者の方の力になることがどんなに尊いことかも理解しているつもりですが、どうしてもボランティアそのものを好きになれなかったのです。

こうした僕と同じような考えでボランティアをためらっていた人は少なくないのではないのでしょうか。

今回、僕がやろうとしている企画は基本理念としてボランティアだけど普通のボランティアじゃないを掲げています。

それはどういうことかという、従来の僕たちが想像するボランティアのように瓦礫の撤去や被災者の方の心のケアを意識的に行っていくものではなく、それらの瓦礫撤去や建物の修繕などを物理的復興と位置付けたときに、文化的復興を支援するといった形のもので。

震災から月日が流れ多くの人々の支えなどである程度のボランティアを前提とした物理的復興は進んできているそうです。その反面、日本人の多くの中で震災の記憶がだんだん薄れていっています。本当に僕たちは震災を忘れていいのでしょうか？

そして原発事故が震災と同時に起きた関係で未だに根強く特にフクシマを中心として東北にはネガティブなイメージが付きまとっている気がしてなりません。

東北にすむ人々、フクシマの人々は懸命に立ち直ろうとしているのに、それを見ずに暗いイメージだけが残っています。

なのでそのイメージを変える。人々の意識を少しでも変える支援がしたいのです。文化的な震災処理をするときが来たのではないのでしょうか。

そのために具体的には実際に被災地に足を運び、被災者の方の話を聞きたいと思います。それが大きくイメージを変える大きな行動だと思うからです。

そして、帰ってきてその実際見て聞いて感じたことを広める。この広めるということが大きなポイントです。

ただそれだけ？と思った方もいらっしゃるかもしれませんが、それだけです。一見小さな試みから広がっていくと思っています。とにかくいろいろな人に実際に東北、フクシマにってもらうこと。そうすることで経済的にも文化的にも復興に必ず繋がるでしょう。東北、フクシマが希望の場所、希望の言葉になるための第一歩なのです。もちろん実際に行ってみて、帰ってきて話を広げて、そこから何かをまた考えて行動するということが計画のうちです。とにかく行ってみたら考えよう。そのためのボランティアなどのハードルは低くするというのがコンセプトです。

被災地、特にフクシマに行くにあたって放射能問題でこの活動自体を懸念する方も多いでしょう。だから行く前に徹底的に話し合います。このみんなと震災、東北、フクシマについて話し合うことこそが大きな目的です。そうすれば忘れないから。

まとめると

- ・従来の震災ボランティアではない
- ・実際に被災地に行ってみることが重要
- ・基本的には、ただ行くだけで、震災に対する問題提起をする
- ・徹底的な話し合いとフクシマの今をたくさんの人に伝えることが目的

そして最終目標は、ここから次の活動を生み出すことです。みなさんの興味を引き出して、そのみなさんの熱い思いから現実的な復興に対する方策、活動が生まれることを目指します。

僕は、今ある震災ボランティアの受け皿となるように活動していきます。

文化的復興を念頭にして。

**活動計画**

1月～2月上旬 (活動開始：準備・討論)

- ・参加希望者、震災の復興に興味ある方を集めて、この被災地に観光をしに行くということの是非、震災被災地の現状とこれからなどをテーマに討論会を複数回開く。

- ・ 討論会であがった意見を参考にして具体的な被災地訪問計画（日程や場所など）をたてる。協力していただける現地の方を探す。

2月上旬～3月（活動①：初訪問）

- ・ 春休みを使って、被災地を訪問し、現地の人の話を聞く
- ・ 並行してミーティングを開き、メンバー内で徹底的な話し合いを行う

4月（活動②：報告会）

- ・ 被災地訪問で実際に見た被災地の現状を伝える報告会を筑波大学の全学生を対象としてできるだけ多くの人数を集め開催する

5月（活動③～活動終了）

- ・ GW 休暇を使って再び被災地を訪問する
- ・ 活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年1月14日～26年5月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：藤木耀（国際総合学類）、大木啓太（比較文化学類）、飯島唯（比較文化学類）

P：吉野修（人文社会系）

## 活動報告

### 活動成果

#### 【活動内容】

- ・ 1月7日 活動承認（発案段階で賛同者4人）
- ・ 説明会 & 打ち合わせ（1月14日、1月22日、1月27日、1月29日）  
→みにぶろの理念について説明した後に、実際の訪問について話し合い
- ・ 2月8日 プランナー、オーガナイザーによるいわき・双葉郡事前視察
- ・ 訪問の事前説明会（南相馬：2月19日 いわき・双葉郡：4月15日、4月17日）
- ・ 3月4日～5日 南相馬訪問（参加者 11名）
- ・ 3月25日から4月22日 中央図書館で他2団体と展示
- ・ 4月29日 いわき・双葉郡訪問（参加者 17名）
- ・ 5月15日 活動報告会（約10名参加）

#### 【目標達成度】

7割くらいといったところ

実際の東北の被災地への訪問には2回とも10人以上の参加者があり、みんなと行くことでまた大きな成果が得られた。

ただ話し合いによって訪問先だったり、日程を決めるということができず、結局はプランナーの独断だったので残念。そしてもう少し告知していろんな人に知ってもらうべきだった（結局は知り合いの知り合いにしか広がらなかったの）

#### 【得られた成果】

未だ終わっていない震災後の問題に対する認識の広がり

### 今後の課題

欲を言えばもう少し参加者、説明会参加者が欲しかったので、宣伝を頑張りたい。できれば知り合いの知り合いに広がっていくというだけでなく、全く知らなかった人たちにも広がっていくようにしたい。

また勉強会のような形で事前に知識を共有できなかったのでそういったものを今後開催していきたい。

### 経験者からのメッセージ

こちらからのプランの押しつけにならない形が望ましいです。一緒にパーティシパントとプランを作り上げていくという姿勢がある程度必要な気がします。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

積極的に意見を述べてくれたり、やはり震災というもの、震災後ということに対する意識が個人個人変わったと思います。

### T-ACT に関する感想

いつもありがとうございます。印刷が本当に助かりました。



## ● 陸前高田ドキュメンタリー『あの街に桜が咲けば』上映イベント@つくば (13090A)

T-ACT プランナー 田中 宏明 (人間学群心理学類4年)

### 活動内容

陸前高田ドキュメンタリー『あの街に桜が咲けば』

“岩手県陸前高田市内の津波到達地点に桜を植える活動を行う NPO 法人 桜ライン311 や戸羽太陸前高田市長を中心とした人物のインタビュー映像を通し、東日本大震災を経験した人間の強く生きる姿勢や命の尊さを伝えると共に、減災意識の喚起を訴えるドキュメンタリー映画。(陸前高田ドキュメンタリー『あの街に桜が咲けば』公式サイトより)”

東日本大震災から約3年が経とうとしている中で、今なお被災地で活動を続けている人たちがいます。この上映会開催によってそうした人たちの思いを伝え、参加者の災害対策への意識を喚起させることを目的としています。最終的には、次どこかで起こり得る災害に対しての何らかのアクションを起こせるような、大切な家族を守る人が参加者の中から現れてほしいと思っています。

### 活動計画

- 1月 ・オーガナイザー募集  
・開催場所決定
- 2月 ・参加者募集開始  
・当日コンテンツなどを MTG で検討
- 3月 ・上映担当者側と最終調整
- 3月20日(木) ・開催
- 3月末まで ・反省、活動のまとめ

### 活動期間

平成26年1月14日～26年3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：米倉元気 (心理学類卒)、川嶋賢治 (障害科学類卒)

P：手打明敏 (人間系)

## 活動報告

### 活動成果

#### 【当日までの準備、活動内容】

- 2月3日 ミーティング (パートナーの選定や、日時、参加費、会場の設定など)
- 2月14日 参加者募集開始
- 2月18日 ミーティング (コンテンツ内容の提案、集客目標の設定など)  
司会と顔合わせ
- 2月21日 フライヤー作成
- 2月25日 ミーティング (広報活動の確認)
- 3月3日 ミーティング (広報活動の確認、コンテンツの最終確認)
- 3月10日 ラヂオつくば出演
- 3月15日 常陽リビングに掲載

#### 【得られた成果】

本映画の全国上映イベントの趣旨に則り、減災について考えてもらうきっかけが提供できた。来場者のアンケートでは「いつ起こるか分からない災害に直面する前に自分に今できることは何か」という映画のメッセージが印象的だったという回答が多かった。

また、特別コンテンツとして行った「イマカラ宣言」では、来場者それぞれが考える、大切な人のために今からできることを提案してもらった。高校生からご年配の方まで、笑顔で自分の大切な人のことを語り合える暖かい空間が作ることができた。

### 今後の課題

#### 【反省】

- ・駐車場、バス停から会場への案内が不十分だった。
- ・機材の接続について詳しいスタッフがおらず、当日の準備ではギリギリまで時間を要した。

### 経験者からのメッセージ

- ・3月というなかなかパーティシパントが集まりにくい時期ではありましたが、コンテンツの魅力と入念な打ち

合わせのおかげで当日はアクシデントにも対応できるような落ちついた進行、ファシリテーションが達成できました。よくイベントを開催する際に「準備・練習が8割」という言葉がありますが、むしろ95%くらいは始まる前までのリハーサル、打ち合わせによって出来が決まるのではないかと思います。そのくらい、本番に臨む際にはそれまでの時間のベストを尽くしてほしいと思います。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

コンテンツでは、大切な人を思った時に自分に今できることとして「イマカラ宣言」を考えてもらいました。復興過程の活動→減災活動→今自分にできること（ex. 家族に電話する、友達と防災について話す、など）という流れがゆるやかに促せるワークをしました。参加者の方々のアンケートでは映画の内容についてだけでなく、自分にできることをやりたい、宣言をしたことを帰ったら実行したい、などの意見が得られ、多少なりとも減災意識の喚起が促せたと考えられます。

### T-ACT に関する感想

T-ACT サポーター主催のファシリテーション講座なんて開いてもおもしろいですね。ていうか、ぼく復学したらやりたいです。笑

T-ACT の枠組みだけでなく、広い分野で役に立つスキルが学べる場であっても良いですね。

## つくばで恋チュン (13091A)

T-ACT プランナー 星 善之 (人文・文化学群人文学類4年)

### 活動内容

現在 YouTube には恋するフォーチュンクッキー (AKB48) の PV を模した作品が多数上がっている。

私は筑波大学 Ver の大規模な恋するフォーチュンクッキー PV を作りたいと思っている。最終的には AKB48 公式アカウントの目に留まり、公式アカウントのほうでもあげてもらえるようにしたいと思っている。

### 活動計画

1月下旬まで 申請と同時進行で参加者の募集・依頼  
撮影・編集班を集め、全体の構成を決定する。  
撮影日程の決定。

1月下旬から

2月上旬 撮影  
撮影後～

2月下旬 編集・アップロード  
アップロード後、報告書提出

### 活動期間

平成26年 1月 9日～26年 2月23日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：有馬俊 (芸術専門学群)、大西彩美 (人文学類)、岡崎雅 (障害科学類)、小串尚也 (情報メディア創成学類)、  
田中大輔 (心理学類)、中山優吾 (数学類)、森田みのり (人間総合科学研究科)

P：増田宗悟 (広報室)

### 備考

人数は、映像に出演してほしい人数です。もっとほしいところです。

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

1月～6月まで 個別撮影

およそ、20団体、のべ150人以上の生徒、職員の方々の撮影を行いました。

新歓本祭にてゲリラ撮影会。

MT 等は定期的にラインなどで行う。

学副コンにおいて、説明を行う。

編集会議を5月に1回、6月に1回。

7月中に公開。

プレ公開からの公式 HP 上での公開。

#### ・目標達成度

数値で言えば120%。

200%にならなかった理由は、予定を大幅に遅れての撮影、公開などを行ったこと、メンバー内での協力体制をきちんと取れなかったこと。

100%を超えたこと。

完成した作品は、他の「恋するフォーチュンクッキー .PV」よりも完成度の高い、PV 作品となっている。

撮影されている学生、職員の方々の表情がいきいきとしていて、この大学の魅力を伝えているように思える。

#### ・得られた成果

活気あふれる大学生の様子を伝えるだけの十分な映像となっていた。

職員の方々のご協力のもと学生を中心としたメンバーで長期間にわたる撮影を無事終えることができた。

大学の評判、というのは、その大学だと分かること、ではなく、その大学にいる人たちの様子、がもっとも大事だということが分かりました。また、映像作品としてもクリエイティブで、質の高いものを作り上げることができた。

### 今後の課題

映像に取り組むにあたって、映像経験者などへの意見聴衆を早い段階で行うことが大切。

メンバーの役割、をきちんと定め、何をしなくてはいけないのかを判断、行動に移せるようにする。

**経験者からのメッセージ**

一人ではできなかったプロジェクトを、学類や学年を飛び越えて取り組めるいい場所が T-ACT、という場所です。

何か、したい、と思ったら、まず T-ACT に相談するといいでしょう。

**運営者側から見たパーティシパントの変化**

参加者は撮影に参加するたびに笑顔になっていた。その理由は、出会う先々の人たちの笑顔に触れていたから。間違いなく、映像制作を通して、僕たちの笑顔は増えたとし、参加者も普段出せないいい表情を出すことができていた。

僕らは常に固まってしまった心を解きほぐす瞬間を渴望している。その瞬間を提供できる自信につながったように思える。

## ● 学生フォーミュラに参戦しよう！ (13092A)

T-ACT プランナー 中村 匠実 (理工学群工学システム学類2年)

### 活動内容

全日本学生フォーミュラという魅力的な大会に参戦する足がかりとして申請しました。

最終目標はまさにそのまま、全日本学生フォーミュラ大会に参戦する(ための最低限の準備を完了する)ことです。

一見サークル活動の様ですが、あくまでも参戦へのファーストステップなのでサークルとは異なります。

とはいえ、T-ACTでの活動でサークルを新設することまで含んでいるので、T-ACTでの活動が終了してからも学生フォーミュラを続けたいというメンバーを募集します。

マシン製作以外にもホームページ制作等も参戦には必要なため、興味があるならば、工学系のみならず幅広い分野(文系含)のメンバーを募集します。

ものづくりは決して楽ではありませんが、本当に楽しいことですので、その喜びを得ることがこの活動に参加するメリットとなります。

### 活動計画

3～4月 メンバー募集

T-ACTの広報活動等を積極的に利用してメンバーを募集する。  
新歓時期を有効活用することでより多くのメンバーを集める。

5月 参戦への詳細な計画を練る

集まったメンバーで参戦目標時期、マシン作成計画等を練る。  
同時に、顧問教官も協力して探す。

6～7月 スポンサーを探す

参戦にあたりスポンサーによる支援は不可欠のため、その企業の選定・支援の依頼を行う。

8～9月 サークルへ昇華 & 技術的勉強

サークルとして新設するための諸手続きを行う。

又、近隣の茨城大などが学生フォーミュラに参戦しているため、出向き、技術的なアドバイスを  
受けることで実際にマシンを作るための知識を得る。

### 活動期間

平成26年3月1日～26年8月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

〇：市川晃(心理学類)、梅野隆一(情報科学類)、小山玄(工学システム学類)、斎藤充浩(工学システム学類)

### 備考

サークル活動を目的としているのではなく、あくまでも学生フォーミュラ大会の参戦の第一歩として、メンバー募集などを行います。T-ACTでの活動終了迄に金銭の授受が関わることはありません。

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

2月13日 初回 MT 新歓の方法について議論

3月1日 第二回 MT 新歓ポスター・ビラについて決定

以後、不定期(月3回程度)でMT実施(日時の記録を失念した)

#### ・目標達成度

当初の目標である、学生フォーミュラ参戦の為の有志を募る、という目標は達成された。9人のメンバーが集まった。

また、一般学生団体として申請を行い、認定を受けた。これにより、T-ACT終了後も継続的な活動を行うことが可能となった。

電動レーシングカートの製作も開始した。しかし、この段階で工作機械の使用交渉等で問題が生じ、停滞してしまった。

#### ・得られた成果

一般学生団体として申請するために顧問教諭を探し、交渉した際、団体として今後どうあるべきか考えさせられた。

具体的にどのようなステップを踏んで学生フォーミュラに参戦するか、という点は特に悩んだが、必要なことであつたと思う。

**今後の課題**

T-ACT のシステムを、初期のポスターによる広報程度しか利用しなかったので、T-ACT で活動する意味が無かったかもしれない。

しかし、初動のきっかけとなったのは大きい。

**経験者からのメッセージ**

何かをやりたくて0から団体を立ち上げるのは、やりたいことが全然出来ないのも、苦痛でした。

でも、既にあるものに乗っかるのでは出来ない経験が出来るので、そこで得るものがあった。

**運営者側から見たパーティシパントの変化**

有志が集まっているので、やる気は皆あった。

**T-ACT に関する感想**

T-ACT のシステムをほとんど利用しなくて申し訳ありませんでした。

しかし団体としては活発に活動していました ...

## Eating Place Map for Muslim Project part2 (13093A)

T-ACT プランナー 榎府 奈緒子 (社会・国際学群国際総合学類4年)

### 活動内容

ムスリムをはじめとする食事制限のある留学生が増えてきていますが、大学内の食堂、周辺の飲食店ではそのような人のための配慮があまりなされていないことが多いと感じています。また、ハラルカフェの閉店によって留学生の中には食事の場がなくなってしまう不自由を感じている留学生も多いことを知りました。このプロジェクトは、ムスリムの留学生に対してハラムについて必要な情報を提供することを目的としています。ハラムの遵守基準は出身地域や個人によって異なるため、プロジェクト独自のハラム基準を設定し、マニュアルを作成します。

このマニュアルをもとに、学内の食堂や弁当・パン等の売店で食品ごとにステッカーやマークを表示するように協力を依頼し、その後大学周辺のお店にも協力を依頼します。協力頂いたお店は Eating Place for Muslim Map (グーグルマップで作成) にマーキングします。学食や周辺の飲食店の方にご協力頂いて食事制限をしなくてはならない可能性のある食べ物(豚肉、アルコールなど)がわかるメニュー作りやその協力店をマップにして必要な留学生に活用してもらおうのが最終目的です。

前回の活動機関では、マニュアル作成と学食への依頼に留まってしまったので、今回は学食への導入の交渉の継続と大学周辺の飲食店への働きかけを行います。

Our aim in this project is to provide Muslim students with information about Haram food around/on/near our campus. In order to do that, we need to give simple explanations about Haram food to non-Muslim people, particularly those who work for the restaurants. The standard of Haram however differs depending on countries where the Muslim students grew up in and by individual standards. We talked with Muslim students and decided to go with the basic definition of Haram; pork and alcohol. We believe that this simple definition would help in writing guidelines for the restaurants and eateries.

Based on this guideline, we will ask the restaurants, baker shops and lunch box shops in the university for assistance to show the ingredients of their food. After that, we will also appeal to restaurants nearby this university for cooperation. Restaurants that approve of our project will be marked on "Eating Place for Muslim Map". This map is available online for every student who needs information about it.

### 活動計画

- 1月 学食へのプロジェクト紹介、導入に向けての話し合い
- 2月 学食への働きかけ、大学周辺のお店への協力呼びかけ
- 3月～6月 協力店の拡大、地図作り

### 活動期間

平成26年1月24日～26年6月24日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : HAMIZAH BINTIHASSAN HAMDANI (理工学類)、Hidayah Binti MegatNabi Mohsin (国際総合学類)、堀内 葉 (比較文化学類)、ABDUL KARIM (物理学類)、TSUKAMOTO SAYO (国際総合学類)、NUR AKMAL BINTI MD ABDUL AZIS (国際総合学類)、Humayun, Qaisar (人文社会科学部研究科)、Jammo, SariHussein (人文社会科学部研究科)  
P : 吉原ゆかり (人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

毎週火曜日のミーティング

学食へのハラル食品の表示がされた英語メニューの掲示依頼

#### ・目標達成度

80% (最低限の目標であった、学食へのハラル食品の英語メニューの掲示を一部の学食で実現できた)

#### ・得られた成果

粉とクリーム、3学小食堂のハラル食品表示の英語メニューの掲示

### 今後の課題

- ・日本人の宗教観と留学生の宗教観の違い

- ・それぞれ所属や身分が違うため予定を合わせるのが難しい
- ・学食とコンタクトを取るまでの過程が煩雑

#### 経験者からのメッセージ

とにかくやってみたいと思ったことには挑戦してください!!

大変で、辛くて、上手くいかないのが当たり前です。

その中でどれだけ前向きでいられるか、工夫ができるかが大切です。

#### 運営者側から見たパーティシパントの変化

当初は、大学や参加者、思い通りにプロジェクトが進まないことに対して苛立ちを見せるパーティシパントが多かったが、終わりの方では積極的に仕事をしてくれたり、前向きに話し合うことができるようになっていた。

#### T-ACT に関する感想

T-ACT 参加者同士がもっと気軽に交流できるような機会・システムをウェブ上でも交流会でもいいのもっと増やしてほしいです。



## ● ラヂオつくばで T-ACT を広めよう！ (13097A)

T-ACT プランナー 佐塚 崇恭 (人文・文化学群比較文化学類4年)

### 活動内容

ラヂオつくばを通じた、大学生と地域の交流促進を目的とします。

そもそも、大学側からの働きかけがあってラヂオつくばが立ち上げられた際にも同様の意図がありましたが、今まで意図に沿った活動が行われていなかったことから、今回、T-ACT の企画として立ち上げることになりました。

ラヂオつくばで T-ACT の番組を放送することで、T-ACT 活動の広報宣伝や、番組企画を通じた地域との交流をはかることができ、学生はもちろん、ラヂオつくばや地域の活性化にもつながります。

### 活動計画

活動期間を通じて、継続して以下の活動を行います。

#### 1. ラジオ番組「筑波大学 T-ACT サテライトフォーラム」の運営

ラヂオつくばにて隔週火曜19:00-19:15に放送されるラジオ番組の、企画・運営・制作を行います。この番組には、T-ACT 活動の広報・T-ACT 企画のサポート・地域との繋がり場の場としての機能を期待します(番組は1月28日に開始)。

#### 2. その他の活動

番組制作にあたり、オーガナイザーの興味関心に応じて、活動内容をラヂオつくばに提案していきます。

### 活動期間

平成26年1月28日～26年6月30日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

P: 廣田春夫 (学生生活課)

### 備考

半年間、継続して活動を行うため、いつでも参加を歓迎しています！ラジオが好きな人、番組制作やラジオを通じた地域貢献に興味がある人、大歓迎です！私たちと一緒に、ラジオを作りませんか？

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

2014年1月から6月の間、隔週火曜日に『筑波大学 T-ACT サテライトフォーラム』という名称で、FM84.2MHz ラヂオつくばにて放送する番組の制作を行いました。

T-ACT 団体にゲスト出演していただきながら、T-ACT の活動についての広報活動を行いました。

#### ・目標達成度

番組の制作で手一杯で、メンバーを集め、組織として番組運営をすることができなかつたことが反省点として挙げられます。ただ、放送のルーティーンを守り、多くの T-ACT 団体の広報を行えた点では、目標を達成していると言えるのではないかと考えます。

#### ・得られた成果

ラヂオつくばという地域メディアにおいて、T-ACT 活動の広報を行うことができた。

### 今後の課題

受動的にメンバーを集める(〇〇に興味がある人、〇〇をしたい人を募集する)ことが非常に困難であると感じました。

多くのメンバーでアクションを動かしたいならば、自分からもっと積極的に声掛けを行っていくことが必要で、広報手段をもっと利用する(利用する余力を残しておく)べきだったと思いました。

### 経験者からのメッセージ

「何かしたい」と思ったときに、T-ACT には「何かができる」環境が整っていると感じました。ただし、当然ですが、企画を立ち上げただけで満足してはいけません。この環境を生かし切れるかどうかは、そのアクションにかける情熱と行動次第です。ぜひ、T-ACT をきっかけに様々なことに挑戦してほしいです！

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者なし。

## T-ACT に関する感想

アクションの内容に関して、親切丁寧に相談に乗っていただきました。ありがとうございました。



## 筑波大学「エドワード・サイド OUT OF PLACE」上映会 (13098A)

T-ACT プランナー 大田 隆之 (人文・文化学群比較文化学類卒業生)

### 活動内容

前回1月25日に行った映画「阿賀に生きる」の上映会に引き続き、同じ佐藤真監督作品「エドワード・サイド OUT OF PLACE」(2005年)の上映会を行います。

『オリエンタリズム』や『文化と帝国主義』などの著書で世界的に知られるパレスチナ出身の文学者エドワード・サイド。

監督の佐藤は、サイドの死後、彼の自伝『遠い場所の記憶』だけを頼りにアメリカ、イスラエル、パレスチナ、レバノンを渡り歩き、サイドの生の痕跡を辿った。

「サイドが“OUT OF PLACE”であることをあえて選ぶことを引き受けようとしたのは、宗教、民族、国家というアイデンティティは元来流動的で選択可能なものであるはずだからである。そう考えた私たちは、中東諸国を廻りながら、宗教、民族、国家が流動する場を求めて撮影をつづけていった。」(『エドワード・サイド OUT OF PLACE』18頁)

故郷を喪失した人が、不安定で揺れ続けるアイデンティティを大らかに受け止めるそのあり方に着目した、“サイド不在の”サイドに関する映画。

映画上映後は、本作の製作に携わった中野真紀子さん(翻訳者)と秦岳志さん(編集者)をゲストとして迎え、会場からの質疑に応じていただきます。

日時は3月初旬。場所未定。

### 活動計画

- 1月末 企画立ち上げ、ゲスト決定、日時確定
- 2月 場所確定、メンバー集め、カンパ集め、広報
- 3月初旬 上映会  
メンバーで反省会、活動報告書等作成

### 活動期間

平成26年1月27日～26年3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 森林駿介 (人文社会科学研究科)

P: 清水知子 (人文社会系)、佐藤吉幸 (人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

ゲスト: 中野真紀子 (翻訳家)、秦岳志 (映画編集者)

映画上映 (2h19min)

ゲスト講演 (1h)

### 今後の課題

宣伝力不足。

チラシ配りをやれば良かった。

### 経験者からのメッセージ

僕がやったのは中東問題を扱う、いわゆる「社会派ドキュメンタリー」映画の上映会ですが、その準備にあたって1ヶ月ほど、本を読んだり、映画を何度も見たりして、自らが勉強する機会になりました。

また、上映会を通して、ラヂオつくばの井上さんと懇意になりました。大学卒業後も、メールで頻繁に連絡とっており、仕事の相談にもものってもらっています。友人よりも、連絡をとってるくらいです。

イベント運営は、発見と新しい出会いに満ちていると思います。

## ● 球面のボードゲームで遊ぼう (13101A)

T-ACT プランナー 栗原 泰成 (理工学群工学システム学類3年)

### ● 活動内容

#### 企画立案の経緯

高校卒業後、「球面でボードゲームをする」という着想を思いついたので、いろいろなボードゲームについて球面の盤面の構想を練った。結果としてリバーシについては遊べる模型が完成し、コンピュータゲームも製作中である。また、その他のボードゲームの製作にも着手しつつある。

※参考になればと思い画像を添付したかったのだが、載せ方がわからなかった。

そうした活動のなかで、いろいろな人に遊んでももらいたい、少数の友人に教えるだけではもったいないと思った。今日では、公表の手段として作ったコンピュータゲームをネット上にアップロードするのは容易である。しかし、自分はそれだけではなく、球面のボードゲームで遊ぶ集団をつくるのが良いと考えた。理由は以下の通りである。

1. ボードゲームなので、実際の三次元空間でもゲームを作って遊べる。コンピュータ内のみで完成させて終わりにするのはもったいない。
2. ディスプレイに映すと球体としての立体感があまり感じられなくなる。
3. どのような戦略がつよいか不透明なため、対戦用コンピュータを搭載する上で研究が必要で、それには人間同士で（できればボードゲームに詳しい人とともに）討論しデータを蓄積しつつ製作したほうが良い。
4. 対戦している人同士の親睦を深めるのに役立つ。

このことから活動の目的には次が挙げられる。

#### 最終目標

「(例) 球面ボードゲームサークル」というような、球面のボードゲームの設計、製作、ゲームの試行、公表を目的とする学生団体を創設する。メンバーには、それぞれのボードゲームの経験者とゲームプログラミングのできる人が含まれていることが望ましい。

その後、定期的に集まって活動を行う。ホームページなども製作する。

最後に、T-ACT での活動が終わったのちも、学生団体としての活動は継続していきたいと考えている。(雙峰祭での展示など)

### ● 活動計画

#### 2014.3月半ば 活動開始

少数の知り合いをメンバーとし、目標や構想を知ってもらう。ボードゲームの製作を進める。

- 3月～5月 ボードゲームのサークルを訪問し、経験者(上級者)でメンバーになってくれる人を探す。  
ゲームプログラミングについても同様にメンバーを探す。  
ボードゲームの製作・試行を進める。

4月末 学生団体の設立。活動拠点を定め、定期的に集まり活動を進める。

#### 2014年 5月 活動終了

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

T-ACT では活動を終えるが、学生団体としての活動は継続する。

### ● 活動期間

平成26年 3月15日～26年 5月 1日

### ● T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 上田喬介(工学システム学類)、高園悠輔(工学システム学類)、富樫宏太(工学システム学類)

P: 延原肇(システム情報系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 2月13日 企画申請
- 2月18日 T-ACT フォーラムにて企画内容の相談
- 2月20日 オーガナイザ募集が終わりメンバーがそろそろ
- 2月22日 リバーシ(CP)が一応形にはなる
- 3月 5日 ダイヤモンドゲーム(盤)が完成
- 3月24日 ペグソリティア(盤)完成
- 4月 7日 教職員パートナー決定

4月8日 オーガナイザ皆と話し合い、活動の方針など話す

4月24日 T-ACT フォーラムにて今後の方針の相談・学生団体設立の書類を受け取る

5月1日 活動終了

#### ・目標達成度

パーセンテージでいうと50%

##### 根拠

1. 計画と照らし合わせみると、肝心のメンバー集めの前で企画が終了していること
2. 個人的な成長度合いとして、目標としている行動力・周りに訴えかける力がまだ養えていないこと
3. ボードゲーム作りが納得のいくところまで行っていないこと

#### ・得られた成果

1. 企画開始前と比べれば行動力が増した。
2. ボードゲーム作りが進んでバリエーションが増えた。
3. 定期的にはできなかったが対戦データが少し集まった。

### 今後の課題

#### 1. 自分のやるべきことに対する行動開始の遅さ

例えばメンバーを募るためにボードゲーム団体にアポイントをとる場面で、そのままにボードゲームを作るべきなのではなどと優先順位的迷いが生じたり、単に自分本来の行動力の不足からずるずる先延ばしになっていき、なかなか次のアクションを起こせなかった。

結果として半ばで活動が終わる羽目になった。

#### 2. メンバーを動かすことの難しさ

運営メンバーになってもらった方がいいものの、あまり仕事をしてもらうことがなかった。何を任せたらよいかわかっていない自分がいた。

### 経験者からのメッセージ

「クリックひとつで夢が叶うなら誰だってやるよね?」

ということを頭に入れてほしい。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントを募る前に企画が終了してしまったため運営メンバーについてのみ記述します。

#### オーガナイザ

企画に参加してもらって一緒にやったことが、ボードゲーム作りとそれをやってみての検討、あとはどういうサークル活動にするかの話し合いくらいだったので、なにかが変化したとはいいいにくいと思います。

### T-ACT に関する感想

#### 感想

活動を起こすことを一度経験してしまえば二度目からはそう高いハードルでもないことが実感できました。継続企画を申請する予定なので今度こそ目標を達成したいです。

携わっていただいた皆さんのサポートには感謝しています。

#### 要望

できれば申請画面などに画像を貼れるようにするとよいと思います。

## 筑波大学にヒーロー・アクションサークルを作ろう！ (13102A)

T-ACT プランナー 高橋 一貴 (システム情報工学研究科 M1)

### 活動内容

ヒーローやアクションが好きな人で集まり、筑波大学にヒーロー・アクションを広めたいと考えた。そこで、ヒーロー・アクションサークルを作るため、ヒーローやアクションが好きな人を集め、活動の広報を行いたいと考えた。T-ACTでの活動を通して団体としての基礎を築き、その後は学生団体としての活動を目指している。また、参加希望者が集まったら、ヒーロー・アクション映画鑑賞会や各種ヒーローイベントへの見学会なども企画したいと考えている。ゆくゆくは、筑波大学オリジナルのヒーローの作成、学園祭での筑波大学の学生によるヒーローショーの実施、つくば市を拠点とした幼稚園・小学校や各種施設でのイベント・お祭り等でのヒーローショーの実施などができればと考えている。まずはその第一歩として、このT-ACTを活用してヒーローやアクションが好きな人を集めたい。

### 活動計画

- 3月 活動開始、広報資料の作成
- 3月～8月 広報活動
- 5～6月頃 映画鑑賞会やヒーローイベントの見学会の実施
- 7月～8月 学生団体設立へ向けた準備
- 8月 活動終了・報告書のまとめ

### 活動期間

平成26年3月5日～26年8月5日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：金枝慧 (応用理工学類)、須藤諒一 (芸術専門学群)
- P：矢澤真人 (人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

- ・活動内容
  - 4月～5月 広報用のビラを作成。各種掲示板への掲示および配布 (ビラの配布は4月～5月の間：週1回)
  - 5月～ 学内の施設での練習 (週1回 @ 総合体育館・実習室)
- ・目標達成度
  - 6割程度 (ヒーローやアクションが好きな人を集めることができた。団体としての活動を行うことがあまりできなかった)
- ・得られた成果
  - ヒーローやアクションが好きな人で集まることができた。団体独自の活動をするのはあまり出来なかったが、繋がりを広めることができた。他にも興味を持っている学生が数名いるそうなので、今後も団体としての活動を続けて、ヒーロー・アクション好きな人の輪を広げていきたい。
  - また、学園祭でのショーの実施が決まり、準備を進めているところである。

### 今後の課題

宣伝はビラ配りしかしておらず、ミニショーなどを行って大勢の興味を一度に引くことができたなら良かったと思う。学園祭でショーをやる予定なので、そこでその反省を活かしたいと思う。また、2年生しか集まっていないので、より多くの学年から参加者を集めたいと思う。

### 経験者からのメッセージ

参加者集めが一番大事。そのために必要なのが広報活動ですから、大変だとは思いますがそこは手を抜かずに頑張りましょう。知ってもらうことが自身の活動を広めていくための第一歩です。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

活動を進めていく中で、参加者が自分から積極的に動いてくれて、自分は指示出し等をすれば大丈夫な状況でした。

### T-ACT に関する感想

行けばいつでも質問に答えて下さり、手厚いサポートで安心して活動に取り組むことができました。

## Astro Cafe ～未知の宇宙への招待状～ (13104A)

T-ACT プランナー 佐々木 さゆり (理工学群物理学類4年)

### 活動内容

主に新入生に向けて、宇宙に興味を持ってもらうための宇宙系サイエンスカフェを開催する。新入生だけではなく、様々な学生と一緒に、天文学や宇宙工学など幅広く宇宙について楽しみながら学べる場を提供したい。

### 活動計画

- 3月～4月 イベント内容の計画、広報
- 5月上旬 Astro Cafe の開催
- 5月末 活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年3月1日～26年5月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：桐原崇亘（数理物質科学研究科）、吉田正樹（物理学類）、宮川銀次郎（物理学類）、木立佳里（数理物質科学研究科）、塩谷知弘（数理物質科学研究科）、洪依静（知識情報・図書館学類）

P：中井直正（数理物質系）

## 活動報告

### 活動成果

- 3月～4月 イベント内容の計画、広報
- 5月9日 Astro Cafe の開催
- 5月末 活動報告書をまとめる

#### ・目標達成度

複数の新入生が訪れてくれた。  
アンケートにより、満足してもらえたことがわかった。

#### ・得られた成果

宇宙の開発分野、天文分野、それぞれを知ってもらえた。  
これをきっかけに新入生のメンバーがはいってくれた。

### 今後の課題

目標の人数に達しなかった。  
アンケートでも「もっと広報を行ってほしい」「もっと宇宙を多くの人に広めてほしい」などあり、より大きな範囲での広報、働きかけが必要だと感じた。

### 経験者からのメッセージ

計画をしっかりとたてたほうがよい。  
内部で意思疎通をきちんとしておくべき。  
広報は一人ではできない。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

工学系の学類の参加者が多かったが、天文分野の講演でも楽しんでくれた模様。

### T-ACT に関する感想

広報をする上でのコツ、注意点、どのようにしたら人を集められるのか勉強会などあったら、ぜひ参加したい。

## 活動内容

### 動機

つくば市で行われている魅力的な研究や取り組みを、つくば市内外の人々に分かりやすく伝えること、および、つくば市内の様々なコミュニティの関係性を強化することで、つくば市の新たな発展に貢献することに尽力したいと考えたため。

### 目標

イベント参加者のコミュニケーションを通じて新たなアクションを創造し、つくば市の知的コミュニティの形成、活性化を図る。

## 活動計画

4月 活動開始

- (1) メンバーを募る。
- (2) 組織編成および、2014イベントのコンセプトを決定する。
- (3) スポンサーを募る。

6月～8月 講演者および、イベント会場の決定

9月末 イベント開催月

10月 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

## 活動期間

平成26年 4月22日～26年10月22日

## T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小松昇平 (生命環境科学研究科)

P：近藤康史 (人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

2014年9月に予定していたTEDx イベントが、会場の関係で2015年2月の開催に変更された。そのため、今回は次回イベントの為に準備期間として活動を行った。主な活動としては以下の通りである。

- (1) 今回イベントの説明資料の作成
- (2) 次回会場の手配
- (3) 新規運営スタッフへの説明
- (4) ワークショップの試行
- (5) スピーカー候補へのアプローチ
- (6) パートナー企業へのアプローチ

### 今後の課題

イベントコンセプトに合ったスピーカーの選定  
パートナー企業の増加  
会場デザインの決定  
タイムテーブルの作成

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

先述の通り、今期はイベントを開催していない。運営スタッフの変化としては、積極的で建設的な提案が増え、資料の作成スキルが上がった。

### T-ACT に関する感想

いつもご支援頂き、ありがとうございます。特に要望はありません。今後とも何卒よろしく申し上げます。



## ● Young Americans つくばスペシャル2014に参加しよう！ (14003A)

T-ACT プランナー 篠原 華子 (人文社会科学研究科 D3)

### 活動内容

現在、社会のグローバル化にともない、大学生にもグローバルな人材として成長することが求められています。グローバル化が進むことにより、人々の日常生活にも影響や変化が生まれ、多文化共生にまつわる問題も浮上しています。筑波大学は留学生や国際系サークルも多く、国際交流の機会はたくさんありますが、地域と一体になって国際化、多文化共生の可能性を探るチャンスというのは多くはありません。社会の国際化がさまざまな形で影響を与えていることから、問題の解決には、グローバルに考え、ローカルに行動することも重要になってきています。

よって、世界22カ国で音楽ワークショップを行っているヤングアメリカンズを筑波大学に召還し(2014年6月27日～29日)、地域の子供たちと一緒に参加することによって、グローバルな視野とローカルな視野の両方に配慮することのできる「グローバル」な人材へと学生が成長する機会とすることを目標とします。さらに、ヤングアメリカンズの音楽ワークショップへの参加を通じて、自分の心を開いて表現することの喜びを体感するとともに、多様性、創造性を学ぶ機会としていきたいと思えます。

### 活動計画

- 4月6日 準備メンバー募集
- 4月10日 第一回ミーティング
- 4月中旬 イベント告知準備
- 4月下旬 イベント告知開始、説明会の実施！
- 5月 説明会の実施
- 5月下旬 参加者の募集・締め切り
- 6月 ヤングアメリカンズとの交流会の計画・準備、運営メンバー募集
- 6月上旬 参加学生向け説明会
- 6月中旬 参加学生同士の交流会
- 6月27日～  
29日 ヤングアメリカンズつくばスペシャルに参加！
- 7月上旬 アンケート実施、反省会、報告会、感謝会

### 活動期間

平成26年4月1日～26年7月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：西森千咲(心理学類)、三好さやか(教育研究科)、許力揚(化学類)、中澤奈美(生命環境科学研究科)、吉田香織(医学類)、福田美紀(教育研究科)

P：新津勝二(附属学校教育局次長)

## 活動報告

### 活動成果

- 4月6日 準備メンバー募集
- 4月10日 第一回ミーティング
- 4月中旬 イベント告知準備
- 4月下旬 イベント告知開始、説明会の実施！
- 5月8日 ①説明会 18:30～19:30 (2D305) \*説明会会場変更しました！
- 5月15日 ②説明会 18:30～19:30 (3A212)
- 5月23日 ③説明会 18:30～19:30 (5C402)
- 5月29日 応募受付開始 正午12:00～
- 5月30日 結果メールの送信
- 6月 ヤングアメリカンズとの交流会の計画・準備、運営メンバー募集
- 6月5日 参加者、ボランティア向け説明会・懇親会
- 6月6日 ボランティア募集締め切り
- 6月20日 参加学生同士の交流会
- 6月27日～29日 ヤングアメリカンズつくばスペシャルに参加
- 7月5日 準備メンバー反省会
- 7月15日 感想文募集締め切り

### ・目標達成度

本アクションを通じた目標達成度は高いと感じている。

まず、ワークショップに参加した学生の変化が明らかだと思うからだ。3日間のワークショップを通じて、参加学生の表情が変わったのは、新津さんが管理する写真に収められている通りである。また、参加学生からの感想を聞いても、今後の大学生活を充実したものにして行く前向きな感想を持っている人が多く見受けられた。また、今回の活動を通してアメリカ文化の理解と英語への親しみを感じた学生も多く、国際社会に目を向けてくれていると思う。

また、今年度は当日の運営を支えてくれるサポーターも沢山あつまった。彼らの感想を口頭で聞くところによると、地域の人や職員さんと共に仕事ができることが楽しかったようだ。地域のみなさんとの交流を通じて、相互理解をはかれたと思う。

### ・得られた成果

今回のプロジェクトの成功を通じて、来年度開催の必要性と需要を感じている。

参加した地域の小中高生からの要請だけでなく、大学生の成長促進という意味でも、重要なイベントとなりつつあると感じている。このイベントを通して初めて筑波大学を訪れる地域のかたも多く、大学の地域貢献、地域からの理解を高めるために、微力ながらも貢献できたと感じている。

また、昨年度よりも事前説明会への参加者が多かったことから、学内での認知度があがったと感じている。そのおかげで、来年度開催への理解と応援も得られるだろう点が、継続的なイベントを目指すうえでの成果と言えるだろう。

学内理解者を増やし、筑波大学で開催されるイベントとして定着させることで、継続的な地域貢献、学生の成長の場として開いて行きたいと考えている。

### 今後の課題

申請のタイミングがずれてしまったので、T-ACTの承認が遅くなってしまったため、本格的な活動開始が遅くなってしまった。申請は早めにするのを心がけようと思う。

4月から7月の数ヶ月の活動ということもあり、活動しながら内容を理解するという人が多かったために、話し合いや情報共有の場を多くもつことが必要だった。しかしながら、オーガナイザー同士の予定がなかなか合わず、毎週水曜日の話し合いで全員が集まることは少なかった。その上、メールでの情報をしっかり読んでいないメンバーもいたので、情報の共有が仕切れず苦労した。

各自の自覚によるところも大きいですが、みんなでもっと気をつけあうべきだったと感じている。

また、オーガナイザーが所属していない学類への告知が難しかったので、前年度の参加者に協力してもらうなどして、改善して行きたいと考えている。

### 経験者からのメッセージ

T-ACTを通じての活動は、T-ACTからの支援を様々な形で得られるので、おすすめします。

私たちが特に活用したのは、告知用チラシの印刷、説明会での配布資料の印刷、カメラやプロジェクターの貸し出しでした。一見するとささやかなことかも知れませんが、これらのことを無料で利用できることの利点は計り知れません。学内でより多くの人に活動してもらうためにも重要なサポートだと思います。

また、何か困ったことがあればT-ACTのオフィスにいつも相談できる人がいます。なので、アクションを起こすのが初めての人でも、安心して始められると思います。

ぜひ、すてきなアクションで筑波を魅力的な場所に変えてください！

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

最初の参加者説明会で集まったパーティシパントはとても緊張していた様子だったが、3日間のWSを経て、表情が大きく変化したのが印象的だった。一緒に参加した学生に対して心を開き、自分に自信を持っているように感じた。また、中には参加した小中高生との交流を図った学生もいたようで、彼らとの交流から良い刺激を受けた筑波大生もいたようだ。

### T-ACTに関する感想

① T-ACTのアクションに掲載しているページを、プロジェクトの魅力ある告知として使えるように、掲載する文字を大きくしたり、色をつけたり、写真を貼付したりできるといいと思いました。

② トップページの「T-ACTシステム」をクリックするとプロジェクトが出てきますが、あまり利用しない人にとっては、アクションの一覧を見るのに、「T-ACTシステム」をクリックしないといけないというのは、わかりにくいと思います。

特に「システム」という言葉が「T-ACTの説明」を連想させてしまうようです。

③ T-ACTへの登録がニックネームになっているので、参加学生のうち、誰が登録してくれているのか見極めるのが難しいです。プランナーやオーガナイザーには登録パーティシパントの本名がわかるといいと思いました。

# UNICO ～星空から笑顔の輪を vol 1～ (14004A)

T-ACT プランナー 高村 有加 (医学群看護学類4年)

## 活動内容

### 活動内容と目的

本企画では、地域社会に暮らす人々を対象に、「宇宙」を通じて「やすらぎ」「きづき」「つながり」を提供する活動を行う。

筑波大学附属病院にて、患者さん、その家族、医療従事者に対し観望会や宇宙イベントを行い、癒しの空間、楽しい空間をつくる活動を行う。地域の子供達に対しては小中学校などにおいて、宇宙を通して豊かな心の育成を育めるような「宇宙授業」の教材を芸術系と協力して開発・実践する。

### 企画立案の経緯

申請者が臨床で働いていた時、夜何もすることがなくて暇を持て余す患者、ベッド上安静のため一日中真っ白な天井を見上げ、外の景色を見ることができない患者に出会うことが多くあった。

病院は本来癒しの空間であるはずだが、ナースコールの音や夜間の足音、医療機器の光等、普段の日常とちがった環境のため不眠になることも少なくない。また患者自身が能動的に時間や季節を感じる機会が少なく、患者同士、患者と医療従事者が交流する機会は少ない。

そこで、病院内で普段見ることのできない星空を天井に投影することで、参加者がリラックスした時間を過ごせ、星や宇宙の不思議、楽しさを体験でき、同じ時間と空間を共有することによって、患者、家族、医療従事者の間に、新たなコミュニケーションが生まれる空間を提供する。また、地域の小中学校や児童養護施設などに交渉をし、宇宙をテーマとした宇宙授業を行う事で、普段あまり学ぶことのない宇宙の魅力を学んでもらうだけでなく、それを通して豊かな心の育成を実践し、またそのための教材開発を行う。

## 活動計画

- 4月 活動開始  
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 5月 病院内にて宇宙の話
- 7月 病院内にて七夕会を実施。
- 9月 活動まとめ  
vol 2 につづく

## 活動期間

平成26年 4月 1日～26年 9月30日

## T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：山内実緒子 (工学システム学類)、竹森聖 (工学システム学類)、桑原未来 (国際総合学類)、伊藤佑希 (生物資源学類)、柳澤佳恵 (看護学類)、久保衣里 (看護学類)、村井瑞穂 (看護学類)、中野愛 (看護学類)、門野彩花 (医学類)、山田淑乃 (数理物質科学研究科)、朝倉健 (数理物質科学研究科)、平野勝大 (数理物質科学研究科)、鈴木裕行 (数理物質科学研究科)

P：村上史明 (芸術系)

## 活動報告

### 活動成果

七夕星まつり 実施報告書

#### 1. 実施概要

- 1) 日時：2014/7/2 15:30～17:30
- 2) 場所：筑波大学附属病院けやき棟12階展望ラウンジ
- 3) 目的：

「宇宙・天体」に関するイベントを病院にて開催し、誰でも楽しめるような体感的なコンテンツを多数用意することで、病院という場所に癒しや元気を提供する。普段触れることのない宇宙の壮大さや神秘性に触れることによって、病院の患者さんやその付き添いのご家族、また病院の職員である看護師や医師など、病院に関わるすべての人達に良いリフレッシュの機会を提供する。また学生にとってはこの機会が、宇宙、医療、芸術など、それぞれの専門分野を持った学生が共同で企画イベントを開催することで、自身の専門性を総合的に社会に活かしていく力をつける場となることを意図している。

- 4) 来場者数：約50名 (患者さん、ご家族、病院職員)
- 5) 参加者：宇宙×医療×芸術 オーガナイザーとパーティシパント10名 (看護学類、医学類、工学システム学類、国際学類、芸術専門学群、また日本語・日本文化学類への留学生など)
- 6) 実施経過：筑波大学附属病院と筑波大学芸術系教員による「病院のアートを育てる会議」に議題提出、企

画承認を得、筑波大学附属病院看護部顧問三ヶ田愛子さん、アートコーディネーター渡邊のり子さんの協力のもと実施。

- 7) 広報：看護師長会を通じ病院内、病棟内にポスターを掲示。また外来の三連モニターの使用を行う
- 8) 実施内容：家庭用プラネタリウム上映、数理物質系学生による宇宙の話、看護学類学生と芸術系学生による七夕物語のアニメーション上映、芸術系卒業生を中心とした七夕飾りワークショップ、惑星写真の展示、七夕短冊づくり

### 2. 実施後来場者のアンケート結果（有効回答数24）

感想：入院中にいろいろな体験ができて、母といたい思い出もつくれたので。とても良かったです。ワークショップですてきな土産も頂きました！ありがとうございました。病気になってから星を見ることが少なくなっていたから、見られてよかった。癒されました。入院中は外に出られたのでとても助かります。等大変好評を得た。

### 3. 実施者の反省と今後の展望

今回はアート会議において承認から実施までの準備期間が短く、十分な広報活動ができなかった。しかし、参加者は50名を超え、感想からも好評であったことが伺われえる。

また、様々なコンテンツを設けたことによって、来場者の方に満足して頂けた。普段病院から外出できない方や、星空をみるのが難しい方々にとって、癒しの機会になった。また、当日スタッフを含め、様々な学類の学生が関わることによって、広い交流の場にもなった。今後はより一層コンテンツの充実を図り、さらに多くの方々に楽しんで頂ける企画としたい。

### 4. 記事掲載、研究会発表等

- ・タウンワーク、キャンパスライフプラスワン夢実現レポート完結編

[http://entac.jp/report/report\\_final.pdf](http://entac.jp/report/report_final.pdf)

- ・筑波大学 HP にて実施報告

<http://www.tsukuba.ac.jp/news/n201407031630.html>

- ・8月11日に行われた「天文教育普及研究会」の年会にて実施報告を発表（講演者：鈴木裕行）。集録を作成中（11月に掲載 web 予定）
- ・常陽新聞にて8月20日にイベントの実施報告を掲載

## 春日学園天体観望会 実施報告書

### 1. 実施概要

- 1) 日時：2014/7/26（水） 19：00～21：00
- 2) 場所：春日学園小中学校
- 3) 目的：小学校が企画した校内キャンプの一つのレクリエーションとして、天体観望会を企画し、普段星を見る機会のない子どもたち、親御さん、先生方に天体観望を体験してもらい、子どもたちには学校では学べない宇宙の項目を学ばせ、さらなる学習意欲の向上を図る。
- 4) 来場者数：約90+ スタッフ名
- 5) 参加者：オーガナイザーとパーティシパント2名
- 6) 実施経過：春日小学校教諭で増沢喜良と事前に打ち合わせをし、7月にてキャンプを主催する保護者との打ち合わせを行い、実施に至る。
- 7) レクリエーション内容：
  1. 宇宙に関する映画「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」の鑑賞会
  2. 天体観測（観測対象：火星、土星）

### 2. 実施者の反省と今後の展望

屋上に子どもたちが多くいると、床が揺れて望遠鏡が揺れることにより天体がぶれて見えてしまう問題が生じ、プレ観望の大切さを実感した（イベントの開始までに一度小学校の屋上にてプレ観望を行おうとしたが、生憎の曇天で全くできなかった。）。また、子どもたちのカレー炊飯が30分以上押ししてしまったことで、観望会時間の開始がずいぶん遅れてしまった。それに加え、10時までにセキュリティの都合上校内から退出しなければならないことを知らされてなかったことで子どもたちにゆっくり天体を見せることができなかった。セキュリティの時間など、予め確認が必要である。

今回はじめての観望会を行ったが、多くの子供達が土星や火星をみて驚きの声を挙げた。これを気に学習意欲や好奇心が向上につながれば幸いである。また、普段子どもたちは大学生、大学院生と交流する機会もないことから、このようなキャンプなどのイベントにて大学生がボランティアで参加することの重要性を実感した。（例えば、キャンプのレクリエーションで親御さんたちが逃走中を企画したが、親御さんたちの体力を考慮して断念した。このようなところで大学生が活躍してくれると嬉しいとのこと。）

今後も春日学園にては観望会をはじめ、科学クラブにてのお手伝い、各クラスでの授業など、様々な形で関わっていく予定である。

## 職員向け天体観望会 実施報告書

### 1. 実施概要

- 1) 日時：2014/9/3（水） 18：30～20：30
- 2) 場所：筑波大学附属病院けやき棟12階展望ラウンジ
- 3) 目的：病院でのイベントは患者さんが主役なものが多いが、今回は患者さんを対象とせず、病院で働く職員に向けたイベントを開催する。天体望遠鏡を院内に持ち込み、天体観望会を行う。病院という現実からかけ離れた「宇宙」に触れてもらうことで癒しを提供する事を目的とする。
- 4) 来場者数：約70～80名
- 5) 参加者：オーガナイザーとパーティシパント3名
- 6) 実施経過：「筑波大学附属病院と筑波大学芸術系教員による「病院のアートを育てる会議に議題提出、企画承認を得、筑波大学附属病院看護部顧問三ヶ田愛子さん、アートコーディネーター渡邊のり子さんの協力のもと実施。  
8月6日にはプレ観望会を実施し、病院の12階から天体が実際に見えるかや見える方角の範囲等を確認。
- 7) 広報：イベントポスターを作成し、三ヶ田愛子さんの協力の下、職員にお知らせいただいた
- 8) 観測対象：月、土星（曇天のため不可）

### 2. 実施後来場者のアンケート結果（有効回答数40）

- 1) 性別：男性12人 女性28人
- 2) 感想：・天体観測をしたいという長年の夢がかなって良かったです。思っていると夢は叶うのだなと思いました。  
・雲が多くて残念でしたが雲の合間に見れた月は本当に感動しました！クレーターもくっきり見えて、深夜勤務明けだけど来て良かったです!!!  
・晴れた日もぜひ見てみたい！流星群の時にまた見たい！  
・患者さんにも見せてあげたい。

### 3. 実施者の反省と今後の展望

生憎の曇天であり、満足行く天体観測の時間を提供はできなかったが、雲の切れ間に出てくる一瞬の月を見て多くの方がとても喜んでくれた。一瞬しか見えないこともあり、盛り上がりが増したと思われる。次は晴れの日に本物の驚きを提供したい。

また、今回の観望会は、職員の方に宇宙の面白さを知ってもらい、癒やし・息抜きを提供するとともに、患者さんにも次の機会に見せてあげたいという流れを作るために行っていたが、職員の方々が予想以上に喜び、大はしゃぎする姿を見て、新たな発見があった。普段、看護師・医師などといった病院の職員は基本的に患者に対して奉仕する姿勢を持っていると思われる。なので、七夕星まつりのような職員と患者さん、親御さんなどといった病院全体向けのイベントだと、職員の方は患者さんがイベントを楽しんでもらおうと思って一歩引いてしまうのではないかと、全力で楽しめ無いかと思われる。なので、わざわざ「職員向け」のイベントを行うということで職員の方が主役として楽しんでもらい、彼ら彼女らに本当の癒やし・息抜きを提供できるのだと思われる。院内広報を開始したのが開催の1週間前であったのに対し、80人近くの職員の方が足を運んでくれた事も、このような職員向けのイベントの必要性を裏付ける結果であると思われる。

これは、病院だけでなく、他のフィールドでも同様であると思われる。教育現場にてわざと教員向けの観望会を行ったり、福祉施設・警察・刑務所などにて職員向けのイベントを行ったりすることは実に有意義であるのではないかと思った。

## ライズ学園 実施報告書

### 1. 実施概要

- 1) 日時：2014/9/8（水） 13：20～15：20
- 2) 場所：ライズ学園
- 3) 目的：不登校の小中学生を支援している組織であるライズ学園から講演依頼があり、子どもたちに向けて宇宙のお話をしにいった。
- 4) 来場者数：小学生3人、中学生3人、ライズ学園スタッフ4人、オーガナイザー1人、パーティシパント4人（看護4年4人）
- 5) 実施経過：附属病院での七夕星まつりの実施を常陽新聞さんに取り上げてもらい、その記事を見たライズ学園の職員が我々に連絡をしてくれた。学校での打ち合わせを一回行った後、ライズ学園での宇宙のお話を実施した。  
今後、今日の様子をライズ学園のブログにて報告がある予定。  
[http://rise.gr.jp/archives/category/rise\\_news](http://rise.gr.jp/archives/category/rise_news)
- 6) お話の内容

今回は先方から「子どもたちとの対話を中心にしてほしい」との要望があったため、一方的な講演形式ではなく、子どもたちと対話しながら出てきた宇宙のトピックに関して詳しくお話をするというフレキシブル

な対応をとった。宇宙の壮大な大きさに触れてもらうためのワークや、時間の大きさを体感してもあるためのゲームなども行い、子どもたちとスタッフも一緒になって考えて行えるような時間を作った。また、最後に暗室にてホームプラネタリウムを用いて星空の解説も行った。

## 2. 実施者の反省と今後の展望

今回は上記したとおり、対話形式を採用し、フレキシブルに対応する必要があったのでどのような展開になるのか予想がつかなかったが、ある程度アイスブレイクなゲームやワークを用意しておいたので、それによって子どもたちと打ち解けられてよかった。子どもたちと盛り上がりすぎてしまって予定の時間を20分もオーバーしたしまったこと、プラネタリウムの暗室がちゃんと真っ暗に作れなかったことなどが反省点である。

職員の方から、聞いたところによると、今回はじめてライズ学園に訪れた子や二回目の子もいるらしく、その子たちをはじめ、ほとんどの子がこの宇宙の話をととても楽しみにしていたそうである。学校では宇宙のことはあまり学べないので、このようお話をする機会の必要性を感じた。また、大学生と交流する機会があまりなかったので、それだけでも新鮮な機会をいただけて感謝しているとのことである。

今回はお昼の要望だったので、実際に天体を見せてあげることができなかったが、いつか望遠鏡を持って子どもたちに月や惑星などを自分の目で見てもらって宇宙を実感してほしいと思う。職員の方も見せてあげたいとおっしゃっていたので今後時間を調整して実施できればと思う。

### 今後の課題

4月から活動を始め、活動の場が病院や学校など、地域社会へと範囲が広がってきた。今後も活動を継続していくにあたり、より一層安全面等に留意し、情報共有等の方法についてメンバーで徹底したい。

### 経験者からのメッセージ

T-ACTは誰でもやる気のある人なら計画立案、実施できる大変素晴らしいものです。また、何でも相談にのっていただける先生方がいらっしゃいます。「これできるかな?」「一緒にやってくれるひといるかな?」と思ったら、まず企画立案し、T-ACTメンバーに投げかけてみましょう。きっと応援してくれる人がいます。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

本企画では、地域社会に暮らす人々を対象に、「宇宙」を通じて「やすらぎ」「きづき」「つながり」を提供する活動を行うことを目的とした。宇宙をテーマとしているが、参加者の学生は医学、宇宙、芸術、工学システム、国際学類等他多岐にわたった。それは参加者が宇宙に対する知識がなくても気軽に参加できることを伝え、参加日や時間に関してもフレキシブルに対応したことによると思われる。様々な分野の学生たちが各自その専門性を発揮しながらも、他分野への理解やきづきを得た。そして、これらの活動を通じて、学生同士の結びつきが得られ、新しい刺激をもたらしたと思われる。

## イベント VS お掃除ロボット派遣屋さん～ロボットでお掃除いたします～ (14006A)

T-ACT プランナー 大久保 維人 (理工学群工学システム学類2年)

### 活動内容

みなでお掃除ロボットをつくってお掃除しよう。  
やどかり祭や学園祭などイベント開催時にはチラシやその他多くのゴミが落ちています。  
そのためゴミ拾いをしようと思いました。  
しかし、ただゴミを拾うだけでは普通のボランティア活動。  
同じ活動だけれどもお掃除ロボットをつくってお掃除すればもっと面白い。

目標は、

- お掃除ロボットを動かし楽しくゴミを集めること。
- 技術で人を笑顔にすること。

この活動を通じて

- ゴミが落ちている現状に関心を持ってもらい、みんなが自発的にゴミ拾いをしてくれること。

この3つの目標実現を目指します。

### 活動計画

- 5月 活動開始。メンバーを集めて、機能などを相談しロボットを製作する。
- 5月30～31日 やどかり祭でお掃除ロボットを動かす。
- 6月～11月 やどかり祭での動作結果を踏まえ、改良し雙峰祭へ向けてのテストを繰り返す。
- 11月1～3日 雙峰祭でお掃除ロボットを動かす。
- 11月 活動終了。活動を振り返り良かった点や悪かった点、各イベントで拾ったゴミの種類やゴミの量などのデータをまとめ、活動報告書を作成する。

### 活動期間

平成26年5月21日～26年11月20日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：榎慎太郎 (工学システム学類)

P：遠藤靖典 (システム情報系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 5月21日 活動開始。メンバーを集めて、機能などを相談した。
- 5月22～30日 相談した機能を実現するロボットを製作した。また、やどかり祭委員の方と相談し活動してよい時間や、場所が決まった。
- 5月30～31日 やどかり祭でお掃除ロボットを動かした。
- 6月1日 やどかり祭での動作結果を踏まえてロボットの足回り系を改良することが決まった。
- 6月2～30日 設計を再度見直した。
- 7月1日 製作を開始した。
- 8月23日 ロボットの製作が完了した。
- 8月24日～9月20日 夏休業
- 10月1日～10月31日 夏休みに思いついたアイデアを使いロボットの再設計と加工をして組み上げた。
- 11月1～3日 雙峰祭でお掃除ロボットを動かした。
- 11月4日 活動終了。活動を振り返り良かった点や悪かった点を話し合った。

#### ・目標達成度

20%

予想はしていたが色々な作業が予定通りには進まず、多くの参加者を集める事もできなかった。  
また活動後になって気がついたが、集めたゴミの種類でなく全体の重さを計測しておき考察や判断をすればよかった。

全体的に数人の自己満足で終わってしまった点が悔やまれる。

#### ・得られた成果

筑波大学内外の大学生や子ども達、大学外の大人の方から面白いと言っていたこと。

やどかり祭

全体で45Lの袋3枚分

## 内訳

ペットボトル 2本  
 飲食系燃えるゴミ 45L 袋 2.5枚分  
 その他ゴミ 45L 袋 2.5枚分 0.5枚分

## 雙峰祭

全体で45L 袋 2枚分  
 内訳（2～3日目のみ稼働）  
 ビラ & チラシ 47枚  
 ペットボトル 1本  
 飲食系燃えるゴミ 84点  
 その他 約20点

やどかり祭、雙峰祭共に飲食系ゴミが落ちている事が多い事が分かった事。

## 今後の課題

ロボット製作と PR 活動を同時に行うことができなかったため改善したい。  
 参加者を呼びこむ事ができなかったこと。

## 経験者からのメッセージ

自分が思った活動を行うことは、T-ACT システムによって容易になっているが、承認後の活動を宣伝することや人を呼びこむ事が難しいと感じた。

また、私達のように複数人で1つの目標に向けての活動をする際は、全体の進捗や状況を管理する事が難しい。

そのため、進捗管理や連絡方法などをかなり工夫する必要がある。

プランナーとして自分がどのように行動すれば、全体が円滑に動くのかを常に考える必要があると思う。

## 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者は皆 知人であったので、変化にあまり気付くことが出来なかった。

最終的には、ロボットの製作などの活動にあまり関わることが出来なかった人も生まれてしまったが皆やる気があったのでよかった。





## Tsukuba for 3.11 第7弾 (14007A)

T-ACT プランナー 福井 俊介 (生命環境学群生物資源学類3年)

### 活動内容

東日本大震災から2年が経過し、甚大な被害を受けた東北地方においては、未だ復興の道半ばであり、長期的且つ持続可能な支援が必要である。また、ここつくば市においては、原発事故による被害を受け、およそ500名が福島県より避難しており、未だ事態の收拾のめどが立たないなかで、つくばでの生活をいかに支援していくかは大きな問題であると言える。

本活動においては、学生だからこそ出来る復興支援をテーマに、「Tsukuba for 3.11」「Tsukuba for 3.11 第2～6弾」にて行ってきた活動をベースに行う。これまでに形成されたつながりを生かした幅広い活動を行う。岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、福島県いわき市においては、現地で活動する支援団体や地元住民と連携し、ニーズとマッチしたボランティア活動や、聞き取り事業を行う。つくば市においては、避難者を対象にコミュニティ新聞の発行や交流会を開催し、つくば市内でのコミュニティ形成に貢献する。

また、近頃ニュースなどでの震災の報道が少なくなり、関心喚起を促すことが重要であるといえることから、学内においては、学生の関心を喚起するために報告会やスタディーツアーを企画する。

HP : <http://tsukubafor311.jimdo.com>

Facebook : <https://www.facebook.com/tsukubafor311>

Twitter : Tsukuba for 3.11

ブログ : <http://ameblo.jp/tsukubafor311/>

### 活動計画

- 4月 活動開始  
活動報告会実施、新規メンバー集め
- 5月 コミュニティ新聞「つくしま」春号発刊
- 6月 勿来復興プロジェクト「タイムカプセル聞き取り事業」  
映像編集上映会
- 8月 陸前高田「七夕祭り」への参加  
コミュニティ新聞「つくしま」夏号発刊
- 9月 東北ツアー、学園祭出店準備  
中間発表会
- 10月 活動終了、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年4月15日～26年10月15日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O : 木村奈那子 (看護学類)、下田梢 (看護学類)、園田有紀乃 (芸術専門学群)、大原光代 (社会工学類)、立川哲之 (生物資源学類)、小池ちはる (比較文化学類)、松本一平 (社会工学類)、霜鳥太一 (人文学類)、内海亜紀子 (芸術専門学群)、藤田朋花 (比較文化学類)、椎名智弘 (生物資源学類)、上林直人 (社会学類)、恩田怜 (図書館情報メディア研究科)、祖天琳、黒田枝里 (生物資源学類)

P : 長谷川聖修 (体育系)

### 備考

ボランティアという枠組みですが、自分たちで感じ考え取り組んでいくこと大切にしています。学内にとらわれず色々な人たちに出会う事もできるので様々な事をそこから学べると感じています。興味のある方ぜひ一緒に活動しましょう！

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 4月 活動開始  
活動報告会実施、新規メンバー集め  
ひまわり里親プロジェクト開始
- 5月 コミュニティ新聞「つくしま」春号発刊、やどかり祭出店
- 6月 ひまわり種まき開始  
双葉町視察
- 7月 勿来復興プロジェクト「タイムカプセル聞き取り事業」協力 映像編集上映会  
なこそ夏祭り・野馬追見学

- 彦根高校新聞部の取材
- 8月 陸前高田「七夕祭り」への参加  
コミュニティ新聞「つくしま」夏号発刊
- 9月 学園祭出店準備  
中間発表会
- 10月 ひまわりの種の採取  
活動終了、活動報告書をまとめる
- その他 月一回しゃべり場の手伝い

#### ・目標達成度

予定通り活動を行う事が出来た。まず、自分たちがこれまで行ってきた活動を引き続き行い、息の長い継続的な支援を実現する事が出来た。またそれに加え、「ひまわり里親プロジェクト」といった新しい活動も行う事ができ、現在問題となっている震災風化に焦点をあてた活動も同時に成し遂げる事が出来た。しかしながら活動の振り返りという面では、単純に振り返るだけでなく、もう少し次につなぐことを意識した振り返りができればなお良いと感じるところもあった。よって今回の達成度は95%ほどだと考える。

#### ・得られた成果

今回は変化してゆく課題とニーズをメンバーで共有することから始まり、それぞれの課題に合わせた実に多様な活動を展開できた。例えば関心喚起という面では、やどかり祭への出店や活動報告会の実施、ひまわり里親プロジェクトを通して、多くの人々に震災に関して考えるきっかけを提供できたと思う。そういった多面的な活動を展開できたのは一つの成果になったと考える。

また、主軸とするつくばでの活動以外にも、現地（東北）での活動も多く行えた事は、現地の様子を自らの目で見る事の重要性を再認識させ、そこで学んだ事をつくばでの活動に活かせるようになった。これらの活動は活動の意味を考えるきっかけとなり大きな成果となったと考える。

#### 今後の課題

とくに問題は生じなかったが、ニーズにあった息の長い支援活動を展開していくために、やはりもう少し振り返りを大切にしたいと考える。この活動は継続はしていても固定化してよいものではないと考える。そのため、その時々に応じて変化していくニーズを捉え、より意味のある魅力的な活動にしていくために、メンバー全員で考える機会が必要である。

また、それと同時に学生らしさを大切にしていきたいと考える。この活動を行っていくと当事者性を帯びてしまい課題に対して没頭してどうしても壁に当たってしまうことも多い。しかし深く考えずに学生らしさを大切にしながら楽しく活動することは、自分たちならではの活動を展開でき、そこに魅力を帯びさせる事が出来るのではないかと考える。また、継続していく上でやはり「楽しみながら行う」のはとても重要である。

メリハリをつけたうえで変化に柔軟に対応していく活動を目指していきたい。

#### 経験者からのメッセージ

目的をしっかりと見据えた上で、たまには気楽に考えて活動のどこかに「楽しさ」を盛り込む事が魅力的な活動につながってくるのではないかと思います！

#### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加してくれた学生達は改めて震災について考えてくれて、今の問題をいろいろな視点で捉えてくれたと思います。

#### T-ACT に関する感想

とくにないです。

これからもよろしくお願いします！



# Tsukuba for 3.11 とは…。

Tsukuba for 3.11 新入生歓迎会  
2014.4.15 TUE 18:30~20:00  
2014.4.24 WED @3A214

Tsukuba for 3.11 は、東日本大震災からの復興を支援する筑波大学の学生が中心となって立ち上げた団体です。新入生歓迎会では団体メンバーによる活動報告、ディスカッション、PVの上映を行います。みんなで楽しく盛り上がりましょう！途中参加、途中退室OKです。活動報告会終了後は、みんなでご飯を食べに行きましょう！

東北の美味しいお菓子と美味しい飲み物を味わいつつ、東北のことを考えよう！探してみよう、大学生だからできること。自分でもできること。

【連絡先】 tsukubafor311@gmail.com  
【HP】 http://tsukubafor311.jimdo.com/  
【ブログ】 http://profile.ameta.jp/tsukubafor311/  
Twitter @tsukubafor311、facebook でも情報発信中！

代表：福井俊介

承認番号：14007A



つくばアクションプロジェクト

## 有志！神輿大好き人（14008A）

T-ACT プランナー 平塚 万里奈（社会・国際学群国際総合学類1年）

### 活動内容

神輿とは、日本の伝統であり、文化です。しかし、年々お神輿の担ぎ手が少なくなり、消滅してしまう祭りが後をたたないのが現実です。私たちのような若い世代が日本の文化離れをする傾向にあることが原因だと思います。現代は、グローバル化が進行する世界であるため、日本にも様々な文化が流入し、日本文化の存在が薄れていっているような気がします。しかし、このようなグローバル化を推進する一方で、国際交流の場につつま日本人が自国のアイデンティティー（伝統、文化）がしっかりと確立していないと日本人であるという軸が弱いため、海外に“日本”を発信することは不可能だと思います。ですから、神輿という日本の文化を通して改めてアイデンティティーを確認し、日本の魂を感じ、文化の再興をしていくことで私たちの世代だけでなく、次の世代まで語り継がれてほしいと思います。

### 活動計画

- 4月 活動開始  
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 5月 やどかり祭りにて、全ての学類、留学生も参加できる神輿を担ぐ。日本文化を心で感じてもらう。  
メンバーで集まり、反省点などを振り返り、日本文化の再興に少しでも貢献できたかなど、を話し合う。  
活動終了

### 活動期間

平成26年 4月24日～26年 5月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：藤原一馬（生物資源学類）
- P：鈴木華子（留学生センター）

## 活動報告

### 活動成果

- ・活動内容
  - 5月21日 ミーティング
  - 5月23日 神輿上映会
  - 5月31日 やどかり祭、神輿担ぎ
- ・目標達成度  
100点です。当日は多くの留学生、学類生が来てくださったので私が目標としていた、「国、性別、年齢を越えた交流」をみんなが楽しんで行えたと思うからです。
- ・得られた成果  
大変なこともありましたが、留学生や学類生に楽しかった！と言ってもらえたことが成果だと思います。

### 今後の課題

より、多くの人のを幹部に入れたほうがよかったです。

### 経験者からのメッセージ

大変なこともありますが、自分の意思だけは曲げずに仲間と共に頑張ってください！

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

神輿という日本文化を本当に国境を超えて、みんなが楽しめてました。

### T-ACT に関する感想

特にないです。



The poster features a purple silhouette of a traditional Japanese festival float (Omikoshi) on the left. The text is in a mix of English and Japanese. At the top, it says 'T-ACT' and 'Omikoshi'. Below that, 'What is 御神輿?' is written in large characters. Two bullet points describe the event: 'You can see a short movie about "Omikoshi" and learn about it.' and 'You can enter or exit any time during the show!'. The date and time are 'Date: 5/23 (Fri) 19:00~20:00 @3A304'. At the bottom, there is contact information: '国際総合学類1年 平塚万里奈' and 'Address: s1410405@u.tsukuba.ac.jp'.

## ● 松美池アヒルボート「博士号」の運用 (14010A)

T-ACT プランナー 登 大遊 (システム情報工学研究科 D3)

### 活動内容

#### 【背景】

筑波大学の第一エリアにある松美池は、南側に森林を有する、長さ約180m、水深約50cmの中規模の貯水池である。筑波大学の施設・環境計画(1982年4月)によると、本学キャンパスにおいて土地利用を犠牲にしてまでこれらの大きな池を設置した建設当時の理由は「ボートやヨット、魚釣りや水遊びなど多角的な利用ができる」ようにするためであったと明記されている。

しかしながら、現在、松美池にはボートやヨット、魚釣りや水遊びなど多角的な利用を行う者はほとんどいない。これは非常にもったいないことである。松美池についてより多くの人々が関心をもち、将来的には松美池が一大レジャー・センターとして脚光を浴びるようになれば、松美池の潜在的価値を生かすことができ、本学の魅力もうなぎ登りとなることは間違いない。

松美池の活用方法のための最初のステップとしては、まずはアヒルボート遊び程度の小規模のものが妥当である。

#### 【目的】

本企画は、松美池においてボートを浮かべ、安全に配慮した管理を行ないつつ、当該ボートに希望者が乗船し湖面を航行することができるようにすることを目的とする。ボートの管理やメンテナンス等は、本企画メンバーによって行う。松美池は水深が浅い比較的安全な人工池であるため、ボートには何時誰でも乗ることができる状態が理想的であるが、当初は安全のため、ボートは常時施錠管理し、見張りの者(本企画関係者)が立ち会っている状態でのみ、第三者が乗ることができることにする。

#### 【目標】

本企画が実現すれば、休み時間・放課後・休日等に、学生や教職員等が気分転換のために安全かつ気軽にボートに乗ることができるようになる。これにより、短期的な利点として、ボートの搭乗者およびそれを周辺から眺める人々が楽しみを得ることができ、よって学問や研究のための気力が引き起こされる。また、ボートを漕ぐ際の体力消費は、日頃の運動不足を解消する効用もある。さらに、大学内の池においてボートを安全に管理運用するための知見を得ることができる。長期的には、ボートが日常的に浮び、また航行している松美池の情景が学内外に浸透し、本学のイメージのさらなる向上の実現につながることを期待できる。

その他の有益な効果としては、本企画においてボートが頻りに漕がれることにより、水質浄化の効果を期待することができる。一般に、水流の少ない貯水池は水質が悪化しやすく、そのような水中の水質汚染物質を除去するためには、浅層曝気(せんそうばっき)法が有効であるとされている。ボートを漕ぐ際に空気が水面に触れば、浅層曝気が起こり、水中の酸素濃度が上昇して水質汚染物質を分解する微生物が活性化し、水質が向上する可能性がある。本企画では可能であればその効果の有無を測定したいと考える。

#### 【ボート『博士号』の経緯】

ところで、本計画の実現には少なくともボート一艇が必要となる。ちょうど、松美池には「博士号」という名称の足漕ぎ型の謎のアヒル型ボートが仮置きされている。このボートは、確認済みの情報によれば、十数名の学生有志(複数の学類等に所属)が、ボート遊びをするために、所有者であるつくば市にある民間企業(以下「A社」という。)から無償でレンタルし、大学のロゴマークや「IMAGINE THE FUTURE」等の文字を塗装し、加えて「松美池観光マップ」や「松美池に生息する虫」などの実用的な内装を施した後に、2013年10月15日午前中に松美池に投入したものである。しかし、当初ボートが適切に施錠管理されておらず、かつ安全上の対策等も十分とはいえないのではないかという指摘があったことから、その後一旦、自主的に陸上に引き上げられ、返却を待つ状態となっていることが確認された。本企画の計画者がA社と協議したところ、本ボートは新品同様であり現在も問題なく航行可能であり、かつ、A社としては本来のレンタル期限の2013年11月末から各6ヶ月ごとに貸し出しを継続更新して差し支え無い旨の承諾があった。本企画では、A社および当初の設置関係者からの了解を得て本ボートをそのまま利用する。当該ボート「博士号」については、ボート遊びをしている様子等がインターネット上で大変話題になっているため、今回の企画を契機として博士号が松美池に復活することになれば、本学の魅力はさらに増大することは間違いない。

#### 【前プロジェクト 13071A の経緯】

本企画は、企画番号13071A(期間:2013/11/06から2014/05/05まで)のT-ACT企画の後継にあたる。これまでの経緯は以下のとおりである。

・2013年11月

そもそも松美池がアヒルボート遊びを行うために適切な場所であるかどうかを調査するため、松美池に関する公式資料を調査した。筑波大学建設当時のいくつかの公文書を調べたところ、この池は人工池であり、池の湖畔にあるコンクリートの階段状の構造物は、「水への接近性を高めるための池中まで連続するステップ」として利用されることを目的として設置されたと明記されていた。また、筑波大学キャンパスにおいて、土地利用を犠牲にしてまでこれらの大きな池を設置した建設当時の理由は、「ボートやヨット、魚釣りや水遊びなど

多角的な利用ができる」ようにするためであったことも明記されていた。(筑波大学の施設・環境計画(1982年4月)より)

上記の調査により、松美池でボート遊びを行うことは、単に適切であるというだけでなく、むしろ本学建学時に想定されていた本来の池の活用方法であるということが分かったので、本企画を推進するための気力が一段と湧き出てきた。

・2013年12月

松美池でボート遊びを行うためには、松美池の注排水の仕組みについて把握しておく必要がある。そこで、施設部の協力を得て、書庫で松美池の図面を閲覧した。しかしながら、発見された図面はいずれも松美池の建設途中(池の面積が現在の半分程度)のものであり、松美池の現状を反映した図面は見つからなかった。発見された図面によると、松美池の設計上の最低水位は約50cmであることが分かった。

松美池に入り、水深を測定したところ、場所によって若干異なるが、おおむね設計水位に同じく約50cmであることが分かった。

学生生活課、総務課、広報課および施設部とのミーティングを実施した。「利用者がアヒルボート乗船中に何らかの理由で池の中で下船しなければならなくなる可能性がある。その際、池の中で利用者が転倒し、その上にアヒルボートが覆い被さった場合、利用者が湖底とボートとの間に挟まれて身動きが取れなくなってしまうと危険である。」という懸念が示された。また、専門業者に問い合わせたところ水深は60cm程度あれば望ましいという回答があったという。しかし、松美池の水深は50cm程度であり、10cm程度不足する。そこで、現在の松美池の水深50cm程度であっても安全にアヒルボート遊びを行うことができるかどうかのさらなる検討が必要となった。

・2014年1月-3月

今冬は大変寒冷であり、日中であっても松美池での長期間の作業が困難であることから、活動は捗らなかった。

なお、2014年2月の大雨・大雪の際は、松美池の水位が急上昇し、アヒルボートは文化系サークル会館付近の陸上にひとりで上陸した。そこで、一時的に「近付かないこと」という内容の紙を貼付けた。その後、数人でまた池の中に戻した。

・2014年4月

2013年12月に懸念事項として挙げられていた水深の問題について検証するため、人間がアヒルボートの下に潜水して泳ぎ、アヒルボートの反対側から出ることができるかどうかの実験を行うことにした。

しかしながら、松美池に潜水をする者を募集したが、松美池の水は大変神々しく厳かであり、畏れ多いということから、潜水希望者は見つからなかった。

そこで、等身大のマネキン人形を1体購入し、穴をあけるなどして水を注入して沈むようにした。この状態でマネキン人形がアヒルボートの下を慣性のみでくぐり抜けることができるかどうか検証したところ、問題無くくぐり抜けることができた。また、アヒルボートに1人が乗船している状態であっても問題無くくぐり抜けることができた。これらのことから、松美池の中で転倒するなどした人の上にアヒルボートが覆い被さった場合でもその人が抜け出すことができるだけの余裕空間が存在することが分かった。

これらの実験を学生生活課職員の立会いのもとで行った。

## 活動計画

2014年

5月頃から 学生生活課と協議の上、運用を開始する。

アヒルボートは、見張り付きで動かす場合を除き、常時施錠しておく。

本件 T-ACT 企画のメンバーの有志は、日中、自己の授業がない放課後等に松美池の湖畔のコンクリート乗り場のような場所で見張りをする。

第三者がアヒルボートに乗りたいと申し出た場合は、注意事項および免責事項を説明した上で、アヒルボートに乗って松美池の内部を周遊することを認める。

この場合において、見張りの者はいつでも池の中に入っていくことができるように胴付長靴を用意しておき、緊急時やボートが座礁した場合などは池の中に入り脱出の手助けをする。

アヒルボートの乗り場の付近には、営業中は小型の折り畳み机およびパイプ椅子を設置し、見張りに当たっている者が座って休憩することができるようにする。また、工事用立看板のような折り畳み表示板を設置し、「博士号乗船可能」などと表示するほか、注意事項、松美池の地図、標準ルート、危険箇所(ごみ等が堆積しており座礁する可能性がある場所)の表示、松美池の歴史資料などを掲載する。

小型の折り畳み机、パイプ椅子および工事用立看板は、無人となるときは、防水プラスチックケースに入れた状態で松美池の近くの森林の奥地に隠しておく(交通の支障にならない場所に隠す)。毎日営業を行うときにこれを引っ張り出して設置する。常連のようなアヒルボート愛好家は、遠くからでも現在営業中か否かを容易に判別することができるようになり便利である。

アヒルボートの乗り場の付近には、第一エリアからの学内無線 LAN が届く。小型の折り畳み机およびパイプ椅子の設置は、見張りの者が長時間そこで待機中に読書、ノートパソコンによるコンピュータ・プログラミングまたは数学問題を解くなどの暇つぶしを行うために是非とも必要であるほか、注意事項などの注意書きを乗船者に説明する際にも必要である。

アヒルボートの乗り場付近がよく見える場所（屋内）に Web カメラを設置させていただき、当該 Web カメラの映像を一定期間保存しておくことを検討する。また、最新の撮影データを Web サイトなどでリアルタイムで見られるようにする。これは、無人のときに誰かが勝手にアヒルボートの施錠を破壊するなどして動かすような事件を抑止するために必要である。

学園祭期間中 学園祭期間中は、事故等のトラブル防止のため、博士号には雲隠れをお願いすることになる。  
冬期 博士号はアヒルボートであり寒さが苦手である。松美池に凍てつく寒さが到来する冬期においては、ほとんど活動しなくなる。

### 活動期間

平成26年 5月 9日～26年11月 8日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：根本晃輔（情報科学類）

P：新城靖（システム情報系）

## 活動報告

### 活動成果

・2014年 5月

「T-ACT 松美池アヒルボート「博士号」の運用計画書」を作成した。

・2014年 6月

T-ACT の顧問弁護士の井上先生と法律相談を行った。井上先生からは、机上で議論可能な法的リスクはすべて想定しているように見え、今のところ深刻な問題点は見当たらないので、今後運用を開始してみて新たなリスクが発見されたときは適宜計画を修正しながら進めるのが良いのではないかとコメントをいただいた。

・2014年 9月

猛暑が和らいだため、アヒルボートを洗車した。また、アヒルボートを実際に足漕ぎし、池のヘドロの状況を確認した。

ヘドロの近くでは、水の流れが悪く、抵抗力が増え、アヒルボートを前進させるために足漕ぎのみではかなりの労力を要する。

そこで、今後運用を開始する場合においては、当初はできるだけ岸壁の近くの安全地帯でのみ利用するというルールを設けるべきであると考えた。

・2014年10月

台風18号の大雨のため、松美池が大幅に増水し、水深は150cmを超えた。この状態でアヒルボートを足漕ぎしてみたところ、9月の実験の際にヘドロが溜まっていた部分でも問題無く航行できた。このことから、やはり平常時はヘドロが航行の妨げになることは間違いないことが分かった。

今後、ヘドロの位置は移動することがあるのかどうかの観察を時々行ない、もしヘドロの位置が大幅に移動しないと思われる場合においては、ヘドロの位置を示したマップ等を作成し、乗船希望者に呈示してヘドロの近くへは行かないように注意することが必要であると考えられる。

以下のドキュメントも作成した。

－アヒルボート T-ACT ポスター

－アヒルボートの安全な乗船方法に関する注意事項

目標達成度：

残念ながら運航開始には至らなかったが、おおむね準備を整えることができた。

### 今後の課題

アヒルボートを実際に運航してみて各種問題を発見、解決する。

### 経験者からのメッセージ

T-ACT で本件企画のような野外活動および一般参加の受入れを実施する企画を実施する場合は、法律相談等は無償で受けることができ、とてもありがたいと思いました。ぜひ T-ACT 制度を活用して面白い企画を実施されると良いと思います。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

アヒルボートの運行開始がいよいよ近付き、皆緊張および躍動感に溢れるようになった。

## 平砂トンネル・壁画リニューアルプロジェクト (14011A)

T-ACT プランナー 大脇 聡史 (芸術専門学群4年)

### 活動内容

筑波大学の多くの学生、それに加えてつくば市の一般市民の方々も利用する平砂トンネルには現在、既に壁画が描かれている。この壁画は数年前に芸術専門学群のADP (Art Design Produce) という活動の一環で描かれたものである。なお、今回のプロジェクトに関してはADP当該活動の担当教員に了承を得ている。

この壁画についての評判は、「怖い」という意見が大部分のように思われ、私たちの周囲 (特に芸術専門学群内) では「描き直したい」とか「描き直して欲しい」という声も少なからず聞かれる。そこで、私たちは平砂トンネルの壁画を描き直すプロジェクトを立ち上げることにした。

私たちはまず、平砂トンネルに描かれている壁画を改めてじっくりと眺め、描き直すことが可能になった場合、どのように描き直すかという検討を行った。改めて眺めてみると、見る人に「怖い」と思わせていたのは、主に画中に数多く配置されている人物たちの描かれ方に原因があるのではないかということになった。その他のモチーフや色の選択、塗り方などの中には、消さずに残しておきたい部分も数多くあった。以上のことを踏まえて、今回の壁画の描き直しは全てを塗り替えるのではなく、もともと描かれた壁画の色や形を生かしながら、「リフォーム」という形で進めていこうということになった。もちろん、古くなって絵の具が剥がれかけていたり、時間が経って汚れてしまったりする部分はきれいに除去・清掃してから作業を行いたいと考えている。

完成する壁画は最終的に、そこを通る人が少しでも足を止めて眺めたいような作品にしたい。

### 活動計画

- 5月～6月 活動開始  
市への申請  
メンバー集め
- 7月～9月 トンネル内の清掃  
制作準備 (材料の準備、下絵の制作)  
本制作
- 9月末 活動終了 (メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる)

### 活動期間

平成26年5月20日～26年10月20日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O : 町田紗記 (芸術専門学群)、牧野悠 (生物資源学類)、坪坂萌 (芸術専門学群)、刈部芙美 (芸術専門学群)、高橋凧沙 (芸術専門学群)、手嶋瞳 (人間総合科学研究科)、高嶋麻衣 (芸術専門学群)、田中あかり (芸術専門学群)、御寄翔太郎 (芸術専門学群)  
P : 仏山輝美 (芸術系)

### 備考

交通安全対策をしっかりと行い、安全に注意して制作を行う。

## 活動報告

### 活動成果

#### ◎活動内容

- 7月8日 警察署・市役所へ道路使用許可申請
- 7月17日 ミーティング
- 7月18日 塗料購入に関する打ち合わせ
- 8月4日 トンネル内清掃
- 8月5日 引き続き清掃
- 8月7日 制作開始 (24日まで二日間の休みを除き毎日)

#### ◎目標達成度・得られた成果

「暗い」「怖い」などの平砂トンネルのマイナスイメージを払拭することを目標に制作をおこなった。明るい色調で描き、雰囲気も明るくなったので目標は達成できたのではないかと思う。

### 今後の課題

以前の壁画も手入れがされていなかったためになんかなり汚れていた。

定期的に清掃ができれば、美しく保てるのではないかと思うが、すぐに汚れてしまうし、今回の企画者は卒業後筑波にいない可能性が高いので、現実的には厳しい。

### 経験者からのメッセージ

道路使用の関係で市や警察に申請する必要もあったため、大学の後ろ盾があったのは心強かったです。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

今回唯一芸術専門学群以外から参加してくれた牧野さんは、制作の手伝いの他に、デジタルカメラでの記録をしてくれました。自分の専攻分野で写真による記録を扱っているそうですが、今回の活動記録は、普段の記録と違い絵が刻々と変化する様子を記録できたので新鮮だったと言っていました。

他の参加者には、作業を少しずつ手伝ってもらいましたが、楽しんでもらえていればいいなと思います。





### 活動内容

入院生活を送る子どもたちは、病院での生活という「非日常」の中で生活を強いられ、検査や治療などを受ける精神的・肉体的ストレスを抱えている。またご家族も子どもの入院という環境の変化の中で、様々な葛藤やストレスにさらされている。闘病を頑張る子どもたち、またそれを支えるご家族の姿を目の当たりにし、学生として何かできることはないかと考えた。

昔から人々の心を魅了するものとして花火が注目されてきた。例年各地で花火大会が開催されるが、闘病中の子どもが花火大会に赴くことは、本人とご家族にとって大きな不安を伴い、躊躇われるだろう。そこで、闘病中の子どもたちに花火を鑑賞してもらい、心に夢と希望をもち、これからも生き抜いていく糧になることを期待する。そこで、筑波大学附属病院協力のもと、「夢の花火」をテーマに闘病中の子どもたちが描いた絵を実際の花火にして打ち上げる企画「ゆめ花火」を立ち上げることに至った。

目的は、大きく3つである。

- 1、小児がんなどの理由により、長期の闘病生活をおくる小児患者に、一時でも病気の苦しさを忘れるような花火の楽しさを味わってもらうこと
- 2、たくさんの方のサポーターがいることを感じてもらうことで、夢と希望を持ってもらうこと
- 3、協力していただく方々や、当日打ち上げを鑑賞する観客の方々が、長期の治療が必要な小児の現状について知り、より多くの人に小児医療への関心を持ってもらうこと。

以上の3つの目標を達成するために、筑波大学附属病院に入院している子どもたちが自由に描いた花火の絵を、筑波大学学園祭雙峰祭のフィナーレにて実際の「ゆめ花火」として打ち上げる。(打ち上げ玉は4号玉(直径12cm)を使用する) 打ち上げ当日は観覧会場に花火を描いた子どもたち、また入院中の子どもたちと保護者を招待し、レクリエーションなどを行いつつ、子どもたちが楽しみながら花火を鑑賞していただく。

今年度は、ゆめ花火打ち上げ当日のみの活動でなく、夏に小児病棟で紙芝居などを行い、「ゆめ花火」概要の簡単な説明を子どもたちに行う。また近隣の花火大会へ闘病中の子どもたちを招待し、花火の臨場感を味わってもらい、ゆめ花火へのイメージ作りをしてもらう企画も立案していく。

### 活動計画

- 5月 活動開始  
学生メンバーを集め、企画内容の共有を行う。
- 7月 病棟にて紙芝居 & 子どもたちからイラスト募集開始
- 8月 近隣の花火大会へ子どもたちを招待
- 9月 観賞会参加者募集開始
- 10月 レクリエーション準備
- 11月 3日ゆめ花火打ち上げ  
終了後、反省会

### 活動期間

平成26年5月28日～26年11月25日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：戴兆叡(看護学類)、澁井香葉子(看護学類)、門野彩花(医学類)、中島里佳子(医学類)、藤井聡子(医学類)、加藤愛香里(医学類)

P：福島敬(医学医療系)

### 備考

病棟での活動や子どもたちに関わる活動では、感染を配慮する関係から、一部の学生の参加を遠慮いただく場合があります。ご相談ください。

## 活動報告

### 活動成果

- ・活動内容
- 5月 ゆめ花火打ち上げへのスケジュール作成
- 6月 協力団体との連絡、紙芝居作成
- 7月 小児病棟での紙芝居朗読会、原画収集
- 8月 病院長先生との話し合い、常総きぬ川花火観賞会

9月 鑑賞会内容検討

10月 ゆめ花火参加者募集、学生内での役割分担、当日スケジュール作成

11月 花火打ち上げ、反省会

・目標達成度

ゆめ花火として製造された花火は17種類で、打ち上げ当日は11組48人が参加された。

・得られた成果

11月3日ゆめ花火の打ち上げを迎え、9組の患児家族が鑑賞会に参加した。花火は山崎煙火製造所、花火研究会の協力により無事に事故なく打ち上がり、また子どもたちもときおり歓声をあげながら花火を鑑賞した。

鑑賞会后実施したアンケートでは、入院中の出来事が、色々思い出され感動しました。」「花火をあんな近くで見た事がなかったので、子ども達はすごく喜んで楽しんでいました。」などの声をいただいた。

また本企画を通して、退院後久しぶりに医療スタッフや闘病仲間と再会し、子どもたち同士は共に遊び、親同士で近況を伝えあったり、入院当時の様子を振り返る姿も見られた。このように入院生活の中で培われたコミュニティの再会の場を提供することができた。

### 今後の課題

・患児の安全対策。特に花火の誤発、火災・地震時の対応や、健康状態の変化に対するマニュアルの作成が必須だった。

・学生として、患児に対しどのような企画を提供することができるのか、今後より検討していく必要がある。学生という立場を活かした活動を行う必要がある。

### 経験者からのメッセージ

病院での活動を行う場合、感染対策や参加者の方の安全の確保などと同時に、病院担当者の方との信頼関係が最も大切となります。先生、事務の方、皆様大変多忙な中対応して下さいるので、ぜひ頑張ってください。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

病を持つ子どもたちが企画の対象であることに対し、活動では緊急時対応や、不安なく過ごしてもらうためにどのような工夫を行うことができるか考える機会が多かった。

企画を通して参加者の患児への接し方がより円滑なものとなり、病を持つ人にもごくありふれた「わくわく」「どきどき」するような体験を届けたい、という一種のノーマライゼーション意識が高まったこと、また学生としてできることを積極的に探す姿勢が見られるようになった。



## つくバグ2014 “昆虫青年” が “昆虫少年” を育てる！ (14015A)

T-ACT プランナー 藏満 司夢 (生命環境科学研究科 M2)

### 活動内容

子どもたちにとって自然を体感することは、彼らが将来環境問題や生物多様性問題を考えるために欠かせない経験である。その一方で自然環境、社会環境の変化等の理由によって子どもたちの自然体験活動の機会の減少が問題視されつつある。そこで本課題では、生物学を専攻する学生を中心としたメンバーが茨城県南部に住む子ども達を対象に、昆虫を題材にした自然観察やスケッチ教室等を開催し、自然体験の場を提供する。

### 活動計画

- 6月 活動開始  
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 7-9月 昆虫観察会を実施
- 11月 学園祭で企画を出展
- 11月末 活動終了  
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年 5月20日～26年11月19日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中村篤史 (生命環境科学研究科)、山口芽衣 (生命環境科学研究科)、井戸川直人 (生物学類)、矢野更紗 (生物学類)、戸祭森彦 (生命環境科学研究科)、田中千聡 (生物学類)、山本鷹之 (生物学類)、小山寛 (生物学類)、佐藤深怜 (生物学類)、小長谷達郎 (生命環境科学研究科)、徳嶋賀彰 (生命環境科学研究科)、上原拓也 (生命環境科学研究科)

P：本田洋 (生命環境系)

## 活動報告

### 活動成果

#### 1. 実施した活動内容

つくバグでは下記の2つの活動を実施した。

- 1) 夏バグ2014 ～めくるめく昆虫ワールド～  
開催日：2014年 8月10日  
参加者：18名  
内 容：昆虫の標本作成教室
- 2) 秋バグ2014 ～むしパークつくば～  
開催日：2014年11月2-3日  
来場者：1,700名  
内 容：筑波大学学園祭における昆虫の標本、生体、写真などの展示

#### 2. 目標達成度、得られた成果

当企画は「子ども達に自然を体感するきっかけを提供する」ことを目標として活動を行った。

夏の観察会(夏バグ)は、台風接近のため、午前中に計画していた野外での自然探索、昆虫採集を中止し、室内での昆虫観察及び標本作成教室を実施した。野外での観察こそできなかったが、事前にスタッフで用意しておいた昆虫を材料に、虫の体の造りや機能を観察することで、子どもたちは自然の中で生活する昆虫の姿を垣間見ることができたと思われる。特に、昆虫の標本を作る際には手で虫の翅や脚を動かして形を整える必要がある。その過程では虫の体を壊さないように、虫の体の各パーツがどの方向に、どのように動くのかを把握する必要に迫られる。子どもたちはこの作業を通して昆虫の「形」と「機能」を結びつけることができたのではないかと考えている。

秋の観察会(秋バグ)では、2日間で1,700名の方にご来場いただいた。来場者は学生の他、未就学児から年配の方々まで様々な年齢層だった。「つくば市で採れた昆虫」の標本や生体を見た来場者の多くから、年齢を問わず、「こんな虫が近くにいるのか」と驚きの声が聞こえたことは、当企画の展示が、子どもたちを含む一般の方々身近な自然を認識することの一助となったことを示している。また、当企画は学園祭における来場者投票で、学術研究企画の最高賞にあたるアカデミー賞を3年連続で受賞した。

以上のことから、2つの企画を通して「子ども達に自然を体感するきっかけを提供する」という目標が概ね達成されたと考えている。

## 今後の課題

### 1. アクション実施の際に生じた問題や困難

当企画最大の困難は、台風接近に伴う夏バグの開催可否の判断および天候に応じた企画内容の変更であった。結果的に開催日時は台風の通過後であったが、参加者の安全と野外観察で訪れる予定であったフィールドの状態を考慮し、予定していた野外観察を取りやめて室内での活動のみとした。事前に、悪天候の際の開催可否および開催内容の判断についてシミュレーションを行っていたことで、混乱に陥ることなく安全な企画を実行できた。

### 2. 課題

夏バグの参加者は、過去につくバグの活動に参加経験のあるリピーターと、新規参加者の双方が見られた。新規参加者でも楽しめ、かつリピーターにとっても新鮮な企画を提供することは、当企画にとって常に重要な課題である。オーガナイザーによる日ごろからのアイデアの蓄積が重要である。

## 経験者からのメッセージ

今考えていることをとりあえずやってみれば良いと思います。

## 運営者側から見たパーティシパントの変化

当企画には登録上パーティシパントはいないので、夏バグに参加してくれた子どもたちについて記す。

夏バグに参加してくれた子ども達の多くは、多かれ少なかれこれまでに昆虫に触れたり観察したりした経験があったとのことである。しかしながら、虫の体の構造と動きを照らし合わせて観察したことは無いようで、虫の体を触りながらその機能を想像することに強い興味を示していた。一度の企画のみで子どもたちの変化を見ることは難しいが、子どもたちが後日虫を見つけたときに、当企画で学んだことや体験したことを思い出して、それまでとは少し違う視点から虫を観察してもらえたら嬉しい限りである。

## T-ACT に関する感想

### ○はじめに

つくバグのプランナー（代表）を3年間務めさせていただきました。その間 T-ACT フォーラム及び学生生活課の皆さまからたくさんサポートしていただいたことを感謝いたします。来年度からは代表を引き継ぐことになりました。新代表のもと、T-ACT に登録するか否かも含めて今後検討していくこととなりますが、今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

### ○感想

つくバグの構成員はこれまで（そしてこれから）昆虫学などの研究者を志す学生が多かったため、つくバグの活動は、社会貢献活動であると同時に、学生のアウトリーチ活動という側面も持っていました。昨今の日本では、研究者に対してアウトリーチ活動が奨励されています。そのため、T-ACT での活動は、学生が将来研究者になった際にアウトリーチ活動を行うための良い訓練の場になったと思います。

また、早い時期からアウトリーチ活動を経験することで、自身の研究及び研究分野と社会との繋がりを熟慮する契機を得たと感じています。このことは、学生が研究者としてのキャリアプランを形成するための一助になったと考えています。例えば、つくバグからは研究者を目指して博士課程に進学する学生にとっての登竜門の一つといえる日本学術振興会特別研究員（DC1）に、これまでに5人応募し、5人全員が採用されています。いずれも昆虫を材料に研究している学生です。これは、各々が応募書類に記したつくバグでの活動そのものへの評価、及び、つくバグの活動を通して自身の研究に対する説明能力が育まれた効果が少なからず良い方向に影響しているだろうというのが、採用された学生の共通の見解です。T-ACT での活動が一般企業への就職活動のネタになるということはよく耳にしますが、研究職を目指す学生のキャリアにおいても大きな益があるのではないかと今感じていることです。

T-ACT では勉強や研究に近いものから、いわゆる「遊び」を目的としたものまで幅広い企画があり、その多様性は T-ACT の魅力の一つだと思います。その多様性の一つとして、研究や専門分野のアウトリーチ活動として位置づけられた T-ACT 企画が増えてくれば T-ACT がもっと面白くなるのではないかと感じています。

### ○要望

企画実施に必要な物品を保管しておくための倉庫が欲しいです！

要望書等、学生が大学に働きかけることで実現する可能性があるのでしょうか？もしその望みがあるなら『T-ACT 専用倉庫を作るための T-ACT 企画』を立ち上げることを検討しようと思います。

## ● チャリティフットサル大会 サッカー×社会貢献 (14016A)

T-ACT プランナー 植竹 渉 (社会・国際学群国際総合学類3年)

### 活動内容

「社会貢献」という言葉は普段の生活の中で耳にする言葉であると思います。

それらは復興支援であったり、国際協力であったり様々な形で成されています。

しかし、実際に自分が社会貢献に携わる機会はあまりないと思います。そこで、今回はフットサルという身近に関わりやすいスポーツを通して、参加者の方々に社会貢献に携わって頂く機会を設けました。

また大会当日は、参加者にフットサルを楽しんで頂くのと同時に大会を通して、自分には社会貢献が程遠いと思っている参加者の方々に自分の好きなもの、興味のあることをするだけで誰かのためになるという実感を得ていただきたいと考えています。

それを実現するために様々な企画を考案予定です。

大会は一般学生団体 WorldFut TSUKUBA の協力の下行います。

### 活動計画

- 4月 活動開始  
広報活動開始、営業活動開始、企画考案
- 6月 企画実施

### 活動期間

平成26年 5月14日～26年 6月 8日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：安里喬泰郎（心理学類）、守興尚史（国際総合学類）、大野銀河（社会工学類）、渡辺慎裕（国際総合学類）、  
瀧田実紀（国際総合学類）、松井光之（工学システム学類）、北栄麻弥（国際総合学類）、岡田敬（知識情報・  
図書館学類）、鈴木良介（社会工学類）、田中孝（数学類）、田口加奈子（日本語・日本文化学類）、室山万梨  
那（国際総合学類）、和田桃乃（国際総合学類）、福井大智（生物学類）、千葉菜々美（国際総合学類）、大原  
敬之（数学類）

P：山口 拓（体育系）

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

チャリティフットサル大会

5/7,10,14,17,21,24,28,31 ミーティング兼大会準備

6/1,2,3,4,5,6,7 大会準備

#### ・目標達成度

10%

#### ・得られた成果

新メンバーの大会準備ノウハウの獲得

### 今後の課題

新1年生などをイベントのオーガナイザーとする場合には、どのような形で参加してもらうかを明確にしておく必要がある。

またスポーツイベントを開催する際には、怪我や備品破損用の保険・同意書を必ず準備する必要がある。

今回のイベントは雨により開催することができなかった。

事前に雨天時の対応を決めておくこと、雨天時でも開催できる状況を作っておくことが必要。

### 経験者からのメッセージ

イベントを企画する際に T-ACT を通して企画することのメリットはとて多いと思います。

僕は T-ACT のスタッフのかたにイベントに関する様々なことの相談に乗っていただき、とても助かりました。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

今回のプロジェクトは参加者を3つのグループに分けて、プロジェクトを進めて行きました。最初の方はプロジェクトの全体像をつかめていない人が多かったですが、大会当日が近づくにつれて徐々に全体像を把握できるようになりました。その事もあってか受動的に動いていた人がより主体的に発言や行動をするようになりました。

結果として準備の段階では最善の準備ができたと思います。

## 「歩きスマホ」をなくそう!! (14017A)

T-ACT プランナー 田中 敬済 (理工学群社会学類3年)

### 活動内容

社会学類開設の授業、「都市計画実習」の社会的ジレンマ班からの企画です。

私たちは、学内の歩きスマホが危険だという認識のもと、コミュニケーションツールを用い、心理的方略によって歩きスマホをするひとたちに訴えかけたいと思っています。

### 活動計画

- 5月 活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 5月～6月 活動拠点を定めて、企画の準備  
○月○日、学内で歩きスマホ防止に関連したパフォーマンスの実施。(詳細未定)
- 6月末 「歩きスマホ」への注意を呼びかけた、動画・ポスターを、学内で配信
- 11月末 活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年5月20日～26年11月20日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：佐藤良太 (システム情報工学研究科)、永村葉菜 (国際総合学類)、遠藤茉弥 (社会学類)、宮島渉 (社会学類)、豊川季絵 (社会学類)、佐々木洋典 (社会学類)、大野銀河 (社会学類)、田辺淳一郎 (社会学類)、武若苑子 (社会学類)
- P：谷口綾子 (システム情報系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 6月3～5日 11:30～12:00 Seeing Eye People の実施
- 6月20日 活動成果発表 (都市計画実習における最終発表)
- 6月27日 歩きスマホ防止ポスター学内配布

#### ・目標達成度

満足である。歩きスマホの危険性の喚起を直接ではなく、柔らかく表現することを目指し様々な手段を楽しく行うことができた。

#### ・得られた成果

そうした様々な説得的コミュニケーションの効果検証を、数値でもって実証することができた。

### 今後の課題

タイムスケジュールの管理をうまく行っていれば、T-ACTの活動をもっと多岐にわたり行うことができたと思っている。ただ、都市計画実習という実習の活動を学内に広げるために、T-ACTでも活動を行うのは、新しい試みで得ることはたくさんあったのではないかと振り返る。

### 経験者からのメッセージ

私たちの活動の反省として、タイムスケジュールの管理をうまく行っていれば、T-ACTの活動をもっと多岐にわたり行うことができたと思っている。とはいえ、実習の活動をT-ACTで広げるという試みは、活動の幅が広がり楽しく実践できるので、今後も生まれることを期待しています！

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

歩きスマホの注意喚起を行う活動だったので、実施していたメンバーの歩きスマホはかなり軽減されたと思っている。

### T-ACT に関する感想

報告書の提出がととても遅くなってすみませんでした。  
とはいえ、T-ACTのみなさんは優しく、柔軟な対応をしてくださり、とても感謝しています。  
この場を借りて、御礼申し上げます！



## ● みにぶろー見に行こう、そして考えよう東北プロジェクト (14018A)

T-ACT プランナー 山下 史雅 (人文・文化学群比較文化学類2年)

### 活動内容

2011年3月11日の東日本大震災から、3年以上が経ち風化が恐ろしい速度で進んでいく現在でも、被害を受けた地域では、日常とは離れた現状がまだ存在します。

困っている人のために、未だ傷の癒えない地域のために何かしたいと思っているけど何をしたいかわからない、ボランティアというものに積極的に取り組めないという人のために、そんな現状をとりあえず見に行ってみよう。まずはそこから始めようというコンセプトで現地に足を運んで、自分の目で見て、耳で聞いたことから、自分で「今何ができるのか」「何をしてはいけないのか？」ということを考えていくアクションです。

目的は、僕たち若い世代にもっと今この日本の震災後という状況と向き合って、その現状を知ってもらうことです。

### 活動計画

- 6月 活動開始  
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 6月5日 講演会  
福島県南相馬市から現地の方を呼んで、講演会をします。
- 6月～11月 訪問先を決めて、逐一訪問する
- 11月末 活動終了  
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年6月1日～26年11月30日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大木啓太 (比較文化学類)、藤木耀 (国際総合学類)

P：吉野修 (人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

- 6月5日 講演会「3.11から考える」(来場者40～50名ほど)
- 9月5日 第3回 現地訪問 (福島県いわき市～双葉郡)
- 9月22、23日 第4回 現地訪問 (福島県南相馬市)
- 11月2日 筑波大学学園祭出店

#### ・目標達成度

60点くらい (100点満点) 活動を継続していく中で、賛同を示してくれる人は増えたがなかなか参加には結びついてくれなかった。しかし、課題点が多く見つけられ今後に生かせるヒントをもらったので、達成度としては及第点の60点。

#### ・得られた成果

講演会を開いたことで、来場して下さった人の3.11への関心が高まるとともに、その認識がよりリアルなものとなった。現地訪問では、参加者の確実な災害への向き合い方の変化が見られた。

### 今後の課題

活動に興味を持ってくれる人は多いので、そういった層の発掘を兼ねた周知がさらに必要だと感じた。あとは東北に行くにあたってもっとメンバー同士の話し合いと、訪問後の総括をしっかりと行いたいと考えている。

### 経験者からのメッセージ

まずはやってみること！計画してみて運営してみて初めて分かること、おおいに成長できるポイントが見つかります。はじめから根詰めてやらないでも、まずはやりたいという気持ちを先行させることだと思います。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

自分の意志で自分の足で行くことを選んだので、確実に震災、被災地といったものへの意識が高まったと思います。

### T-ACT に関する感想

いつもいつも感謝ばかりです!!

## つくバリ MAP (14019A)

T-ACT プランナー 原市 紘奈 (人間学群障害科学類2年)

### 活動内容

障害学生のための筑波大学内のバリアフリーマップはあるが、筑波大学付近の、学外のバリアフリーマップがない。障害学生の生活向上のためには、学外のバリアフリーマップが必要である。

全国バリアフリーマップサイト「みんなのバリアフリーマップ」(<http://happybf.com>)がある。このサイトは、バリアフリースポットを教え合うサイトである。サイトに登録した人は、全国のバリアフリースポットを自由に登録することが出来る。まず、サイトに登録してくれる学生を増やし、バリアフリースポットの登録も増やしていくのを大きな目的とする。新しくサイトに登録してくれた学生には、「つくバリ MAP」のメーリングリストに入れてもらう。メーリングリストのメンバーが24人を越えた時点で、活動を開始する。最終的に目指すメンバーの数は30人である。そして、今回の企画では桜・天久保3丁目の登録を重点的に増やすことを目的とする。各エリアで、6つの生活上の目的に対し、2つ以上スポットが集まった時点で目的が達成されたとする。サイトから桜・天久保3丁目のみの情報を拾い、今回は「つくバリ MAP」完成までの経過として「つくバリ MAP～桜・天久保3丁目篇～」を作る。

### 活動計画

6月～10月 「みんなのバリアフリーマップ」(<http://happybf.com>)の登録を呼びかけ、桜・天久保3丁目のバリアフリースポットの登録を重点的にお願いする。

11月 「つくバリ MAP～桜・天久保3丁目篇～」を作る。  
活動を振り返る。

### 活動期間

平成26年6月1日～26年11月30日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：大橋祐樹 (障害科学類)、関根茉以 (障害科学類)、竹内博己 (障害科学類)

P：名川勝 (人間系)

## 活動報告

### 活動成果

・活動内容

11月16日 実地調査

・目標達成度

50%

理由：マップにおこすことが出来なかったため。

・得られた成果

桜・天久保三丁目エリアのバリアフリー情報入手

### 今後の課題

アクション

・マップおこし

・エリア拡大

反省

体調面から、障害学生がプランナーとして活動するのは夏季のみにした方が良かった。

### 経験者からのメッセージ

障害学生がプランナーをする場合は、その体調面を考慮して活動するとよいと思います。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者同士の仲が良くなった。

### T-ACT に関する感想

体調面から、思ったような活動が出来ず、T-ACT 教員の方々にもご心配とご迷惑をおかけしたことを深く深くお詫び申し上げます。



## iGEM に参加するⅡ (14020A)

T-ACT プランナー 日原 奨希 (生命環境学群生物資源学類2年)

### 活動内容

1～3年の学類生には学問をする機会が多くありますが、実際に研究を行う機会はほとんどありません。

学類生の中から研究活動に参加したい、学会や学術系のコンテストに参加したい、関心がある者同士で集まって1つの研究をしたい。そういう思いでこのプロジェクトを企画しました。

iGEM というのは11月頃にマサチューセッツ工科大学で開催される世界最大規模の合成生物学の大会です。私たちは2015年度のiGEMを目指ししつつ、2014年度は「細胞をつくる研究会」という学会でのポスター発表を目指します。

### 活動計画

- 5～6月 実験計画書作成  
実験で遺伝子操作を行うため、申請書を書く必要があります。  
そのため遅くとも6月上旬には実験計画書を完成させます。
- 7～9月 実験  
夏季休業を有効的に使って実験を行う予定です。
- 10月 ポスター作製
- 11月 「細胞をつくる研究会」において発表  
その後活動報告書を作成します。

※随時メンバーを募集します。

このプロジェクトが終わった後もiGEM2015を目指して活動を続けたいと思っています。

### 活動期間

平成26年5月9日～26年11月9日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：杉崎真 (生物学類)、ガニ工拓也 (生物学類)、佐藤実希 (生物資源学類)、濱野直樹 (生物学類)、田村陽 (生物資源学類)

P：YING BEIWEN (生命環境系)

## 活動報告

### 活動成果

基本的には週1回金曜日にMTを行いました。

長期休暇の時などは不定期で集まっていました。

#### ・活動内容

- 5月・6月 勉強会を主としていました
- 7月・8月・9月 実験計画を練り、AREの方で補助金の申請を行いました
- 10月・11月 実際に遺伝子設計を行い、発注まで行いました。
- 11月14日 東京大学のiGEMチームと交流しました

#### ・目標達成度

40%です。実験計画は行いましたが、想像以上に時間がかかってしまい、実際に実験を行う所までは出来ませんでした。

#### ・得られた成果

実験計画の仕方を身をもって学ぶことが出来ました

### 今後の課題

どのようにプライマー (遺伝子実験で使うパーツの1つ) を設計したら良いか分からず手間取りました。

### 経験者からのメッセージ

MTをすることも大事ですが、自分で参考文献などを熟読することも大事であるように思いました。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

遺伝子組み換え実験というものに対して一段と興味を持ってくれるようになったと思います。

## LEGO ブロック作品展示会 (14022A)

T-ACT プランナー 飯野 拓人 (情報学群情報メディア創成学類1年)

### 活動内容

東大にはレゴ部があるが、筑波大には無い。私は筑波大にレゴ部を創設すべく、まずは雙峰祭の場でレゴブロック作品の展示会を行い、レゴブロックの魅力を多くの人々に伝えたい。

### 活動計画

- 5月1日 T-ACT にメンバー全員で説明会  
(おそらく)
- 5月13日 代表が雙峰祭企画説明会に参加
- 6月1日以降 LEGO マインドストームの使い方をメンバー内で確認  
筑波大学のミニチュア模型制作の検討  
推進する場合は設計図の制作・経費収集を開始する  
人員募集を T-ACT を用いて行う。(ピラ配り)
- 7月1日以降 毎週火曜18:30から代表が雙峰祭に関する企画団体責任者連絡集会へ出席  
雙峰祭のLEGO 作品展示会に向けて各自作品の制作開始
- 10月末 雙峰祭準備

### 活動期間

平成26年6月1日～26年11月3日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 亀谷仁志 (情報メディア創成学類)、松井慧 (情報メディア創成学類)、林下歩樹 (工学システム学類)  
P: 金尚泰 (図書館情報メディア系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 5月1日 T-ACT にメンバー全員で説明会
  - 5月13日 代表が雙峰祭企画説明会に参加
  - 5月21日 団体名「筑波大 LEGO 部を作る会」として、雙峰祭企画「LEGO 作品展示会」の登録完了
  - 6月1日 筑波大学のミニチュア模型制作の検討  
結果、資金的に不可能と判断
  - 6月17日 企画責任者の本人確認
  - 7月1日 第一回企画団体責任者連絡集会出席
  - 7月8日 第二回企画団体責任者連絡集会出席
  - 7月22日 仮企画実施場所が1E204に確定
  - 8月6日 パンフレット用原稿とアイコンを提出
  - 8月8日 企画実施場所変更のお願いで1E505教室の提案をされるが拒否  
結果的に良い判断だった。
  - 9月24日 机・椅子貸出申請を忘れたまま締め切りを過ぎたため、実行委員会に直接メール  
結果、机・椅子の貸出を了承された
  - 9月25日 5C 棟ラウンジにてメンバー会談
  - 9月29日 実施場所が隣の企画団体に部屋のコンセントを貸すことが決定
  - 10月1日 第三回企画団体責任者連絡集会出席
  - 10月7日 第四回企画団体責任者連絡集会出席
  - 10月14日 第五回企画団体責任者連絡集会出席
  - 10月21日 第六回企画団体責任者連絡集会出席
  - 10月26日 レゴで IMAGINE THE FUTURE. のプレートを製作
  - 10月28日 第七回企画団体責任者連絡集会出席
  - 10月30日 雙峰祭でのポスターを製作、実行委員に許可をもらう
  - 11月1日 準備集会出席・部屋の準備・作品の移動・無限玉転し機の製作
  - 11月2日 雙峰祭当日 10:00～17:00で展示開催・無限玉転し機の調整
  - 11月3日 雙峰祭当日 10:00～17:00で展示開催・無限玉転し機の完成
- ・目標達成度  
70%

予想以上の人々が訪れてくださり、様々な意見交換の場となった。

小さな子供達に感動を与えた。

企画メンバー全体で一つの作品を作るということができなかった。

・得られた成果

これから毎年展示会を開くとして、そのノウハウを得た。

LEGO 部を創設しようとしている人々がいることを広く知らせることができた。

### 今後の課題

・メンバーの集合・会談を十分に行えなかった。

・メンバーを増やすことができなかった。

・ビラを配れなかった。

・当日のシフトがキツキツだった。

・顧問の先生を探す。

### 経験者からのメッセージ

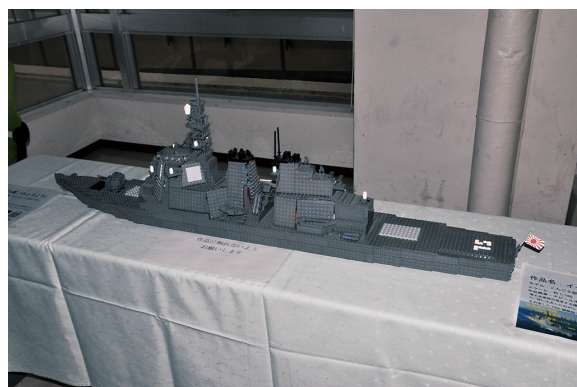
なんとかなるから、やってみよう。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

一人幽霊になった。

### T-ACT に関する感想

資金の補助をしてほしい。



## ● 球面のボードゲームで遊ぼう2 (14023A)

T-ACT プランナー 栗原 泰成 (理工学群工学システム学類3年)

### 活動内容

今年度の5月の初めで、前回行っていた「球面のボードゲームで遊ぼう」の企画が終了した。しかし、目標にしていた学生団体の設立が達成されなかったため、継続企画として立案した。

今回は、前企画に引き続き、球面のボードゲームの製作（ボードゲーム・コンピューターゲーム）・対戦・公表を活動内容とする学生団体の設立を目標とする。

よって、メンバー（パーティシパント）集めから団体の設立までが課題となる。

オーガナイザ・パートナーはもう一度同一人物に依頼してみて、できれば続投としたい。

### 活動計画

5月～6月 活動開始

ボードゲームの学生団体を訪問しメンバーを募る。

ゲームプログラミングについても同様にメンバーを探す。

ボードゲームの製作・試行を進める。

7月 学生団体の設立。活動拠点を定め、定期的に集まり活動を進める。

7月末頃 活動終了

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

T-ACT では活動を終えるが、学生団体としての活動は継続する。

(雙峰祭での展示など)

### 活動期間

平成26年5月1日～26年7月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：上田喬介（工学システム学類）、高園悠輔（工学システム学類）、富樫宏太（工学システム学類）

P：延原肇（システム情報系）

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

※学園祭にエントリーしたこと、つくばクリエイティブキャンプに参加したことは省略しています。（アイデアは同一ですが、T-ACT 活動には含まないと判断しました）

5月1日 前回の企画が終了

5月11日 ナインメンズモリスの試作、試行

5月14日 今回の企画を申請

5月21日 チェス、完成、新ソリティア、完成、試行

5月22日 延原先生にパートナー依頼、知的財産について聞く

同日、弁護士相談の説明を受ける

5月23日 将棋部主将とメンバー集めについて相談

5月25日 チェッカー試行

5月27日 将棋部にて資料配布

5月30日 チェスサークルリーダーと相談、資料配布

5月31日 ゲームサークルの代表者の人と相談

6月4日 企画が承認される

6月5日 オセロサークルリーダーと相談、資料配布

6月半ば 配布資料の締切り日

6月14日 ナインメンズモリスのゲームソフトの製作を進める

6月21日 ダイヤモンドのゲームソフトの製作を進める

6月23日 弁護士相談。アドバイスをうける

7月7日 ダイヤモンド、五目並べ試行

7月9日 産学連携本部に特許出願を依頼できるか説明を聞く

7月21日 弁護士相談、先行技術調査の依頼をする

7月23日 先行技術調査の結果が届く

7月下旬 特許出願を依頼

7月31日 企画期間、終了

※続きも書きます※

8月25日 延原先生に顧問の欄のサインをもらう

8月下旬～9月中旬 出願書類の修正

9月24日 特許出願、終了

9月29日 学生団体設立願、提出（設立が承認されたわけではない）

・目標達成度

パーセンテージでいうと70%

根拠

学生団体の行動・設立について：

結局、期間中に設立がかなわなかった。また、メンバー集めがうまくいかなかった。この項目は、あまり良い評価はできないといえる。

オーガナイザで活動する分には、不定期にはあったが対戦して意見交換やデータ収集ができた。

ボードゲームについて：

予定していたものについては、すべてのボードゲームについて模型を作成できた。これで「ある程度ポピュラーなボードゲーム」から端をなくすことを達成できたと思う。（駒が作れていないものもあり、まだ遊べないものもあるが）

ゲームソフトについて：

これについては、重要な部分に手を付けられていないと言える。というのはゲームの中にボードを構築することはできても、それらを制御するコードが書けなかった。また、次第にコードが複雑のなる段階に入ってくるものもあり、不慣れな自分には時間がかかりかかった。メンバー集めの時、プログラムに慣れている人が入ってくれるのをあてにしていたが、叶わなかった。

・得られた成果

・自分の行動力が大幅に増した。これはかなりの飛躍であったと思う。案外、やりたいことを詰め込んで行っても耐えられることがわかってきたので、いろいろ詰め込んでみた感じはある。欲を言えば、自分だけでなくオーガナイザの行動力をあげられるようなプランナーになれていたらもっと良かっただろう。

・「端のないボードゲーム」の設計段階が終了した。

・学生の特許出願についてかなりためになる成果を上げることができた。

一連の流れがわかったこと、学生向け料金の開設につながったことが挙げられる。

## 今後の課題

### 1. 予定外のチャレンジを詰め込んだことによる困難

本来、メンバーを集めて学生団体を作るといだけの活動内容であったのだが、

#### ①「自分のアイデアで特許が何かとれないかな」

と考えていたことを思い切って相談してみたのをきっかけに、少し回り道もしたが特許出願までたどり着くことになった。これによって本来の活動に遅延が生じた。また、対応しなければならないタスクが増えた。

#### ②「ソフトの配布はできそう。でも実物も売ったりできないかな」

と考えていたところへ、Tukuba Creative Camp すなわち起業のためのイベント開催を知り、参加することにした。これも①同様、本来の活動に遅延が生じた。また、対応しなければならないタスクが増えた。ちなみに、事業化の活動は現在も行っている。

上記の二つ、どちらも「期限内に学生団体が設立されなかった」原因になってしまったといわざるをえないと思う（しかも、この報告書をまとめるのも2月以上遅れてしまった）。しかし、①、②とも、T-ACT活動で得た行動力のおかげで、一歩踏み出すことができた。（T-ACTを経験するまえだったらできなかったことだと思う）さらに、行動の賜物として、かなり糧になったものが大きかった。（大きさでなく、踏み出すのに必要な勇気に比して、その100倍くらいリターンがあったと言っていい。本当に大きさではない）

だから、これは少し失礼な物言いかもしれないが、それほど悪いことをしたとは思っていない。

### 2. 参加者が集まらなかったことについて、今後の募集

募集の仕方として、上級者を集めたかったので、まずボードゲームサークルにて資料を配って、その後、一般向けにポスターを貼る構想を立てていたが、ポスターを作成した直後の弁護士相談にて、公開は控えた方が良くとのことだったので、ポスターは封印されることになった。（活動期間中は結局、貼りだせなかった）ボードゲームサークルの人からも、期日までに連絡がなかったので、集まらなかった。

また、ゲームプログラミングができる人も募集したかったので、筑波大卒業生が中心のゲームサークルのリーダーの人と相談したがメンバーが集められなかった。

ただし、ポスターの貼り方については学べたので、今後実行してみるつもりである。

## 経験者からのメッセージ

### ※特許について※

この欄を活用して、研究活動をしていない一般の学生が特許をとりたい場合に役立つことを書いておきます。  
 (私は今回、「つくば国際特許事務所」にお世話になりました。少し遠いですが自転車でもいけますし、費用も学生用の料金プランを用意してくれています。以下、その流れに従って書いていきます)

### 全体の流れ

弁理士の方にメールして相談したい旨を連絡する。

↓

メールをやり取りして相談日時を決める。

↓

事務所に行ってアイデアについての相談をする(※1)。料金や全体の流れの説明を受ける。先行技術調査の依頼をする。(※2)

↓

調査結果の内容をふまえて、特許出願をするかどうか決め、依頼する。

↓

出願の書類の案を作ってもらえるので、それについて修正や質問のやり取りをする。(※3)

↓

完成したら出願の手続きをしてくれるので、ここで出願までは終了。(※4)

※1 この時に模型程度のもので実物があると双方理解がはやい。

※2 先行技術調査については自分で特許庁のホームページで調べることもできる。(今回は、漏れがあるといけないと思い、依頼した。)

数日で結果が郵送で届く。

先行技術調査で先行技術とみなせるものが見つかったとしても、それとは違う要素を組み入れたり、改良がくわえられていれば出願の価値はある。

※3 期間は、修正案を何回作るかにもよるが、数週間くらい。

※4 出願しても、特許を取得したことにはならない。審査請求の手続きをし、審査に合格すればめでたく特許となる。ただ、特許出願まですれば、ある程度法に守られるとは言えるそうで、公表する目安にできるそう。

出願までで20万円程度かかった。

私の場合、お盆を挟んだこともあり、初めのメールから出願終了まで2か月と少しかかってしまったが、レスポンスが速い人であればもっと早く終えることは容易であると言える。(自分はところどころレスポンスの遅れが目立ったので)

## 運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントが集まらなかったため、オーガナイザについて書きます。

高園さんと参加者あつめのために一緒にチェスサークルにいった際に、そのリーダーは彼の知り合いであった。行動を起こしてみると思いがけない出会いがあることを実感してもらえたようである。

学園祭への参加についても話し合ったが、それに向けても協力的な姿勢を見せてくれた。

## T-ACT に関する感想

特許と商標についての学生料金プランを、知的財産の相談があったら役立てて下さると嬉しいです。

# ● Women's Hackathon at Tsukuba (14024A)

T-ACT プランナー 中川 みなみ (システム情報工学研究科 M1)

## 活動内容

### 【目的】

今日、IT 業界ではハッカソン等のイベントが数多く開催されているが、積極的に参加する筑波大学の学生が少ない。特に女子学生の参加が少なく、その理由として、「自信がない」と感じてしまう学生が多いことや、男子ばかりというイメージから敬遠してしまうことが挙げられる。筑波大学内でハッカソンを開催することで、そのような人たちのイベントに参加することに対するハードルを下げ、学外でのイベントに積極的に参加することに繋げる。

また、普段交流する機会が少ない他学類・専攻の女子とイベントを通じて交流を深めてもらう。

### 【ハッカソンとは】

「ハック」と「マラソン」を組み合わせた造語。

一定期間、集中的にプログラムの開発やサービスの考案などの共同作業を行い、その技能やアイデアを競う催しのこと。

本企画では、3日間でチームごとに課題に沿ったアプリや WEB サービスを開発してもらい、最終日に発表・審査を行い優勝チームを決めるものとする。

### 【参加対象】

- ・筑波大学の女子学生（大学院生含む）
- ・全日程参加できる方
- ・授業などでプログラミングを学んだことがある方  
(アプリ・WEB サービスなどの開発経験は不問)

### 【開催日時】

7月19日(土)～21日(月)

### 【場所】

総合 B 棟10階 1001

## 活動計画

6月9日～

7月18日 参加メンバー募集。WEB サイト公開。

7月19日～

21日 ハッカソン開催。

19日 概要説明・チーム決め・ハッキング

20日 ハッキング・中間発表

21日 ハッキング・最終発表・審査・講評

7月末～8月 活動終了。活動報告書をまとめる。

## 活動期間

平成26年5月16日～26年8月31日

## T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：坂元沙季（情報科学類）、的場早紀（システム情報工学研究科）

P：渡辺知恵美（システム情報系）

## 活動報告

### 活動成果

#### □活動内容

- ・5月20日 キックオフミーティング
- ・6月13日 Web ページ公開・参加者受付開始
- ・6月25日 学内にポスターを掲載
- ・7月18日 参加者受付メ切
- ・7月19日～21日 ハッカソン実施

#### □目標達成度

本企画の目標は、筑波大学の情報分野に興味のある女子学生がハッカソンに興味を持ち、学外のハッカソン等の積極的なイベント参加につなげることであった。

本企画実施後に参加者にアンケートを行った結果、またハッカソンに参加してみたいと答えた学生が11人中10人であった。

このことから、参加者がハッカソンに興味を持つという目標は大旨達成できたと感じる。

参加者のその後の活動を把握していないため、学外のイベント参加につなげることができたかは不明である。

#### □得られた成果

ハッカソンに参加する前は、アプリ開発等を経験したことがなく、自分の能力に不安を抱いている参加者が多かった。

しかし、3日間という短い期間でデモンストレーションを行うことができるほどの成果物を作り上げることができ、参加する前に比べて自分の能力に自信を持つことができたように思う。

#### 今後の課題

##### ・参加者の募集

宣伝開始時期が遅く、また立て看板等による宣伝が間に合わなかった。

そのためなかなか参加者が増えず、宣伝を強化すべきだったと思う。

##### ・技術サポーターの募集

今回、参加者の技術レベルによる制限は設けず、むしろ初心者を迎えるような募集をかけた。運営陣も技術力があるわけではないため、各チームを適宜技術的にサポートできる技術サポーターが必須であった。

周囲の人に声をかけてみたものの引き受けてくれる人は見つからず、なんとか応募して下さった方と、協賛して下さった企業の方の計2人（うち1人は初日のみ）にご協力いただくことができた。

しかしこの人数では全参加者（13人）をカバーすることは難しく、より多くの技術サポーターを募集する方法を考える必要があるだろう。

##### ・チーム分け

今回、チーム分けは参加者に全て一任した。

それぞれの経験や能力についてまったく考慮しなかったが、最後の参加者アンケートで、それらを自己申告でも良いので考慮した上でチーム分けをした方がバランスがとれて良かったのではないか、という声があった。

優勝チームを決める大会形式であることもあり、バランスの良いチーム分けの方法を考える必要がある。

##### ・開発環境の構築が大変

ハッカソン当日、開発環境の構築に苦戦する参加者が多かった。

環境構築に日単位で時間をかけることになってしまった人も少なくなく、運営陣がいくつかの環境構築について勉強しておくか、事前に参加者に環境を構築しておいてもらうといった何らかの対策を行う必要があるだろう。

##### ・金銭的な課題

今回は優勝商品やエナジードリンクなどを提供して下さる協賛企業の方がいらっしゃったが、それに加えて飲み物やお菓子を運営陣で提供していた。

参加者に集中して楽しくハッカソンをしてもらおうとすると、どうしてもお金がかかる。T-ACTからは予算がいただけないので、その点をどうにかする必要がある。

##### ・会場となる建物の施錠の問題

事前に建物に入れるよう申請をしておいたにも関わらず、最終日に自動ドアが開錠されておらず、参加者や見学者が建物に入れないというトラブルがあった。

このようなことがないように、確認や対策を怠らなければならぬ。

#### 経験者からのメッセージ

先述の今後の課題について考えていただいた上で、それ以外のアドバイスになりそうなことをこちらに書いていきます。

いろいろ書いてありますが、自分たちが参加するならどんなハッカソンがいいかな、楽しいハッカソンにしたいな、と考えながら作っていくことが一番重要だと思います。

##### ・協賛について

今回、優勝商品やエナジードリンク等を協賛企業の方に提供していただきました。

幸いにも協賛したいとおっしゃってくれる方々がいらっしゃったおかげで助かった部分が大きいです。

待つだけではなくこちらから協賛してくれませんか、と積極的に提案していけば、より協賛してくれる企業の方が増え、よりクオリティの高いハッカソンにすることができるのではないかと思うので、ぜひ検討してみてください。

##### ・参加者募集について

アンケート結果を見ると、twitterと知人の紹介が参加のきっかけとして最も多かったです。

また、初心者でも大丈夫、知識がなくても大丈夫、というのは参加者の心のハードルを下げる効果があるように感じました（参加者の自己紹介等から）。

お菓子も出ます！というのも付加価値として結構効果があると思っています。

ポスターは見ない人も多いので、学内を歩いているだけで目に入る立て看板をぜひ使って欲しいです。



### ・ハッカソンにもさまざまな種類がある

今回はざっくりとしたテーマをもとに好きに開発してください、というハッカソンでした。

ハッカソンの形はこれだけではなく、使用するツールや言語を指定したり、参加者を限定しても良いし、文系を絡めても楽しいと思います。

また、ハッカソンではなくアイデアソンという形にしても面白いのではないのでしょうか。

とにかくなんだか楽しそうで、参加してみたい！と思わせるような企画をぜひ考えてみてください。

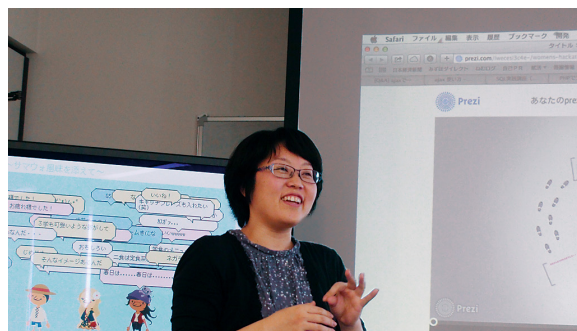
### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加する前は、「自信がない」「何もできないかもしれない」などと不安な言葉を使っている参加者が多かった。しかし、3日間チームで開発を行うことを通して、チーム内で自分にできることを見つけて実行し自分の得意なことでチームに貢献する人や、初めての分野に挑戦する人など、全員が何かしらの役割を担って行動することができていた。このハッカソンを通して、アプリ等の開発に挑戦することは自分たちが考えているほどハードルが高くないこと、チームで開発することの楽しさを感じてもらうことができたように思う。

また、「ハッカソンというイベントは知っていたけれど、自信がなくて今まで参加することができなかった」という参加者にはハッカソンに参加することの楽しさを感じてもらうだけでなく、チーム内で1つの成果物を作り上げてもらうことで、「成果物を作ったことがある」という自信を持ってもらうことができた。

### T-ACT に関する感想

T-ACT システムを使って参加登録したが、うまく登録できていなかったということが2件ほどあった。



## 1000000人のキャンドルナイト2014 @筑波大学—でんきを消してスローな夜を。— (14025A)

T-ACT プランナー 森 拓也 (人文・文化学群比較文化学類2年)

### 活動内容

去年に引き続きキャンドルナイト2014を松美池で開催します。原案は「1000000人のキャンドルナイト」さんです。

今年のコンセプトは「電気を消して一緒に安らぎ 想う 時間」です。たまには電気を消してスローライフを体験してもらうことで、家族・友人・彼氏/彼女など大切な人のことを思い返す貴重な時間となるでしょう。

それと同時に「電気の通っていない途上国の生活を体験し、考える」ことも行っていきたいと考えています。「でんきを消してスローな夜を。」

### 活動計画

6月～7月上旬 活動開始 メンバーを集める。

キャンドルナイトのコンセプト、日程、出演していただく音楽団体さん、ポスター・ピラ作成など話し合い、決定する。

集まったメンバーを渉外班（おもに音楽団体さんとの交渉）と広報班（おもにポスター・ピラなど広報宣伝活動）に分けて、班ごとに活動する。

7月中旬 松美池でキャンドルナイト2014開催！

7月末 活動終了 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる。

### 活動期間

平成26年6月1日～26年7月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：辻村梨紗（芸術専門学群）、栗田七彩（国際総合学類）、山内実緒子（工学システム学類）、糸澤文香（システム情報工学研究科）、佐藤文香（生命環境科学研究科）、大津萌（国際総合学類）、岡村和典（情報メディア創成学類）、梶村昂史（情報メディア創成学類）

P：内海真生（生命環境系）

## 活動報告

### 活動成果

6月19日 ミーティング

7月07日 ミーティング & キャンドル立て製作

7月08日 出演音楽団体さんとのミーティング

7月11日 1000000人のキャンドルナイト2014 開催

目標達成度：100%

多少の波乱はあったものの、当日は天候に恵まれ無事にキャンドルナイトを開催することが出来たので100%です。音楽団体さんとの交渉などの交渉力、ピラ・ポスターなどの広報宣伝力、当日のイベント運営の臨機応変力などは身に付きました。

### 今後の課題

動き出しの時期が例年より遅かったため、やらなければならないことが後手後手となってしまった。特に音楽団体さんとのミーティングはギリギリの時期に1回だけしか開くことが出来ず、リハーサルを詰めることが出来ずに本番を迎える形となってしまった。

### 経験者からのメッセージ

どんなことでも、まずやってみたら良いと思います。何かを始めるとき、100%出来ると確信してやることも大事ですが、成功する人は70%出来ると見込んでいれば始めてしまうそうです。そしてそのことを続けているうちに100%に持っていくといったことをやっているようで、まず「始める」ことが第一の関門なのではないかと思っています。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

初めは、キャンドルナイトがどういったものなのか分からずに手伝ってもらっていたので、要領が良く分かっていなかったのですが、当日になって雰囲気を感じるとこちらが何も言わなくても今やってほしいことをやってくれました。

### T-ACT に関する感想

T-ACT に関わる人とフレンドリーに接してくれるのは非常にうれしいです。今の形態で続けていただければと思います。

## プレゼンひろば 第二弾 (14026A)

T-ACT プランナー 藤田 佑樹 (システム情報工学研究科 D2)

### 活動内容

科学の街である筑波研究学園都市において、希薄になりがちな学術交流を促進したい。「図書館夜のプレゼンひろば」は筑波大学内の定期的な学術交流活動として実施を続け、さらに公共の場所での学術交流として「駅前キャンパス」を実施する。二つのイベントを通して、研究者（院生、学群生を含む）は異分野・市民の方々へ向けて研究プレゼンを行う機会を得る。科学の街における研究者の役割も広く周知される。

最終的には他の学術交流団体などと協力し、各イベントにおいて共催化を試み、筑波大学を中心とする学術交流の場を定着させる。

### 活動計画

- 6月～
  - ・隔週金曜18時半から、筑波大学附属中央図書館エントランスホールにて活動する（今年度中実施）
  - ・認知度向上のため、ポスターやフライヤーを作成する
  - ・内容は活動予告と運営スタッフの募集とプレゼンターの募集・駅前キャンパスの記者会見
- 7月～9月
  - ・駅前キャンパスの実施
  - ・科学技術コミュニケーション誌もしくは日本サイエンスコミュニケーション協会誌などへの査読論文／報告の投稿

### 活動期間

平成26年 6月 8日～26年12月 8日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：佐藤良太（システム情報工学研究科）、角谷雄哉（人間総合科学研究科）、小山初音（生物学類）、三松沙織（生命環境科学研究科）、金子純也（システム情報工学研究科）、伊藤敏（人文社会科学研究科）、松原悠（人間総合科学研究科）、山本泰弘（国際企画課）

P：斎藤末夏（附属図書館情報管理課）

## 活動報告

### 活動成果

- ・本活動は、科学の街である筑波研究学園都市において、希薄になりがちな学術交流の促進を目的に大きく二つのイベントを行った。
- ・学群生・大学院生を含む若手研究者の研究交流を図る『プレゼンひろば』を開催
  - 2014年度春・秋学期中金曜日隔週に筑波大学中央図書館エントランスにて『プレゼンひろば』を開催した。各日約10人が来場し、筑波大学の若手研究者らが活発に議論を交わした。この活動は JJSC (科学コミュニケーション雑誌) にて報告 (査読有り) した。
- ・研究機関と共に地域社会との研究交流を図る『駅前キャンパス』を開催
  - 2014年 8月毎週土曜日に TX つくば駅改札前にて『駅前キャンパス』を開催した。プレゼンターには様々な背景を持つ研究者にお呼びして、国立スポーツ科学センター、産業技術総合研究所、気象庁気象研究所、宇宙航空研究開発機構に所属する研究者にお越しいただいた。イベント開催中は各日約40人の一般人来場者が集まった。

上記を一部、または全体を含むつくば院生ネットワークの活動は新聞掲載 7件（常陽新聞、日経新聞他）の他、TSUKUBA COMMUNICATIONS VOL. 26 (添付資料：事業成果) に紹介いただいた。

学術的な交流のインフラに多くの研究者、一般人を参加いただき、交流の促進に助力した。

### 今後の課題

今後も活動の継続を考えている。そのためには今年度連携した組織と継続した協力が必要である。

本活動の実施場所がオープンな場所であったため、多くの組織と連携を行う必要があった。まずプレゼンひろばは筑波大学附属中央図書館のエントランスで実施したが、図書館への企画説明を経て実施の許可を頂いている。また駅前キャンパスでは TX つくば駅の改札前で実施したが、つくば市科学技術振興課（市民への広報・物品借用）、茨城県土木事務所（場所の提供）、茨城県警察・首都圏新都市鉄道株式会社（いずれも企画実施許可）と連携を行うことでイベントの実施が可能となった。さらに筑波大学の学生生活課に助力いただき、各組織に説明にうかがっている。

### 経験者からのメッセージ

短期行う活動はもったいないと思うこともあります。ぜひ T-ACT の申請期間が終わっても長期的に、継続し

て活動を実施されるとよいでしょう。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者は活動期間中にも変化していった。プレゼンひろばは大学の院生のみならず、学群生や教職員も参加するようになった。また駅前キャンパスは、TXを利用する方が足を止めてくれることも多く、聴衆に影響を与えることができていると考えられる。

### T-ACT に関する感想

T-ACT には多くの助成を頂いた。活動に必要な物品の貸し出しや、外部組織との連携の際には助言もいただいた。この紙面を借りて感謝いたします。



## ● セクシュアルマイノリティ×医療 (14027A)

T-ACT プランナー 須藤 れいな (医学群医学類4年)

### 活動内容

日本では人口の約5%がセクシュアルマイノリティであるが、一般的にはあまり認知されていない。また、医学教育においてもセクシュアルマイノリティについて学ぶ機会はほとんどない。

セクシュアルマイノリティは差別や偏見などをおそれて、医療機関にアクセスすることをためらう傾向にある。またHIV/AIDSをはじめとした性感染症や精神疾患、乳がんなど、一般の人に比べてセクシュアルマイノリティではリスクが高い医療上の問題がある。

本企画ではセクシュアルマイノリティの基礎知識・性の多様性を学ぶとともに、セクシュアルマイノリティ当事者の健康上の問題について考える。また、それに関連して、医療従事者がセクシュアルマイノリティについて知らないことが原因で起こりうる医療現場での問題点について、事例を用いてワークショップ形式で討論し、会場全体で共有する。

※本企画は2013年12月に行なわれたT-ACT企画「セクシュアルマイノリティ×学校教育」(13068A)を前身として設立された、筑波大学LGBTQAサークルにじひろと協力して行なう。

### 活動計画

- 6月 メンバー募集、大まかな枠組み・計画を練る
- 7月～9月 ミーティングなどにより具体的な内容を決めていく
- 9月中旬～ 宣伝開始 HP・ポスター作成
- 10月 or 11月 セミナー・ワークショップ実施
- 11月 活動終了

### 活動期間

平成26年6月20日～26年11月30日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：鈴木秀 (医学類)、岡田夏実 (比較文化学類)、堤夏鈴 (比較文化学類)、内田彰 (情報科学類)、高村有加 (看護学類)、コウイケツ (看護学類)、松本郁 (比較文化学類)

P：阪本直人 (医学医療系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 7月1日 ミーティング #1 メンバー顔合わせ・活動の確認・Facebook ページの作成→活動内容報告
- 8月16日 ミーティング #2 (Skype にて) 取り上げる内容、セミナー全体の流れについて話し合う
- 9月20日 ミーティング #3 ワークショップの内容を話し合う・実施日の決定
- 10月4日 ミーティング #4 調べてきたことの共有・内容構成の決定・スライド作りの分担
- 10月18日 ミーティング #5 スライドチェック・参加者の申込方法の決定→申込フォームの作成
- 10月25日 ゲストとしてお話していただく medicolor の山瀬さんとの打ち合わせ
- 10月29日 パートナーの阪本先生に経過報告・アドバイスを頂く
- 10月30日 ミーティング #6 セミナー当日スケジュールの時間配分やワークショップの詳細内容を話し合う
- 11月7日 ミーティング #7 ワークショップの詳細な流れや参加者にディスカッションしてもらう内容を決定
- 11月8日 しらかば診療所 (LGBT の人たちが安心して病院を受診してもらえる場所を提供するために2007年に開設された診療所) を訪問、先生方にお話をきく
- 11月13日 ミーティング #8 発表スライドの確認および修正
- 11月18日 ミーティング #9 当日会場に掲示するもの／当日の進行／配布資料など細かいことを決定・アンケート作成
- 11月24日 ミーティング #10 ワークショップで用いるシナリオビデオの撮影・当日の会場となる教室での機材／進行確認
- 11月25～28日 配布資料などの印刷
- 11月28日 ミーティング #11 最終打ち合わせ・当日の動きの確認
- 11月29日 セミナー開催

#### ・目標達成度

一番の目標としてはセミナーを滞りなく実施することであり、これは達成できた。

具体的な目標としては「セミナー参加者にセクシュアルマイノリティの存在を知ってもらい、医療の現場にお

いて実際にセクシュアルマイノリティ当事者の患者に対しても適切な対応ができるようになること」を挙げている。アンケートの結果を見ると、実際に来場してくれた参加者についてはこの目標をほぼ達成できたと考えられる。しかし、来場者数が予想以上に少なかったことは大きな反省点といえる。

また、「×学校教育」での反省を踏まえ、セミナー当日の予定時間を超過しないことを目指したが、これについては予定通りの時間で終了することができた。

#### ・得られた成果

来場者に、セクシュアルマイノリティに関する基本的な知識を学習し、セクシュアルマイノリティの存在を実感してもらえた。また、普段の生活においてもセクシュアルマイノリティの存在を意識するきっかけとなるイベントにできた。

また、プランナー・オーガナイザーとしては、前回の「×学校教育」よりもさらに多くの資料を集めたり議論したりと勉強することも多く、自分たちでシナリオビデオを作るなど新しいことにも挑戦できた。またイベントを企画することの大変さを実感するとともに、プレゼンテーションが苦手なオーガナイザーも実際にセミナーで発表を行うことで大きな経験になった。

### 今後の課題

#### ・活動全体のスケジュールについて

T-ACTの活動期間が半年であることをもう少し考えて、全体のスケジュールを設定すべきだったかもしれない。プランナー・オーガナイザーの予定を考慮して、6月末にT-ACTの活動申請を提出し、主に7月から活動を開始したが、7～9月は医学類および全学の夏休みで、しかも夏休みの時期がずれていることもあり、ほとんど活動することができなかった。結局実質的に活動できたのが10～11月の2か月だけであり、かなり負担が大きくなってしまった。

#### ・宣伝方法について

予想以上に来場者が少なく、宣伝方法にもっと工夫が必要だったと反省した。今回は一緒に活動している（メンバーが重なっている）にじひろの雙峰祭の件でアクシデントが発生し、その対応でポスターの作成が遅れてしまったという要因もあったが、より多くの人に来てもらえるようにもっといろいろな方法を使うべきだった。また、セミナーの日程についても、医学系の学会と多く重なっていたため、イベントに来れなかったという意見を頂いた。今回は医療関係者向けのイベントでターゲットが比較的絞られているため、その集団に合わせたスケジュール設定が必要だった。

来場者が少なかった要因としては、宣伝の不十分さに加え、認知度の低さもあると考えられる。「×学校教育」では教員志望者を対象としたが、教育現場においては主に性同一性障害を中心に多様な性への理解・対応の必要性に関心が高まっているが、医療現場においてはまだまだセクシュアルマイノリティの存在、当事者に配慮した対応の必要性が知られていない。そのように関心を持っている人が少ない中で、いかに関心のある人を集めてくるかという点でもっと工夫が必要であった。

#### ・セミナー全体（参加者）の雰囲気について

今回のセミナーの構成上仕方が無かった部分もあると思うが、全体的に授業を聞くような感じになってしまい、来場者が活発に参加するようにはできなかった。当日の会場の雰囲気は蓋をあけるまでは分からないので、どちらになっても対応できるように用意しておくことが必要だと感じた。また、会場の選び方も重要になってくるかもしれない。今回はグループワークがしやすいということで会場の教室を選んだが、「×学校教育」の際に使った教室は変則的な形の教室で、プレゼンターと聴衆の距離が近いという特徴があった。

#### ・司会者がいたほうが進行がスムーズだったかもしれない

プレゼンターの間で、発表内容が一部被っている部分が散見されたため、事前にもっと共有・確認するべきであった。セミナー全体の一貫性を持たせるためと、時間を有効に使うためにも改善が必要であると考えられる。

### 経験者からのメッセージ

半年という期間は意外と短いです。1年間のうちのどの6ヶ月をT-ACTの活動期間とするのかということも考えて、企画申請したほうがいいかもしれません。その上で、活動の予定・スケジュールをきちんと立てることを勧めます。私も大まかなスケジュールは立てていましたが、それでも予想外のアクシデントが起きたり普段の生活（実習）が忙しかったりと予定通りに進まず、直前の時間が限られている中での準備に苦労しました。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者のアンケートでの感想・意見から、セクシュアルマイノリティに関する知識を持つことの重要性を理解できた人がほとんどであり、自分でも調べたいという意欲を示してくれた人もいた。また、自分自身の普段の日常生活においても、知らずに傷付けてしまったことがあるかもしれないと反省している人もいた。

### T-ACTに関する感想

・ポスターに入れるT-ACTのロゴのダウンロードがわかりにくい。サイトから取ってくるようにとの指示が

あったが、サイトでは画素数が少なすぎて使用できず、結局 Facebook ページからとってきたが、これだと不便である。

- ・ビデオカメラを借りる際に、充電が足りなくなるだろうから充電しながら使うようにと言われたが、実際には充電しながら使うことは不可能であった。そのためビデオ撮影が途中でしかできなかった。もともとのビデオカメラの機能の問題なので、しかたないと思うが、できないということはきちんと把握してほしい。(他からビデオカメラを借りるなどの手段をとれた)
- ・教室や教室の設備の使用をやりやすく(ある程度優遇)してほしい。たとえば、通常よりも1ヶ月早く前に予約できたり、パートナー(顧問)の先生のサインがなくても予約できたりするなど。
- ・印刷について、色紙にも印刷できるようにしてほしい。
- ・開室時間について

11月29日のセミナー開催に向けて準備を進めていたが、かなり直前になって、推薦入試の期間はT-ACTフォーラムのある建物に入ることができないことを知った。T-ACTのホームページでの開室カレンダーを見て、配布資料の印刷をする日などの予定を決めていたのに、実質的には開室していないということを知り、負担がかなり増えて大変だった。推薦入試の期間に建物に入れないなどということはもっと事前に分かっているはずのことだと思うので、きちんと公表してほしい。

## 院生プレゼンバトル2014 (14028A)

T-ACT プランナー 藤野 未来 (教育研究科1年)

### 活動内容

「学群生の皆さん、大学院生がどんな研究をしているか知っていますか？」

大学院生の皆さん、大学院生のみなさん、家族や友達、学群生や一般の方に対して、あなたがどんな研究をしているか、わかりやすく伝えられますか？」

さまざまな研究科や学群・学類を有する筑波大学では、さまざまな最先端の研究が行われています。しかし、このような研究の成果は、普段の生活ではなかなか知ることはできません。特に、自分の所属と遠い分野であればあるほど、どんなことを研究しているのか知る機会は少ないというのが現状です。

また、近年、科学コミュニケーションなどのことばに代表されるように、科学者・研究者が一般の人にもわかりやすく研究内容を伝える必要があります。これは、大学での研究に携わる大学院生にも当てはまります。

しかし、学群生や一般の方ももちろん、大学院生同士ですらもお互いの研究を伝える機会は、そんなに多くはありません。研究プレゼンテーションを「ただ聞く」だけなら、興味のある分野の学会に行けばいい……。

そこで私たちは、「院生プレゼンバトル」と称して、2011年度から研究プレゼンテーションと学術交流を図る企画を運営してきました。

### ■企画内容

「院生プレゼンバトルは、大学院生による研究プレゼンテーションの No.1 を選ぶ企画です。」

4回目となる今回は、10月11日、18日（口頭発表部門予選）と、11月1日～2日（ポスター発表部門、口頭発表部門本戦）の日程で、大学院生による研究発表会を行うだけでなく、来場者も審査員として参加できるイベントを開催します。

プレゼンターとして参加する大学院生は、自分自身が日頃行なっている研究についての発表を行います。ここでは、学群生や一般の方にもわかりやすく、そして、魅力的な研究プレゼンテーションが求められます。プレゼンの方法は、口頭発表とポスター発表があり、どちらかを選ぶことができます。口頭発表では、予選を設け勝ち抜いた数名が本戦に進みます。

来場者は、大学院生の研究プレゼンテーションを見聞きするだけでなく、その場で質問が可能だけでなく、審査員として投票もおこないます。ここで集められた得点票は、集計を経て、発表を行った大学院生の中から特に優秀だったプレゼンターを決定し、表彰します。（また、未来の研究者枠として、筑波大学近隣高校より高校生を審査員として招待し、高校生 No.1 賞も同時に選びます→5月27日現在検討中）

※5/27現在の予定です。最新の情報は当団体ホームページをご参照ください

### ■参加方法

「院生プレゼンバトルは院生だけの企画ではありません！」

院生プレゼンバトルは、大学院生だけの企画ではありません。発表者は院生に限りますが、運営や一般審査員として院生だけではなく学群生や教員・職員のみなさまにもぜひ参加していただきたいと思っています。

### ■参加方法と参加に伴うメリット

「プレゼンターとして」

筑波大学で自信の専門をもつ大学院生であれば、誰でもプレゼンターとして院生プレゼンバトルにエントリーをすることができます。ふつう、学会発表には参加費用がかかりますが、院生プレゼンバトルでは参加費用はかからず、入賞すれば賞状のほかに副賞も授与されます。

また、結果は運営母体であるつくば院生ネットワーク（TGN）のホームページ上に掲載され、世界中からその情報にアクセス可能な状態になります。TGN のウェブサイトが継続される限り、優れたプレゼンテーションとして、専門領域や年代の枠を越えて広く評価されたという成果が記録されます。

昨年の参加者からは「専門分野の人たちだけが参加する学会では得られないような質問をされておもしろかった。ひとつひとつのコメントも嬉しかった」「大勢の人たちの前でプレゼンができて、とても楽しかった！」という声もありました。

「審査員として」

院生プレゼンバトルでは、来場者全員が審査員になることができます。発表を聞き、評価やコメントをすることができます。また、質疑応答時間やポスター発表のコアタイム、本戦終了後に予定されている交流会では、プレゼンターと直接ディスカッションをすることができます。このように、ただ聞くだけではなく参加の一員になることで、院生プレゼンバトルを来場者自身が、もっとおもしろくしていくことができます。

「運営として」

院生プレゼンバトルの運営は、TGN が中心となって行なっています。この企画の運営にあたり、院生だけではなく学群生の視点も是非取り入れたいと考えています。院生プレゼンバトルは、自分たちの手で自由にルールをつくることができます。「院生になったら、院生プレゼンバトルに出場したい！」と思っている学群生の方々には、特に運営に参加してほしいと思っています。「こんな院生プレゼンバトルなら、ぜひ出場したい！」と思えるような楽しい企画をつくっていきましょう！！



## ■企画立案の経緯

「2013年までの院生プレゼンバトルより、さらなる進化を！テーマはラフ・アカデミック」

院生プレゼンバトルは2011年にスタートしました。イベントには、多くの方にご来場いただき、とても盛り上がりました。そして「来年もぜひ続けて欲しい」という声を多数いただきました。

4度目の開催になる院生プレゼンバトルでは、「ラフ・アカデミック」をテーマに、より身近で(rough)、さらに楽しんでいただける(laugh)企画にしていきたいと考えています。具体的には、下記の事項について改善を行います。

- ・評価項目の見直し
- ・もっと快適な会場での開催
- ・ポスター発表部門の充実
- ・学生の親族、子どもの参加者を視野に入れた広報・企画
- ・参加者向けの企画(計画中)
- ・院生だけでなく、学群生からも運営メンバーの募集(次世代運営の育成)

## ■最終的な目標

「アカデミック×エンターテイメント＝院生プレゼンバトルの浸透」

院生プレゼンバトルは、アカデミックな研究プレゼンテーションをわかりやすく魅力的に伝え、来場者の知的好奇心をくすぐるものです。一見、難しいと思われがちな研究プレゼンテーションをエンターテイメントとして、届けていきます。このような企画が、筑波大学・つくば市をはじめ、さまざまな場所で行われるようになることを願っています。

## ■運営メンバー募集

院生プレゼンバトルの運営に参加するメンバーを募集しています！

総合大学であるという強みを存分に発揮し、プレゼンバトルを、筑波大学を、そして私たちの第二の故郷であるつくばの地を、もっと面白く魅力的なものにしていきましょう。

院生・学群生を問いません！運営は、個々人の専門や特技、活動目的などに合わせて柔軟におこなっていきます。各班、昨年の経験者がしっかりサポートしますので、興味のあるフィールドで、運営も楽しんでもらえればと思っています。

(昨年度の役割分担の事例)

- ・マネジメント
- ・開催規約策定
- ・広報 & 記録
- ・発表者対応 & 交流会
- ・機材 & 調達管理
- ・集計
- ・当日運営

## 活動計画

- 5月 運営メンバー募集開始(随時、参加可能です。当日運営のみでもOKです)  
運営ミーティングは2週に1回程度を予定

## 今後の予定

※5月27日現在の予定です。正確な日程はTGNのウェブサイトにて公開します。

- 5月下旬 場所・日時の詳細決定
- 6月上旬 ティーザー広報開始
- 6月下旬 企画詳細検討・募集要項策定
- 7月下旬 プレゼンターエントリー開始、審査員決定
- 9月下旬 -
- 10月上旬 エントリー締切・口頭発表部門予選会プログラム

## 公開

- 10/11(土) 口頭発表部門予選 A 日程、結果発表・交流会
- 10/18(土) 口頭発表部門予選 B 日程、結果発表・交流会
- 11/02(日) ポスター発表部門 口頭発表部門予選映像上映
- 11/03(月) ポスター展示 口頭発表部門 本戦、交流会
- 11月中旬 反省会 & 交流会

## 活動期間

平成26年5月10日～26年11月10日

**T-ACT オーガナイザー／パートナー**

O：松原悠（人間総合科学研究科）、山本泰弘（国際企画課）、安保大樹（社会工学類）、藤田祐樹（システム情報工学研究科）、小山初音（生物学類）  
P：逸村裕（図書館情報メディア系）

**活動報告****活動成果**

準備

6月14日 ミーティング

- ・テーマを「ラフ・アカデミック」に決定
- ・告知用ポスターの決定
- ・「教員プレゼンバトル」受講者への配布ビラの内容決定
- ・オリエンテーションについて

6月20日 ミーティング

- ・宣伝について
- ・企画書係について
- ・ポスター制作の依頼
- ・名称を「院生プレゼンバトル」から「学生プレゼンバトル」に変更
- ・参加資格を「筑波大学院生」から「学生」に変更

7月7日 イベントの実施

- ・台風であったにもかかわらず、多くの参加者
- ・今回の学生プレゼンバトルのコンセプトやルール

について説明できた

10月2日 本戦

- ・200人近くの参加者
- ・アンケートではまたやってほしいなどの声が見られた。

2月10日 反省会

- ・次回「学生プレゼンバトル」に向けての反省会

**今後の課題**

- ・運営側の人数確保
- ・定期的なミーティング

**経験者からのメッセージ**

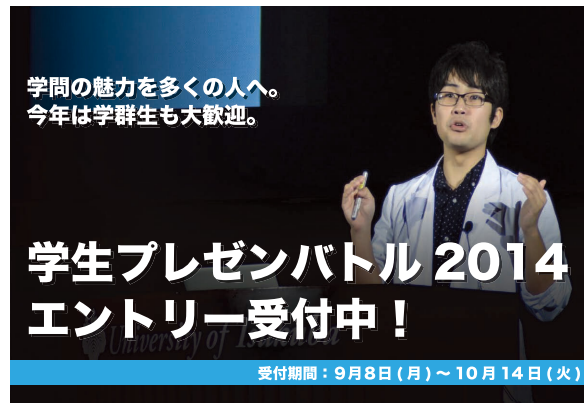
T-ACTのお陰で、広告を貼ったり、会場を予約しやすかったです。

**運営者側から見たパーティシパントの変化**

知名度が上がる前は、運営側の「身内」が参加者に多く見られたが、近年では、ポスターや昨年度までの実績から立ち寄ってくれる参加者が多くなった。

**T-ACT に関する感想**

申請や活動報告がもう少し簡便だと気軽に始められていいかもしれません。



学問の魅力を多くの人へ。  
今年は学群生也大歓迎。

# 学生プレゼンバトル2014 エントリー受付中!

受付期間：9月8日(月)～10月14日(火)

学園祭の人気企画「プレゼンバトル」が今年も開催決定!

学生プレゼンバトルとは、学群生や院生が自らの専攻している学問、または研究していることからの魅力を、または研究していることからの魅力を、一般の聴衆に対してわかりやすく伝えるスキルを競う企画です。あなたのエントリーをお待ちしています!

エントリー者全員に  
参加賞として図書券をプレゼント!



予選	10月21日(火)、22日(水)、23日(木) 各日 18:20～20:40 中央図書館集会所(入口ゲート前左)
	11月2日(日) 12:00～14:30 (学園祭1日目) 大会館小ホール 本戦出場者には賞品も。最優秀賞はなんと iPad mini!

プレゼンテーション要項の確認& エントリーはwebから! 学生プレゼンバトル 検索

T-ACT 承認番号: 14028A  
協賛: つくば院生ネットワーク (TGN)、株式会社 紀伊國屋書店  
Web: <http://tgn.official.jp>  
Mail: [tsukuba.graduate@gmail.com](mailto:tsukuba.graduate@gmail.com)

**T-ACT** TGN  
つくば院生ネットワーク

## TKB 就活コミュニティ2016卒向け就活セミナー (14029A)

T-ACT プランナー 木村 健太郎 (理工学群社会工学類4年)

### 活動内容

2016卒の大学3年生に向けて、これまで何十回も学内でセミナーを行ってきた筑波大OBの方を招き、就活セミナーを開きます。また、2015卒の内定者との懇親会を行います。

大まかな内容について

・筑波大OBの金子さん(大手複合機メーカー勤務)が2016卒向けに対して20社連続で企業に落ち続けて崖っぷちになった際に、悩みに考え抜いた末、新たな視点で就活を始めると大手4社から内定獲得するという自身の就職活動を経験から得たノウハウを伝授します。

皆が行っている就活は間違っている??

世の中の就活生が行っている間違った就活を正し、周りに流されない就活を行うことで企業から内定を勝ち取るための方法を様々な角度からていねいに説明していきます。

何のとりえもない大学生が有名企業、ベンチャー企業など多数内定を取る方法とは?

就活でやるべき3つのリストとは?就活でやってはいけない7つのリストとは?質の高いESを30分で作成できる方法とは?必須説明会の立ち回り方

内定をもらいやすいエントリーの仕方

内定者懇親会では2015卒の学生が、内定の秘訣や、就活に対しての不安や悩みを解消してくれます。

### 活動計画

6月 活動開始

メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る

6月~7月 OBの方との打ち合わせ、当日の流れを確認

7/12 セミナー実施

活動終了

メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年6月13日~26年7月19日

### T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 水谷翔平 (数学類)

P: 浅野哲 (システム情報系)

## 活動報告

### 活動成果

・活動内容

6月28日 ミーティング

7月13日 セミナー実施

・目標達成度

80%は達成できた。就活に対しての正しいアプローチを、わかりやすく伝えることができた。

・得られた成果

個別支援の申し込みが15人もあったこと。

### 今後の課題

参加者の出欠は取らなくてもいいのではないかと。予約制はなくした方がいい点。

### 経験者からのメッセージ

人を巻き込む大切さを学びました。マネジメント能力もつけられると思います。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

積極的に準備等動いてくれて助かった。

### T-ACT に関する感想

T-ACTをもっと多くの人に知ってもらいたいと思った。

みんな存在自体は知っているが、具体的にどんな組織なのかはいまいち分からないと思った。

## ● 競技としてのゲーム＝e-Sports 振興プロジェクト＝ (14034A)

T-ACT プランナー 菅野 洋信 (理工学群物理学類1年)

### 活動内容

FPS、RTS、MOBA、対戦格闘などのジャンルのゲームを競技としてとらえる「e-Sports」(Electronic sports の略語)

これは残念ながら日本では一般化されておらず、知名度はかなり低いです。

「e-Sports」は世界ではテレビ番組も存在する、メジャーな部類の競技として認知されつつありますが、日本ではそうではありません。

そこで我々は「e-Sports」を題材とした映画の上映と体験を通して「e-Sports」の知名度向上、「e-Sports」の活発化を狙います。

身体的特徴に関わらず誰でも参加できる「競技」として、また、卓越した技能を「観る」今までとは違った娯楽としてゲームをとらえることを体験させたいと考えています。

筑波大学内の人間だけでも、e-Sportsを知ってもらい、観客として、また、一部はプレイヤーとして楽しんでもらいたいと考えています。

また、可能であれば「e-Sports」を行うサークルを設立し、振興活動を行っていきたい。

### 活動計画

7月上旬 活動開始 メンバーを集める プレイヤーを集める 上映権で Valve 社とのコンタクト

7月下旬 観客を集め、「e-Sports」の史上最大規模の大会を題材とした映画「Free to Play」の上映大会に用いるタイトル、ルール決定、スタッフ確保

8月～9月 長期の休みを利用し、練習など

9月下旬 長期の休み終盤、観客を集め、実際の試合形式での大会振り返り、反応が良ければ冬の大会を検討

### 活動期間

平成26年 6月28日～26年12月27日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：長田一馬 (情報科学類)

P：谷口裕介 (数理物質系)

### 備考

我々は「e-Sports」に興味、関心のある方(年齢、性別、学類等、国籍問わず)の御参加をお待ちしています。  
※予定希望人数は運営、大会スタッフ、プレイヤー等全てをカウントした場合の最終的な希望人数となっています。

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

7月22日、7月24日、7月30日

7月-10月 大会用タイトルやロゴ等の権利に関して Valve 社との交渉

#### ・目標達成度

2 / 3

(達成)

「Free to Play」の上映会

大会タイトルに関する交渉

(未達成)

大会を開催

#### ・得られた成果

人数が少なかったが、e-Sports について広めることができた。

大会を開催する権利を得た。

### 今後の課題

大会参加者の確保

採用タイトルの選定

「身内の集まり」で終わらせないように観衆を集めるための広報

## 経験者からのメッセージ

今回、興味を持たれた方に e-Sports の世界を知ってもらうという目的の一つは達成された。活発化を狙うという目的では、大会の開催が達成できていないので、総合的に見れば失敗と言えるだろう。タイトルは「世界規模で見れば」メジャーではあるが、「国内では」マイナーなものを選んだのも人数確保の足かせになっていたと思われる。

そこで大切なのが「広報」というものだと思う。今回は T-ACT 用の設置してあるディスプレイ、ビラ配りを主軸に広報を行っていたが、あまり手応えや効果は感じられなかった。今回は上映会を機に参加者は4名も確保できた。

困難ではあるが、「こまめにイベントを開催する」というのが「e-Sport」だけではなく、ほとんどの企画を人数不足解消へと導くポイントだろう。現在では目に入る Twitter などの SNS の活用による効果も期待できるという情報も多い。

## 運営者側から見たパーティシパントの変化

趣味でゲームをプレイしていた人々が e-Sports の世界に触れ、e-Sports について知った

## T-ACT に関する感想

学生が何かしらの活動を行う良い場所となっている。  
ポスター等の印刷物に関しても相談を行い、改善点や強調すべきポイントを見つけやすい。



## ● TOGASHISM ～サプライズ・フラッシュモブ～ (14035A)

T-ACT プランナー 澁川 幸加 (情報学群情報メディア創成学類2年)

### 活動内容

留学する友人へ向けた激励のためのフラッシュモブを2、3学間で行います。  
簡単な振り付けで構成するので誰でも気軽に参加できます。

### 活動計画

- 6月 場所申請、メンバー集め、構成立案
- 7月上旬 合同練習。踊りや歌の指導
- 7月15日 昼休み 本番

### 活動期間

平成26年6月25日～26年7月15日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：酒井菜津子 (情報メディア創成学類)、金井啓太 (情報メディア創成学類)、木村有沙 (情報メディア創成学類)  
P：西岡貞一 (図書館情報メディア系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 6月16日 T-ACT への相談開始、主体スタッフ (4名) 決定
- 6月下旬 出演者・機材担当を集め、T-ACT への企画を申請。企画内容の大きな流れを決め始める。リハーサルの場所、当日の会場の使用許可を申請する。
- 7月1日～6日 企画書・フォーメーション図の作成。MLの作成、リハーサルへの呼びかけ
- 7月7日 球技体育館にてリハーサル。流れの確認
- 7月7日～13日 機材申請、企画書・フォーメーション図やパフォーマンスの改良、連絡  
※7月10日にも球技体育館にてリハーサル予定だったが、台風接近のため中止
- 7月14日 昼休みに2・3学間にて当日の動きの確認。機材を学生生活課から借りる。
- 7月15日 11:50頃～2・3学間にてパフォーマンス開始。(本番)
- 7月16日 機材返却

#### ・目標達成度

→75%

(理由)

約一ヶ月前から企画し、テスト期間と重なる中どうにか企画の実現にまで結びつけた。しかし、当初の企画設計の段階でのプランニング力不足により途中何度も変更を重ねてしまった。その結果、どれが正しいことを正確に参加者に伝えることができなかった。また、リハーサルの機会が少なかったのも一度も参加できない人が多く、正確な流れを理解する人が少なかったり、もたつくところもあった。(しかし元々フラッシュモブとは誰でも簡単に行える、簡素なパフォーマンスなもので、リハーサルを行わないケースもあるので大目に見ている部分もある)

#### ・得られた成果

活動するにあたり工夫したところはマーキングリスト (ML) やクラウド、Youtube を用いたデータ共有だ。MLで企画書やダンスの振付を Youtube に限定公開でアップロードしたものを回したことで、リハーサルに来れなかった人も理解することが出来た。

パフォーマンス当日は対象者の安全を確保したまま、けが人が出る事無くパフォーマンスを行うことが出来た。最終的にサプライズは成功し、対象者は泣いてくれました。また、参加者から楽しかったとの意見を多く得られた。

### 今後の課題

企画者側の教訓としては、企画発足段階で

1. 主体スタッフと協力者の必要人数の見積もり
2. 申請事項の確認
3. 本番までのタイムスケジュール (リハーサルを行うかなど)
4. 仕事の分担を明確化→責任の所在をブレないようにする
5. 活動の軸を定める

といったことに留意する必要があるとわかった。

3. に関しては当初リハーサルを行わないつもりだったところ、急遽行うことにしたので新製の時にパートナーの先生に迷惑をかけてしまった。(プランニング力不足)

4. の仕事の分担を明確化は、主体スタッフひとりひとりの仕事の負担が大きくなった。ある分野に強い人に意見をきいたことで大きく流れが変わったこともあったので(バンド演奏のパフォーマンスの部分)、最初から考えられる担当ごとに精通している人を主体スタッフに含めて委ねるべきだった。そして物事を決定するときにはよく吟味し、責任を持って行う。行き当たりばったりな判断を重ねないようにするべきである。

5. は軸や大きな流れ、コンセプトを固めておかないと揺らいだり見失う可能性があるからだ。今回はフラッシュモブを軸としていたことで決まった事項も多くあった。

以下は運営するときや当日の困難について。

フラッシュモブをするにあたり問題だったのが安全対策だった。歩いて移動をする、や一般客に危害を与えないために監視役をつけるといった対策をたてた。このおかげで学生生活課からも了承を得ることができ、付帯保険の加入の義務化を避けられた。

当日マイクの電源を誤って切ってしまい途中音が聞こえなくなってしまった。基本的な使い方や対策がうまく伝えることができていなかったため、機材を使う人には機材担当から説明をする時間をつけるべきであった。

また、当日のパフォーマンスの記録としてカメラを4台稼働させたが、一眼カメラ×3台、デジタルビデオカメラ×1台を使用した。それぞれの画質やホワイトバランスが異なったため、編集すると異質に感じるかもしれない問題が生じた。可能ならなるべく似たカメラで撮影するべきである。

### 経験者からのメッセージ

フラッシュモブやってみたいけど大変じゃない?というあなた。

T-ACTならやれます!実現できます!

必要な段階を踏んで、しっかりプランニングすれば、フラッシュモブでもなんでもできちゃいます。

やってみたい!をやってよかった!に変えると、すごい充実感を得られますよ。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

大人数で一つのパフォーマンスを行う醍醐味を味わえた人もいた。



## ● リクルート出身の創業社長と語る 「働く」を語ろう！ディスカッションセミナー (14037A)

T-ACT プランナー 守屋 克将 (理工学群工学システム学類3年)

### 活動内容

本企画の目的は、就職活動を来年に控えた学生を対象に、社会人から直接「働くとは何か」をお聞きする機会を提供することです。

私は大学卒業後の就職を希望しておりますが、具体的にどのような職種が自分に合っているのかや、実際に働くとはどういうことなのかについて、不安を抱えておりました。就職課に相談に行ったり、マイナビの主催する学内セミナーに参加したり等の行動を起こし、自らの不安を解消しようと思いましたが、なかなか不安を完全に解消するには至りませんでした。そんな中、元リクルートの社員で、現在は起業していらっしゃる星さんとお会いする機会があり、自らの不安を相談したところ、今まで他の方に伺ったことのない就職や「働く」ということについての情報や考え方を教えていただき、大変感動しました。そのような機会を、自分だけではなく、就活を前にした多くの学生のために作りたいたいと思い、この企画を立ち上げました。

具体的な目標は、来ていただいた社会人の方と学生がディスカッション形式で「仕事×働く×キャリア」を軸に話し合うことで、学生に「企業が求めている人物像・傾向、求められ方」について考え理解を深めることのできる場を提供することです。

### 活動計画

- 7月 活動開始  
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る  
セミナーを開催する(7月25日予定)
- 8月 活動終了  
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年7月2日～26年8月18日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小西伶児 (社会工学類)

P：古賀弘樹 (システム情報系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

7月15日 就職課と交渉

7月18日 講演者との打ち合わせ

#### ・目標達成度

就職関連のセミナーであったため、就職課との折衝を行い、学内での実施に関して問題が無い企画である旨の確認は取れた。

企画内容に関して、どのようなものが学生にとって需要があるのかを、知り合いの学生から調査し、集客力のある企画を講演者と検討した。

宣伝開始前の段階で講演者と実行メンバーの予定が合わなくなり、今回は実施に至れなかった。

#### ・得られた成果

就職関連のセミナーを行う際に、どのような内容であれば実施が可能か、どのような内容が学生に求められているのかをある程度知ることができた。

### 今後の課題

最終的に実施には至れなかったが、あくまで日程の都合が合わなかっただけであり、企画自体には実現可能性が十分にあったと考えられる。

しかし、企画から実施までの日程が非常に短期間であったために、慌ただしい準備となってしまっていた面もあるので、次回は早めに企画をしたい。



## 全学的映画制作プロジェクト (14038A)

T-ACT プランナー 稲福 和史 (情報学群知識情報・図書館学類1年)

### 活動内容

既存の映画サークルの枠にとらわれず、多くの才能を多くの場所から集めて映画を作りたいと考えています。いわゆる“映画サークル”に入る人は、映画を作りたい人が主です。しかし、映画は総合芸術です。シナリオが必要であり、音楽が必要であり、役者が必要です。しかし多くの場合、面白いシナリオが書ける人は文芸サークルに、良い音楽が作れる人は音楽サークルに、いい演技ができる人は演劇サークルにいます。これらの専門分野に秀でた人々を、サークルという枠を超えて、今までになかった形での映画製作を行いたいと考えています。最終的には、様々なコンペティションに出すことを目的に、映画作りにチャレンジしたいと思います。

### 活動計画

- 7月 活動開始 メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 8月 シナリオ・絵コンテ作成 シナリオ・絵コンテを作り、撮影に向けた準備を進める。
- 9月 撮影 夏休み最後のヶ月を使って、撮影を進める。

### 活動期間

平成26年 8月 1日～27年 1月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：三枝陽介 (情報メディア創成学類)、城山龍太郎 (情報メディア創成学類)、田中千聡 (生物学類)  
P：御園生涼子 (人文社会学系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 8～9月 シナリオ作成
- 10月 絵コンテ作成
- 11月～1月 撮影準備 (他団体への協力要請・テーマソング作成)

#### ・目標達成度

50%

当初は撮影・完成までを目標にしていたのですが、日程調整がうまくいかず、撮影を2月に延期しました。現在は、演技練習やテーマソングのバンド音源アレンジ、小道具の調達や、撮影日程の具体的な調整など、撮影準備を進めています。

#### ・得られた成果

多くの方々の協力が得られ、8月から始まったこのプロジェクトもあともうひと踏ん張りとなりました。まずは、完成させるという成果を得るために、がんばりたいと思います。

### 今後の課題

内容自体は継続中の企画ですので、今後の課題はこれから見つめなおすことになると思いますが、強いてあげるとすれば、日程調整のツメがすこし甘かったかなと反省しています。

20人近くが参加する企画ですので、今後の撮影では日程調整もより細かく行っていこうと思います。

### 経験者からのメッセージ

映画業界の中で唯一素人にできる仕事は「監督」だという話があります。その素人の監督の唯一の仕事は最後まで「撮りたい」という気持ちを持ち続けることだそうです。

その気持ちに、役者さんやカメラマンや照明さんや音楽さんは応えてくれます。

T-ACTにも同じようなことが言えるのではないのでしょうか。

「やりたい」という気持ちを最後まで持ち続けて、周りの人を巻き込み、成し遂げてほしいです。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

みんな多少なりとも、映像・映画について興味を持ち、作り手の目を持ってくれたのではないかと思います。映画制作を楽しんでいると思ってもらえたら、と感じます。

### T-ACT に関する感想

T-ACT システムの使い勝手が悪いので改善していただけると嬉しいです。

本名登録や個人のアドレスをシステム上から確認したいです。

## トヨタヒトシ上映会 (14039A)

T-ACT プランナー 高須賀 真之 (人文社会科学研究科 M2)

### 活動内容

写真家、トヨタヒトシさんを筑波大学に招き、作品の上映会を行う。

比較文化学類の学生だけでなく、他学類の学生や教職員、学外の一般の方にも、トヨタさんの作品を見ていただくことを目標とする。

### 活動計画

- 7～8月 活動開始  
メンバー集め、企画の話し合い等
- 9月 企画の準備  
本番に向け、細かい備品の買い出しや借用機材の申請、本番の動きの確認等を行う。
- 10月15日 本番（上映会）  
場所：開学記念館（予定）、  
目標集客数：100人程度、入場無料、雨天時は翌16日（木）に順延予定
- 10月下旬 反省  
～11月 今回の上映会の反省を行うと同時に、今後新たにやりたい企画があれば、それについて意見を出し合う。  
※予算はまだ未定

### 活動期間

平成26年7月23日～27年1月23日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：篠倉彩佳（芸術専門学群）、佐藤さなえ（比較文化学類）、藤田朋花（比較文化学類）、石井絵理（比較文化学類）、畑中美紀（比較文化学類）、山田祐奈（比較文化学類）

P：吉野修（人文社会系）

## 活動報告

### 活動成果

- 7月23日、T-ACT「トヨタヒトシ上映会」立ち上げ
- 8月、プランナー（高須賀）、パートナー（吉野先生）、トヨタさん間で話し合い。企画の内容を具体的に決めてゆく。
- 9月5日、ミーティング①（研究室）  
参加者全員が集まり、ミーティングを行う。  
・参加者間で情報の共有ができた。  
・雨天時の対応について細やかな意見の討議ができた。（決定には至らず。）  
・会場をみんなで下見し、当日のシュミレーションを行った。
- 9月20日、リーフレット完成
- 10月1日、ミーティング②（中央図書館セミナー室）  
・完成したリーフレットを参加者に配布し、それぞれの担当箇所に配ってもらう。  
・当日の役割分担（受付、場内誘導等）の決定
- 10月14日、ミーティング③（体芸図書館セミナー室）  
前日の最終チェックを行う。  
・当日アンケートの作成  
・各役割の確認  
・先生、トヨタさんと段取りの確認を行う。
- 10月15日、本番当日  
9時集合、設営開始  
18時開場、18時半開演  
21時終演、その後アーティスト・トーク  
22時、全日程終了

### 今後の課題

- ・野外での公演だったために、雨天時の対応をどうするか最後まで議論がもつれたので、計画段階でそういったオプションのことは決めておくべきだった。今後同じような活動をする際は、計画段階でそういったことは決めておくといよい。

- ・大学の外部からアーティストを呼んで行った企画であったが、アーティスト、学生、先生の意見を刷りあわせるのが想像以上に大変で、苦勞をした。今後は誰か一人に決定権を委ね、その通りに行っていく方がスムーズに進められるかもしれない。

### 経験者からのメッセージ

一からイベントを作り上げることは大変なことではありますが、今回の企画のようにギリギリまで不確定要素があってもなんとかなるものです。

とはいえ準備段階での計画を念密にすることは非常に重要なことだと思います。計画の段階から参加者と意見を共有し、ひとつひとつ確認しながら進めていくことが大事ではないでしょうか？

あとは、関わってくれた人たちに対する感謝の気持ちを忘れてはなりません。自分を助けてくれる方たちなしにはどんな企画も成立しません。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

はじめは受動的な態度だったが、本番が近づくにつれて自分から積極的に意見を出すようになり、とても生き生きと活動をするようになったように思う。本番の設営では、ムードメーカーの役割も果たしてくれ、本企画において欠かせない存在となった。

### T-ACT に関する感想

些細な事柄までご相談にのっていただき、とても助けられました。ありがとうございました。

## 児童養護施設での学習ボランティア (14040A)

T-ACT プランナー 伊藤 恵太 (人間学群障害科学類3年)

### 活動内容

児童養護施設とはどのような施設であるかご存知ですか？

この問いに対して多くの方が適切に答えることができないと思います。

想像はできていても明確なイメージを持つことはできないのではないのでしょうか。

実際、私が友達に聞いても、「児童館のような地域の子供達が集まれる場所なのかな」という答えが多く、正しい児童養護施設への理解が進んでいない現状があります。

では、児童養護施設とは実際にどのような施設なのか。

簡単に言うならば、親から虐待を受けた子供や経済的な理由で養育困難になった子供など何らかの理由で親と一緒に住むことができなくなった子供達が暮らす施設です。

世の中には、幼いころから多大な苦勞を強いられている子供達が何人もいます。

児童養護施設で暮らす子供達もいわゆる「子供の貧困」というものに該当します。

貧困を指す指標は様々ですが、一つとして学力の差があります。

児童養護施設で暮らす子供たちは、一般の家庭の子供たちと比べると学習面での遅れが見られることが多く、実際、大学進学率も一般家庭の子供たちと比べると明らかに低いです。

もちろん、「虐待なんか受けている状態で勉強なんか集中できるわけない」ですよ。

そこで、私は児童養護施設への学習ボランティアを募集します。

スタートラインからハンデを負っている子供達だからこそボランティアのやりがいもかなりあると思います。

活動は週に1回、子供一人に学生一人が個別につくという形式で考えています。

### 活動計画

8月～9月 メンバー募集

10月～ 活動開始 (実際に児童養護施設に出向いて活動します。)

### 活動期間

平成26年8月1日～27年1月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中野皐月 (看護学類)、伊藤里奈 (看護学類)、太田祥平 (生物資源学類)、岩沢佑哉 (看護学類)、伊藤佑希 (生物資源学類)

P：宮本信也 (人間系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

2014年8月～9月 ポスターを学内に掲示して、メンバー募集。

10月～ つくば市にある児童養護施設に出向いて、子供たちに個別の学習指導を行う。学習指導以外にも、子供と遊んだり、子供としゃべったりする中で、精神的に安定しているとは言い難い子供の良き相談相手となる。

12月26日 施設で毎年行われている、餅つき大会に参加する。子供たちと一緒に餅をつき、作った餅をその場で一緒に食べる。空いた時間は、サッカーや野球などして、子供たちと一緒に遊ぶ。

#### ・目標達成度 (70%)

ボランティアの数を多く集めて、実際に活動に取り組めたことは評価できるが、このボランティアは、継続的に行っていくことで効果が出るものである。逆に中途半端にやめてしまったりすると、子供との信頼関係が損なわれ、虐待等で入所している子供にとっては、傷を残しかねない。そういう意味では、今後も引き続きメンバーには参加してもらい、継続的にボランティアを行っていくように努力していかなければならない。残りの30%は、今後次第である。

#### ・得られた成果

T-ACTでの広報を通じて、合計4人の方が、活動に参加してくれた。また、学内にポスターを張って広報をすることで、直接参加することにこぎつけたわけではないが、学生にこのような活動をしていることを周知できた。実際に私の友人から、ポスターを見たという声を多くかけていただき、そこで具体的に私が活動内容を説明することにもつながった。

### 今後の課題

活動成果の欄にも記したが、このボランティアは継続的に行わないと意味を成さない。そういう意味では、今

後はメンバーのモチベーションが下がらないように、児童養護施設について理解を深める勉強会を行ったり、施設の職員と話す機会等を積極的に作っていききたい。

### 経験者からのメッセージ

T-ACTのサポート体制は大変充実していると思います。大久保さんをはじめとした、教員の方々が親身になって、企画の相談に乗ってくれました。また、ポスターを作る際に、Illustratorについての本を貸していただき、Illustratorを使うのは初めてでしたが、うまくポスターを作ることができました。

何かを企画して、そして運営していくとなると、すごく難しいように聞こえますが、実際は、ああしたほうがいい、こうしたほうがいい、など教員の方から多くの意見を聞かせてもらえるので、企画、運営を一人でやっているわけではないと思えることができます。

いろいろな人に頼りながら、素晴らしい企画を作り上げていってください。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントは、活動の数を重ねるごとに、児童養護施設、そしてそこに住む子供たちについての理解を深めてくれた。また、パーティシパントの一人が児童養護施設についてもっと多くのことを知りたいと言い出したことがミニ勉強会の開催に至った一つの要因である。

子供たちが入所している背景事情を知るか知らないかでは接し方に大きな違いが出る。そういう意味では、パーティシパントが児童福祉の分野に関しての理解を深めてくれたことはよかった。

### T-ACTに関する感想

T-ACTでは、大久保さんをはじめスタッフの方々から多くのアドバイスをいただき、その他多くのサポートをしていただき、企画を成立させることができました。企画を行うに当たって、特に苦勞することなくできたのは、スタッフの方々のおかげであると思っています。要望はありません。今のままのT-ACTで学生は不自由なく、活動できると思います。今後もお世話になることがあるかとは思いますが、その際はどうぞよろしく願いいたします。

## T-1グランプリ2014 (14041A)

T-ACT プランナー 三浦 郁士 (体育専門学群2年)

### 活動内容

筑波大学はお笑いサークルの数が他大学より少なく、パフォーマンス発表の機会も少ないと感じている。そこで、筑波大学の学生・教職員問わず面白いこと(漫才・コント・大喜利等)をしたい人を集め、パフォーマンスを披露する機会を作りたい。

また、大学における笑いによる交流を図り、そして筑波大学を笑いにより盛り上げたい。

### 活動計画

- 8月～9月 ・オーガナイザーを集め、活動開始
  - ・ミーティングにより企画および進行方法を検討
  - ・パーティシパント(演者)募集の広報方法を検討
  - ・決まり次第、広報開始(Web、SNS等)
- 10月～12月 ・広報実施(ピラ、ポスター等)
- 12月初頭 ・パフォーマンス

### 活動期間

平成26年8月8日～26年12月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 齋藤知美(看護学類)、篠倉彩佳(芸術専門学群)、小林陽一郎(化学類)、米田裕亮(比較文化学類)、島田慎太郎(知識情報・図書館学類)、菊池ゆとり(知識情報・図書館学類)、倉澤保(生物資源学類)、田村理沙(工学システム学類)

P: 五十嵐沙千子(人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 8月 許可申請  
末に参加者で顔合せ
- 9月 前半に落語研究会へ後援要請  
半ばで方針を決めるミーティング  
末にポスター、ピラの作成開始
- 10月 前半にHP Twitter のページ作成  
2週に1回 月曜にミーティング  
後半よりピラの配布開始(メンバーが集まれる日)
- 11月 前半に1Hの教室を確保  
週1回月曜日にミーティング  
T-ACTの授業に参加  
ピラ配布  
機材の申請  
当日1週間前に演者の確定
- 11月30日 1H201で本番
- 12月 数回の反省ミーティング

#### ・目標達成度

ピラの配布やSNSを使った宣伝に力を注ぐことで周囲の認知度が高くなったが、当日の参加者および観客が少なかったため、4割ほどの達成度

#### ・得られた成果

SNSやピラ配りを頑張ることで、やはりそれなりに認知度を得ることができる。

### 今後の課題

演者を固めてから、オーガナイザーを募集する形をとったほうがスムーズに運べた  
オーガナイザー、パーティシパントの人数が少なかった  
お客、スタッフともに参加者を募れなかった  
推薦入試とかぶってしまい、日取りが悪かった

### 経験者からのメッセージ

T-ACT を使ったことによって明らかに宣伝能力はあがります！

T-ACT はいいぞう

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

学祭時期はバラバラに行動してまとまりがなかったのだが、11月に入りピラ配り等呼びかけることで、少ない人数ながら、うまくまわるようにぐらいまでまとまった

## ～誰にでもわかる案内を3学棟内に～ (14043A)

T-ACT プランナー 松原 恒太郎 (理工学群工学システム学類1年)

### 活動内容

3学エリアの棟はすべてつながっていて、棟内で移動が出来る。  
しかし、その案内表示がわかりにくく迷いやすい。  
そこで、新しく案内表示を設置しようとするプロジェクト。

### 活動計画

8月～9月 メンバー集め・デザインなど話し合い  
10月～12月 案内表示の製作開始  
1月 設置と活動内容振り返り

### 活動期間

平成26年8月1日～27年1月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：齋藤充浩 (工学システム学類)  
P：庄司学 (システム情報系)

### 備考

デザインが得意な人 (芸専など) を募集

## 活動報告

### 活動成果

- ・活動内容  
8月27日 西川先生との対談  
11月10日 T-ACT の授業で意見集め
- ・目標達成度  
30%…自分の想像していた課題より複雑であり、方針が軽く決まっただけでアクションを起こせなかったから。
- ・得られた成果  
今回は3学棟内の案内の問題を取り上げたが、意見を聞くと筑波大学全体の問題なのだった。

### 今後の課題

今回始め T-ACT というものを企画してみたが、思った以上に課題が難しく、あまり進捗がなかった。それも、あまりメンバー集めもうまくいかずどうしようもない状況で終わってしまった。

そこで今後もう一度この企画を長期的にし、3学棟内のみならず、全学的に使いやすい筑波大学の案内表示を制作していきたい。また、アプリなどの今の世代にあった政策もたて、この大学に大きく貢献したい。

### 経験者からのメッセージ

始める前に人を集めたほうがいいです。笑

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

ごめんなさい、あまりパーティシパントと話し合いができませんでした…。

### T-ACT に関する感想

また近々お世話になりますのでよろしくお願いします。



## T-ACT の活動登録者数を増やそ〜♪〜雙峰祭前の短期集中〜 (14044A)

T-ACT プランナー 鈴木 宏之 (人間総合科学研究科 D3)

### 活動内容

少ないメンバーでがんばっていると、登録者に呼びかけるのも地味になりがちです。もしかしたら、呼びかけたことにもならないかもしれません。でも、プランナーやオーガナイザーが集まって大規模に呼びかければ恥ずかしくないし、そういう活動なんだとわかってもらえると思います。「イベントやりながらの目立つ広報」みたいな質はないけど、「低予算・低資源でも活動(宣伝)している人の量は半端ない」みたいな方法で T-ACT をアピールしてみませんか。やって失敗したならそれもまた経験。何が失敗かとわかるのも成長です。「失敗は成功の母」とも言いますし。

自分たちの活動に興味をもってもらうためにも、活動のモデルとしてプランナーやオーガナイザーや T-ACT 参加者、それに T-ACT サポーターの力を結集して、T-ACT 登録者の力で活動を広めませんか??

成果の過剰な期待はしないでほしいけれど、自分たちで動くことそれ自体に大事な意義があります。大規模に大人数でにぎやかにやりましょう。(事故を未然に防ぐリスク管理の意識と工夫も、この機会に今一度学びなおしませんか?)

### 活動計画

- 8月中 メンバーを募集し、T-ACT フォーラムに相談しながら話し合いを進める。
- 9月 活動の具体的な資源と手段を話し合う。  
活動場所を定める。  
活動日時の確定。
- 10月 雙峰祭に合わせて T-ACT の広報活動する。登録者を増やす活動をする。
- 11月3日 活動終了。

### 活動期間

平成26年 8月 6日～26年11月 3日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：上野遼太郎 (社会学類)

P：廣田春夫 (学生生活課)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

8月28日 web システムで勧誘メールを流す

9月26日 メンバー 3人で食事

10月13日 「T-ACT ボランティアの軌跡と可能性」出席

11月21日 活動終了

#### ・目標達成度

目標達成は10%です。

まず、自分で T-ACT システムを使ってみて、使い勝手を体験できました。また、動くことで T-ACT の現状と事業性格がなんとなくわかりました。それと、登録者を増やす上での壁のようなものを自分でいくらか把握できました。

#### ・得られた成果

現状認識が高まりました。具体的には以下のことがわかりました。

- ①3年後には単純計算で T-ACT の学類生登録者数がおおよそ2000人規模になる。
- ② web システムでの呼びかけは、工夫ができれば機能はしそうだ。
- ③ T-ACT に登録してても企画同士の交流は無さそうだ。
- ④そもそも T-ACT が盛んになることにどういう良さがあるのか認知してもらうの方が先かもしれない。登録者を増やす以前の問題がある。

### 今後の課題

呼びかけをさぼった。

ポスターとか貼っていない。

web システムのメール配信で手軽に済ませてもみんな集まってくれるだろうと思ったことが甘かった。

学類生だって暇じゃないんだ。

### 経験者からのメッセージ

それをやることの良さ・楽しさ・社会的意義などがどのようにあるのか明確になる企画名を考えるのも一つの考え方だったようです。

何をするかではなく、学生自身にとって、社会にとって、どのような良さがあるかを明確にすることが大事です。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

いや、わかりません。

### T-ACT に関する感想

筑波大学での T-ACT 月間とかがあったらいいなと思います。

「この時期は T-ACT! 一回くらいは参加しなきゃ損!」みたいなイベントの集中売り出し期間ができたらいいな～って勝手に思います。短期活動で、半年間とかただら活動してもしょうがない気がします。基本、やろうと思えばイベントなんて最短2週間くらいでそこそこのものができると思っています。人さえ集まればそんなに作業しなくて済むし。

文化祭含め、6月、11月、1月、みたいな感じで T-ACT 月間があると「おお」ってなります。

## ● むし食うべ：昆虫食をまじめに考える (14046A)

T-ACT プランナー 上原 拓也 (生命環境科学研究科 D2)

### 活動内容

本企画では、昆虫を試食する会を開催することで、参加者に昆虫について興味を持ってもらうだけでなく、将来の食糧問題についても考えてもらう。また、試食会を実施する過程で、昆虫の食品としての将来性・安全性や、提供時のリスクについて議論を尽くし、昆虫を将来にわたって安定的に、かつ安全に食べるためのガイドラインを作成することを目的とする。

### 企画立案の経緯

本企画の発案団体であるつくバグは、昆虫採集を通じた子供達への環境教育活動【企画番号：14015A】や、学園祭での昆虫展示を通して、身近居るにもかかわらず疎ましく思われがちな昆虫の知られざる生態を、主に学外に向けて発信してきた。今回、学内の学生や教職員向けに昆虫への興味を持ってもらうきっかけとして考えたのが、今話題の昆虫食である。

### 活動の背景

一昨年、国際連合食糧農業機関 (FAO) が昆虫食の利用を推進する報告書を発表して以降、メディアの注目も高まったこともあり、昆虫食が昆虫関連のニュースとして度々取り上げられている。報告書では、昆虫は森林から得られる栄養分・蛋白分の高い食料源の一つであり、養殖も容易であることから、人間の食用だけでなく家畜飼料としても有用性をもつ低利用資源であるが、現状では政策や技術が不十分であると主張している (1)。我々が、今その政策について論ずることは困難であるが、昆虫食について知ることは十分に有意義であると考えられる。特に日本は、イナゴ、ハチノコ、ザザムシなど、FAO によって昆虫食が提唱される以前から昆虫食文化の浸透する先進国の一つである (2)。

このように、昆虫食が根付いている地域がある一方で、最近では虫に触ることさえ出来ない子が増えているという報告もあり (3)、昆虫、ましてやそれを食するという事になれば、偏見や抵抗感が強いことは想像に難くない。昆虫も食肉も、同じタンパク質と割り切れないのが、現代を生きる日本人である。昆虫食になぜ人間が嫌悪感を抱くのか、これだけでも一考に値する問いかけではあるが、今回はその嫌悪感を払拭すべく、参加者には虫を、美味しく食として楽しんでいただき、虫という存在に否が応でも興味を抱いてもらう。それと同時に、食としての安全性を議論するなど、嫌悪感を無くす最大限の努力をする。

### T-ACT で活動することに意義

昆虫食をまじめに考えると、食文化としての背景、栄養価、フードセキュリティやそのための政策など、多分野を総合的に考えねばならない。その際に、総合大学において、さまざまな背景をもつ学生・教職員に対して広報活動を展開でき、様々な分野の推進室教員の助言を頂ける T-ACT の企画として承認されることが、スムーズな企画立案及び運営の為に必要不可欠である。

### 【引用】

1. Food and Agricultural Organization of the United Nations (2013) Edible insects Future prospects for food and feed security. <http://www.fao.org/docrep/018/i3253e/i3253e00.htm>
2. 内田昭一 (2011) 昆虫学入門, 平凡社.
3. 高校生「虫触れない」6割, 毎日新聞2014.06.15. <http://mainichi.jp/sumamachi/news.html?cid=20140615mul00m040001000c>

### 活動計画

8月～9月 活動開始

- ◎メンバー募集開始。つくバグ所属メンバーを中心に、季節の虫 (食用) を採集する。
- ◎安全な昆虫食のためのガイドラインを作成する (ガイドラインの作成にあたっては、昆虫食を学術的に研究する団体である食用昆虫科学研究会にも助言を依頼する予定である)。
- ◎ガイドラインの策定にあたっては特に以下について議論する。
  - ・採集上の注意
  - ・食べる上での注意 (下処理、調理法)
  - ・アレルギーについて
- ◎試食会の企画・及び参加募集
  - ・ポスターなどを作り、学内に告知する。
  - ・留学生向けポスターも同時に作成する。

10月 試食会実施

試食会では、虫の試食と昆虫食に関する簡単なプレゼンを予定している。  
11月 ガイドラインの完成版をつくバグホームページにて公開する。

### 活動期間

平成26年 8月25日～26年11月30日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：小長谷達郎（生命環境科学研究科）、山口芽衣（生命環境科学研究科）、藏満司夢（生命環境科学研究科）、井戸川直人（生物学類）、田中千聡（生物学類）、山本鷹之（生物学類）、中村篤（生命環境科学研究科）、小山寛（生物学類）

P：本田洋（生命環境系）

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

7月20日 企画発案（むし食う×めし食うベ奇跡の融合）  
8月上旬 セミ採集  
8月5日 T-ACT 申請  
8月25日 T-ACT 採択保留（理由：安全性や危険性周知の不備による）  
9月6日 食用昆虫科学研究会の会長を招いての勉強会  
9月8日 T-ACT 条件付き採択（危険性の回避や弁護士の相談など策を講じること）  
10月1日 東京にて法律相談  
10月8日 直前ミーティング（メニュー決定・お茶試飲）  
10月14日 トンボ採集・直前試食会  
10月15日 「むし食うべ」開催  
11月1～3日 筑波大学学園祭にて活動報告  
11月14日 つくバグミーティング  
11月26日 つくバグミーティング（今後についての話し合い）

#### ・目標達成度

65%

#### ◎良かった点

- ・時間がない中の開催であったが、食べる昆虫種や危険性、昆虫食の経緯などを、単なる興味本位でなく学術的な方面からも勉強でき大変良かった。
- ・先生方から厳しい問題を指摘されたが、それらを一つ一つクリアし納得してもらうプロセスは、問題・課題解決の良い経験となった。
- ・弁護士の方、食用昆虫科学研究会の方にご意見を聞くなど、学外からの知見を取り入れた活動が出来た。
- ・生物学類や生物資源学類だけでなく、情報系や文系の学生も参加しており幅広い分野へ昆虫食を周知できた。
- ・また1名ではあるが、フィリピンからの留学生も参加しており、昆虫食という日本食の特異な文化を示すことが出来た。
- ・一見ばかりしている事に本気で取り組んで、それを成し遂げるというプロセスを、今後つくバグを背負っていくであろう後輩に見せる事が出来てよかった（プランナーとして）。

#### ◎悪かった点

- ・当初、予定していたガイドラインの策定がプランナーの多忙につき保留状態になっており、企画終了時まで完遂できなかった。これについては、プランナーが大学院を修了するまでに一定の成果として報告するつもりである。
- ・上記に関連して、収支報告を未だ T-ACT 事務局へ提出しておらず、資金的に大変不透明な企画になってしまっている。これについても自身を持ってクリーンな企画を標榜するため今年度中に報告する予定である。

#### ・得られた成果

- ・成果を報告した学園祭にてアカデミー賞を受賞
- ・むし食うべが筑波大学新聞第317号に掲載
- ・非公式ではあるが、食用昆虫科学研究会会長からも高い評価を受ける。

### 今後の課題

- ・FAOの報告書は非常に内容の充実した整ったものだが、計200頁もあり、どこまで専門的にやるかという線引きをきちんとせねば、到底片手間で出来るものではないと分かった。
- ・昆虫食への偏見を克服することが大変困難であった。おふざけで終わらせないために、今後も真剣に取り組むべきである。

- ・季節柄、メニューに偏りが出てしまったので季節を考えて実施できると良い。
- ・学内に調理できるスペースが思いのほか無いことが困難となった。調理を伴う企画の場合は、早いうちに調理場所を考えることから始めるのが良い。
- ・先述のように、ガイドライン・収支報告の提出を行う。

### 経験者からのメッセージ

- ・どのような 이슈 に、どうアプローチし、最終的にどのようにしたいのかという、哲学（ビジョン）を持って取り組めば、どんなにばかげたことであっても必ず大きな実りのあるものになると思います。
- ・企画の発案時期は、学業などを勘案し、十分考えた方が良い（博士審査と重なるとつらい、でもやり残すことがあるのもつらいかも）。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

院生の諸君は、創立時からつくバグを共に作り上げてきたので変化を評することはできない。学類の1、2年生が居たが、彼らは十分に責任感があって企画への所属感も強いので既に素晴らしい。あとは行動を起こすこと自体は大変なことではないのだと分かってくれたら良いけれども、それは今後にならねば分からないのではと感じている。

### T-ACT に関する感想

- ・親身に相談に乗っていただきありがとうございました。
- ・むし食うべはあくまで T-ACT の力を借りて始まってばかりだと思っていますので、企画は終わってしまいましたが、必要な事は完遂致します。
- ・T-ACT への不満はありません。あとは一人でも多くの学生がこの制度を利用して何か一步を踏み出したら、大学生活があと少しだけ面白くなるのと思います。
- ・報告書の提出が遅れてしまいました。すみません。



## ● Team8 ～かけがえのない友達、時間、出会い～ (14047A)

T-ACT プランナー 渡邊 美智子 (人文・文化学群比較文化学類4年)

### 活動内容

筑波大学にはたくさんの留学生がいますが、日本人学生が彼らと関わる機会は非常に限られています。そういった環境を改善すべく、私たち Team8は留学生と日本人学生との交流の場を提供する活動をしていきたいと考えています。また、留学生に日本の文化をより深く知ってもらえるようなイベントや旅行も随時企画していきたいと思っています。

### 活動計画

- 10月 活動開始  
メンバー集め、以後半年間の計画を練る
- 11～2月 活動期間  
スポーツ・デーの参加、旅行、ワークショップ、マガジン製作など
- 3月 活動終了  
半年間の振り返り、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年10月1日～27年3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：武智玖海人 (比較文化学類)、村田明穂 (比較文化学類)、小森太郎 (応用理工学類)、横田健太 (情報科学類)、梅田実希 (国際総合学類)、上田正登 (教育研究科)
- P：小屋一平 (北アフリカ研究センター)、吉原ゆかり (人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

- ・活動内容
  - 10月24日 国際交流団体合同説明会
  - 10月26日 筑波山登山
  - 11月30日 焼き芋パーティ
  - 1月30日 節分ワークショップ

### ・目標達成度 (その根拠も述べる)

私たちは留学生と日本人との交流を促進するという目標を8割くらい達成できたのではないかと思います。たくさんの人にイベントに参加してもらい、イベントの合間で参加者たち同士が交流することができたからです。

### ・得られた成果

留学生たちは Team8のイベントに参加することで、つくばの魅力や日本の文化を体感し、また同時に日本人との交流を楽しむことができたと思います。

日本人学生も留学生たちとの交流を楽しむことができたと思います。

私たちオーガナイザーは、それぞれのイベントを企画することの楽しさ、大変さを同時に学ぶことができました。

### 今後の課題

パーティシパントの名簿をつくるのは大変でした。国際交流活動の参加者の多くはとても流動的であるのがその理由です。

### 経験者からのメッセージ

告知がとても大事だと思います。

せっかく良いイベントがあっても皆に知ってもらえるのがとても大変なので、様々な手段を使って、活動してもらいようにしたら良いと思います。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者は留学生のほうは変化がありますが、日本人のほうはあまりありません。なぜ日本人学生の変化があまりないのかというと、彼らの間ではこういった活動はまだ知名度が低いのと、敷居が高いと感じている人が多いからです。留学生のほうはその時々によって変わりますが、交換留学生が一番多いです。

SETSU - BUN  
節分 ~The bean-scattering ceremony~  
January 30<sup>th</sup> (Fri.)  
18:30-20:30 @5C316

In Japan, we scatter BEANS for praying our happiness through the year. Let's do bean -scattering with us! This event has other nice programs, for example introducing Japanese culture, talking ♪

日本では1年の幸せを願って豆をまきます。みんなで日本の豆まきを体験してみましょう!

他にも、日本の文化について紹介したり、お話ができたり、楽しいイベントがたくさん♪

What should we do if we encounter with a DEVIL...?

T-ACT 許可済  
学級番号14047A  
プランナー 渡邊美智子  
university@tsukuba.team8@gmail.com

## サイエンス・コミュニケーショントレーニング (14048P)

T-ACT プランナー 青柳 隆夫 (数理物質系教授)

### 活動内容

一般の人々が科学技術をめぐる問題に主体的に関与していける社会を確立することは現代における喫緊の課題であり、とりわけ次世代を担う学生がサイエンス・コミュニケーションの意義を理解し実践的なスキルを身につけることは重要である。独立行政法人物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 (MANA) は、大学との連携の上で、学生のサイエンス・コミュニケーション能力の向上の機会を提供していることから、サイエンス・コミュニケーショントレーニングの一環として、関連のアウトリーチ、サイエンス・コミュニケーション、広報業務全般の補佐を行う。具体的には、イベントの運営やホームページ、SNS、刊行物、ビデオ等の各種媒体を通じた情報発信等に参画する。

### 活動計画

下記行事等へ参画する

11月9日(日) つくば科学フェスティバル2014への「スマポレンジャー」出展

2月頃 サイエンスカフェもしくはトークイベント

4月中旬 「科学技術週間」における施設一般公開

その他、随時、SNSによる情報発信や小・中・高等学校への出前授業等

### 活動期間

平成26年11月1日～27年4月30日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：中川 泰宏 (数理物質科学研究科)

P：なし

## 活動報告

### 活動成果

11月9日(日) つくば科学フェスティバル2014への「スマポレンジャー」出展：

病気の診断・治療に応用可能な材料“スマートポリマー”について展示・実演を行い、市内の子どもたちを始めとする来場者とコミュニケーションを深めました。また、フェスティバルつくば市教育委員会より、来年度に市内の中学校の理科クラブとのコラボレーションを行ってほしい旨、検討を依頼されました。

2月24日(火) 特別セミナー開催：

2名の専門家を招いての特別セミナーの開催のロジを担当し、またセミナー講演の聴講をとおしてサイエンス・コミュニケーションの重要性やスキルアップについて学びました。

その他、物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 (MANA) の広報誌取材・編集業務の一環として、研究者インタビューや記事執筆等も行い、活動の様子が MANA の web サイトや広報誌上で報告されました。

### 今後の課題

広報活動 (参加者募集やイベント開催などの情報拡散) について、大学関係者他より効果的にアピールできるよう、ブラッシュアップが必要であると考えています。

### 経験者からのメッセージ

T-ACT は学生が視野を大きく広げる契機になり得ます。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

学生が自身の分担に責任をもって取り組もうとする態度が見受けられ、成長が感じられました。サイエンス・コミュニケーションに関心のある様々な学生が集うことで、相互に有益な意見交換ができ、楽しんで参画できている様子でした。

### T-ACT に関する感想

現状で必要最低限の情報は掲載されていますが、T-ACT のホームページがもっと充実していると内外の関係者に親切かと思えます。

## つくちょこプロジェクト2014 (14049A)

T-ACT プランナー 森 拓也 (人文・文化学群比較文化学類2年)

### 活動内容

つくばのまちチョコである「つくちょこ」、そのプロジェクトスタッフを募集します。  
まちチョコとは、地域の大学生がプロデュースしたフェアトレードチョコレートです。  
まちチョコについての詳しい説明は→ <http://machichoco.jimdo.com/> まちチョコ/  
毎年、つくばフェアトレード推進委員会 FRAT がプロデュースし、「つくちょこ」の開発・販売を実施しています。

今回の T-ACT 企画では、できるだけ多くの方に「つくちょこ」を知ってもらい、親しみをもってもらうため、企画をサポートするスタッフと一緒にさまざまな活動を実施していきます。

今回の企画では、

- ・「つくちょこ」スタッフによる、つくちょこパッケージデザインの考案
- ・「つくちょこ」を販売していただくお店のプランニング
- ・考案されたパッケージデザインをもとに、シール or タグのデザインを作製
- ・作成されたシール or タグをチョコに貼り付け  
……を実施する予定です。

本企画で販売活動を含めることはせず、あくまでもスタッフや多くの筑波大学の学生・教職員にフェアトレードを理解してもらい、フェアトレードの認知度を高めることを第一目標とします。

つくばの新たな名物を自らの手でデザインしてみたい！

地域の活性化に一役買いたい！

せっかく大学に来たのだから何か新しいことをやってみたい！

……と考えている人、ぜひ来てください!!! 大歓迎です!!!

### 活動計画

10月 T-ACT 承認

オーガナイザー募集、ポスター作成

オーガナイザーとフェアトレードの趣旨・活動内容を共有

つくちょこを置いていただくお店をプランニング

つくちょこパッケージの種類を決定

11月 つくちょこパッケージデザインの考案・募集 (数種類)

つくちょこパッケージデザインの決定

考案されたパッケージデザインをもとにシール or タグのデザインを作製

作成されたシール or タグをチョコに貼り付け

「つくちょこ」をポスターで宣伝 (予定)

12月～3月 定期的に宣伝 (予定)

### 活動期間

平成26年10月1日～27年3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：辻村梨紗 (芸術専門学群)、大津萌 (国際総合学類)、栗田七彩 (国際総合学類)、山内美緒子 (工学システム学類)、岡村和典 (情報メディア創成学類)、梶村昂史 (情報メディア創成学類)、篠倉彩佳 (芸術専門学群)

P：松井圭介 (生命環境系)

## 活動報告

### 活動成果

・活動内容

10月22日 ミーティング (パッケージデザインのスタイルを決める、パッケージデザインの募集方法・募集締切を決める、つくちょこを置いてもらう店舗 (仮) を決める)

11月12日 ミーティング (パッケージデザインの募集締切を延長する)

11月19日 ミーティング (パッケージデザインを決定する、ポップについて話し合う)

11月30日 シール (板チョコ200枚分) を貼る、作製したポップを印刷する

12月18日 つくちょこプロジェクト2014の反省会を開く

12月21日 シール (板チョコ400枚分) を貼る

01月30日 シール (板チョコ400枚分) を貼る

02月13日 シール (板チョコ40枚分) を貼る



02月27日 シール（個数不明）を貼る  
03月13日 シール（板チョコ152枚分）を貼る

#### ・目標達成度

目標達成度は90%です。

パッケージデザインに関する濃密なミーティングのおかげもあって、つくちよ'14のパッケージデザインはテーマに沿った素晴らしい案が採用されました。

一方で、つくちよプロジェクト2014を宣伝するポスターを作製することができなかったことは少し残念です。

#### ・得られた成果

パッケージデザインに関するミーティングの際に、人の意見を採り入れつつ自分の意見も出していく、ディスカッション運営の難しさを実感しました。ミーティングが主でしたが、参加してくれた多くのメンバーがつくちよプロジェクト2014の本来の趣旨を理解してくれたのではないかと思います。

#### 今後の課題

シール貼りの際に人がなかなか集まらず、思っていたより時間がかかってしまった点が課題です。

スケジュール管理の甘さ・コミュニケーション不足を実感し、より一層コミュニケーションをとることの重要性を実感しました。

#### 経験者からのメッセージ

ささいなことでもやってみたいことがあるなら、T-ACT を使ってアクションでもプランでも立ち上げてみると良いと思います。日ごろ忙しそうにしている筑波大生にも、意外と暇な人はいるもんです。

そういったいわゆる無所属層をいかに惹きつけるかはプランナーの仕事。集まってくれたメンバーの士気をいかに持続させるかもプランナーの仕事。やることは多いけれど良い経験になります。

がんばってください。

#### 運営者側から見たパーティシパントの変化

初めからメンバーの士気は高く、最後まで士気が下がることはありませんでした。そういった点では目立った変化は感じられませんでした。

各メンバーとも、日々の生活に支障をきたさない程度に一生懸命がんばってくれました。

#### T-ACT に関する感想

特にありません。



## ● 雙峰祭 学研企画強化プロジェクト2014 (14051A)

T-ACT プランナー 藤田 佑樹 (システム情報工学研究科 D2)

### 活動内容

筑波大学は広い分野で多くの学術研究がなされており、大学の強みであります。そして筑波大学において学外から来訪者の最も多いイベントが雙峰祭です。そのため雙峰祭は筑波大学を外に向けてアピールする絶好のチャンスです。しかしこれまで雙峰祭の場において効果的に学術研究をアピールするチャンスは用意されていませんでした。2012年 T-ACT 企画「雙峰祭 学内研究企画エリア拡充プロジェクト」から今日まで増加傾向にある雙峰祭の学研企画を盛り上げるべく、本企画では活動を行います。

具体的には、雙峰祭に向け学研企画及び学園祭実行委員会と協力して学研企画の来訪者を増加、来訪者のサポートを目指します。

### 活動計画

- 10月
- ・ミーティングを行う。
  - ・雙峰祭にて学研企画を宣伝・紹介するパンフレットの作成を開始する。
  - ・学園祭実行委員会と協力して効果的なパンフレット配布方法を検討する。
  - ・雙峰祭当日に向けて、パンフレットの事前配布・web 公開を行う。

- 11月 雙峰祭当日
- 学園祭実行委員会と協力して、パンフレットの配布を実施。  
来訪者に対する適切なサポートを実施。

- 11月中旬 活動終了
- 報告書の作成等を行う。

### 活動期間

平成26年10月1日～26年11月30日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：丸山啓輔（応用理工学類）、小暮祐一郎（生物資源学類）、田崎卯野（芸術専門学群）、出野幸智香（人文学類）  
P：高木栄（学生生活課）

## 活動報告

### 活動成果

筑波大学学園祭における学内研究企画の助成を目的として活動を行った。

#### ・活動内容

10/1 学園祭実行委員会とミーティング  
パンフレットに掲載する情報を決定した。  
・企画名、内容、自由記述等、学園祭公式のパンフレットよりも多くの情報を掲載できるようにした。  
パンフレット作製に必要な情報をパンフレット編集者が受け取った。

10/1 印刷会社“株式会社コムラ”に連絡  
入稿から印刷までのスケジュールを決定した。

10/5 学園祭実行委員会とミーティング  
パンフレット配布方法の方法を検討した。  
・学研企画が多く配置されている2, 3学での配布部数を増やすことを決定。  
・学研企画にパンフレットを配布し、企画中にも筑波大学学園祭の来場者に配布することを決定。

10/8 コムラにパンフレット原稿を入稿  
10/16 コムラから初稿が届く、修正  
10/29 コムラから完成したパンフレットが納品  
11/1～11/3 雙峰祭当日  
パンフレットを配布。来場者に学研企画を宣伝した。

### 今後の課題

活動メンバーとの反省の結果、活動を宣伝する際のネーミングに問題があったと考えている。『学内研究企画』という言葉は、若者に受けが悪く、多くの場合嫌厭されていたことが分かっている。来年度以降はネーミングを変え、親しみやすい名前に変更することが必要である。

### 経験者からのメッセージ

活動をする際は、試行と実施を繰り返すことをお勧めします。一度の失敗でもあきらめず、どこが悪かったのか、改善できるところはないか、メンバーとともに企画を洗練させることも必要です。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

筑波大学学園祭の来場者の多くに筑波大学の研究を紹介できたと考えている。また学内研究企画の参加も多くなってきている。参加者及び企画者の興味をこちらに向けことに成功しているのではないだろうか。

### T-ACT に関する感想

活動に際して、T-ACT には多くの助言を頂いた。この場を借りてお礼申し上げます。

## Dinner for Refugees ～難民を知ろう～ (14055A)

T-ACT プランナー 倉内 萌 (生命環境学群生物資源学類2年)

### 活動内容

何人の人が難民に関して正しい理解をしているのだろうか。日本にも難民の人が避難してきていることを知っているだろうか。

私達は学生に日本にいる難民のことを身近な「食」を通して知ってもらおう、という趣旨のもとでこの企画を実施しようと思う。

難民の祖国の料理を学食に導入し、難民に関して知ってもらう Meal for Refugees という活動の筑波大学での活動ということになる。

私たちは学食への導入ではなく、ワークショップを行う。多くの学生に参加してもらい、難民に関して正しく知ってもらうことが目標である。

### 活動計画

- 10～11月 ワークショップの準備、広報活動  
メンバーとワークショップの内容や学内での広報の計画を練り、準備を進める。
- 12月 ワークショップの開催  
12月5日に実施(人権週間)。グローバルcommonsを借りてワークショップを行う。  
軽食を伴うプレゼンテーションや参加者が参加型の企画を行う。
- 12月末 反省会  
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年10月22日～26年12月31日

### T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 渡邊陽一郎 (国際総合学類)

P: 首藤もと子 (人文社会系)

### 備考

TABLE FOR TWO 筑波大学と CLOVER の協力を得て行う。

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 7月2日 ミーティング  
9月28日 ミーティング  
9月30日 T-ACT 相談  
10月18日 ミーティング  
11月9日 メニュー試作会  
11月10日 ミーティング  
11月17日 弁護士と相談  
11月19日 ミーティング  
11月23日 ミーティング  
12月13日 ミーティング

#### ・目標達成度

実行断念

#### ・得られた成果

衛生管理及び責任への意識の向上。

### 今後の課題

メンバーの日程が合わず、ミーティングの頻度が少なかった。

→コアメンバーの人数を減らす。

全員でなくてもミーティングをするべきだった。

食堂への導入ができなかった。

→交渉への準備に力を入れる。

交渉する際の説明の仕方や配布資料に工夫をする。

交渉を長期的にする。

イベントでの料理提供ができなかった。

→衛生管理及び責任問題を軽視していた。

イベントが開催できなかった。

→学内での料理提供ができないと判断した時期が遅い。

補助案をもっと多く考えておくべきだった。

実行計画の見積もりが甘かった。

#### 経験者からのメッセージ

料理を提供する場合、責任が伴うことを忘れずに。

T-ACTの方々、大学の方々のお力をお借りしている自覚をしっかりとってイベント運営を行うべきです。

T-ACTのスタッフさんはとても親身に相談にのって下さるので、アドバイスをうけながら不安要素を解消していけるはずです。

## ● ハロウィン留学生交流会2014 (14056A)

T-ACT プランナー 森下 夢子 (人文・文化学群日本語・日本文化学類1年)

### 活動内容

目的:

在学生と留学生との交流・チューター同士の学年学類を越えた縦横の繋がりをつくることを目的とする。

企画立案の経緯・問題点:

チューター初経験者の経験不足や説明理解不足・学類が異なることによる履修問題、留学生の一般在学生との交流不足を問題視したものである。

チューター同士の縦横の繋がりを作ることで経験者の意見が得られ、留学生と在学生との交流もはかれると考え企画の立案に至った。

ハロウィンという行事を通じて交流を楽しんでもらいたい。

### 活動計画

- 10月15日 活動開始  
メンバーを集め、話し合いを進めて計画を練る
- 10月23日 中間報告  
計画案をまとめ、参加者を募る
- 10月末 活動終了  
メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる

### 活動期間

平成26年10月15日～26年10月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 山本鷹之 (生物学類)、三枝陽介 (情報メディア創成学類)、佐藤あゆみ (人文学類)、澤田裕貴 (日本語・日本文化学類)、太田宙輝 (人文学類)、城山龍太郎 (情報メディア創成学類)、野田寛人 (社会工学類)、志賀優花 (日本語・日本文化学類)、ABILDA, AIDANA (日本語・日本文化学類)、BALTABEKOVA, SYMBAT (人文学類)、SAGYN, SANDUGASH (比較文化学類)

P: 白山利信 (人文社会系)

## 活動報告

### 活動成果

・活動内容

- 10月15日 企画立案
- 10月22日 企画申請
- 10月23日 企画承認
- 10月25日 メンバー収集
- 10月26日 ポスター作製
- 10月27日 ポスター・ビラ印刷
- 10月28日 会場下見・機材申請
- 10月29日 機材借り・買い出し
- 10月30日 会場下見リハ・ポスター張り出し
- 10月31日 イベント当日

・目標達成度

70%

準備期間も少なく計画もずさんな割に、アクシデントに適宜対応しつつも会を成功させることができました。交流ゲームが予想以上に盛り上がりました。

・得られた成果

在学生留学生チューター同士の学類学年間を超えた交流

### 今後の課題

- ・準備期間を少なくとも1か月以上とる
- ・機材貸出しリストを作って確認をする
- ・広報活動を2週間前から行う
- ・リハーサルを行う
- ・開始時間と終了時間を守る

### 経験者からのメッセージ

これだけ準備期間が少なくても頼れるパートナーやオーガナイザー、T-ACTの協力があればやりたいことを実現することはできます。

まずは仲間を募って気軽に相談に来てみたら、いろいろなアイデアをいただけるかもしれません。ぜひいろいろな企画を立ち上げてみてください。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

最初は知り合い同士でかたまって、ぎこちなかった参加者ですがゲームや自己紹介を通じてほとんどすべての人が会の終了まで残り、片づけを手伝ってくれたり連絡先を交換したりして交流を深めていました。

### T-ACTに関する感想

もう少し夜遅くまで開いていてくれると嬉しいです。



## サッカー×社会貢献～新しいスタイルの社会貢献 (14057A)

T-ACT プランナー 大宝 菜都美 (社会・国際学群国際総合学類3年)

### 活動内容

現在、世界の多くの国が発展途上である。そのような国々に対して国際協力等をするのは、先進国の義務のようなものにもなっている。一先進国に住んでいる以上、私も私にできることをしたいと思っているし、学生だからできることもあると考えている。

しかし、国際協力というものは、まだまだ日本社会や学生の間に浸透していないと感じている。そこで、私はもっと多くの人に国際協力を身近に感じてもらいたいと思っている。そのためには、あえて国際協力とは関係のない媒体を通して国際協力の場を設けることができれば、より多くの人に国際協力というものに触れてもらうことができると考えた。

2011年になでしこジャパンが女子ワールドカップで優勝し、今年の6月にサッカーワールドカップが開催されたことをきっかけに、現在日本では熱いサッカーブームが到来している。筑波大学にも蹴球部やサッカー同好会、各学類のサッカーチーム等の多くのサッカーチームが存在し、サッカー人口がかなり状況である。そこで、チャリティフットサル大会を開催すれば、多くの人が楽しみながら国際協力に触れることができると考える。

このチャリティフットサル大会を開催することができれば、私はこの収益金を、サッカーを通じたカンボジアの支援にあてたいと思っている。カンボジアはポルポト政権時代に多くの知識人や大人が虐殺され、カンボジアにおける子どもの割合がかなり高い状況から、現在までに発展したという歴史を持っている。現在ではかなり発展したが、それでもポルポト政権時代の負の遺産があり、教育レベルが低かったりする。学生である私に教育レベルをあげる支援をすることはできないが、カンボジアでサッカーができる環境を整えることができれば、サッカーを通して情操教育や物事に真剣に打ち込む姿勢などを伝えられると思っている。

### 活動計画

- ～10月22日 企画書完成
- ～11月8日 参加者募集
- ～11月15日 大会準備
- 11月22日 大会開催

### 活動期間

平成26年10月17日～26年11月22日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：瀧田実紀（国際総合学類）、北栄麻弥（国際総合学類）、澤田宏二郎（国際総合学類）、熊田佳津雄（国際総合学類）、安良岡健太（物理学類）、三枝昌紀（物理学類）、松井光之（工学システム学類）、宮木萌（国際総合学類）、岡田敬（知識情報・図書館学類）、村上元（国際総合学類）、馬場麻佑花（国際総合学類）、田崎博之（物理学類）、上田純祐（国際総合学類）、千葉菜々美（国際総合学類）、守興尚史（国際総合学類）、鈴木良介（社会工学類）、田口加奈子（日本語・日本文化学類）、須藤華織（生物学類）、安里喬泰郎（心理学類）、和田桃乃（国際総合学類）、井上岳（生物資源学類）、大原敬之（数学類）、田中孝（数学類）、村上美羽（社会学類）、福塚真衣（障害科学類）、植竹渉（国際総合学類）、渡辺慎裕（国際総合学類）、湊脩人（国際総合学類）、室山万梨那（国際総合学類）、木村綾乃（国際総合学類）、大野銀河（社会工学類）、小林篤史（心理学類）、朝倉夕貴（人文学類）、鈴木瑞穂（人文学類）、福井大智（生物学類）、増田桃圭（工学システム学類）  
P：山口 拓（体育系）

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 10月1日～11月19日までの間、毎週水曜日と土曜日にメンバーとミーティング
- 11月11日～11月21日までの間、平日の放課後に大会準備
- 10月30日（木）法律相談
- 11月22日（土）イベントの実施

#### ・目標達成度

今大会の外部への目標は、参加者の皆様に「サッカーは国際協力になるのだ」と伝えることと、「身近に国際協力ないし社会貢献につながることはたくさんある」ということを伝えることでした。また、内部の目標は、指示を出せる先輩と自主的に動く後輩を育てることでした。

外部目標に関しては達成できたかと思います。多くの参加者から、「サッカーをすることで国際協力・社会貢献になることが知れて嬉しい」というお声や、「意外と簡単に、楽しく国際協力ができるんだ」というお声をたくさんいただきました。



内部目標に関しては、あまり達成できなかったと思います。大会準備期間に先輩が指示を出さなかったため何もすることがないメンバーがいたり、大会当日に、当日の流れを把握しきれず、戸惑う後輩の姿が多く見られました。ただ、これらのことをメンバーは自覚しているので、次のイベントに活かすことのできる体験にはなったかと思います。

#### ・得られた成果

今大会で得られた成果として、メンバーのモチベーションの向上があげられます。今大会で自分たちの未熟さに気づき、悔しい思いをし、それが次のイベントへの糧になったかと思います。

#### 今後の課題

今後の課題としては、メンバー間での「ハウレンソウ」の徹底と、1人1人の自主性の向上があげられます。セクションに分かれて仕事をしたのですが、セクション内ではハウレンソウができていても、セクション間でのハウレンソウが徹底されておらず、縦割り行政のような状態が見られました。

また、ハウレンソウができていなかったからこそ、全体への指示が通らなかつたり、考えて動くことができない人もいました。

ただし、1人1人がもっと自主的に仕事をさがしたり、質問をしたりしていればこのような状況が防げた部分もあるので、自主性の向上も大きな課題であります。

#### 経験者からのメッセージ

予想外が当たり前だと思ってください。逆に、予想通りにものごとが進むのはまれです。さまざまなシチュエーションを予想し、それらをメンバーと共有することで、少しでも臨機応変に対応できるように準備をしておくといいですね。

#### 運営者側から見たパーティシパントの変化

参加者変化したと思います。大会参加前はサッカーをスポーツの一つとしてしか捉えていな方が多かったように感じましたが、大会後に、国際協力・社会貢献のツールとして捉えていただけるようになったかと思います。

#### T-ACT に関する感想

いつも親身に相談にのってくださってありがとうございました。

また、法律相談の機会も設けていただき、ありがとうございました。



企画番号：14057A

## サッカー×社会貢献

～新しいスタイルの社会貢献～

サッカー×国際協力

大会参加で社会貢献

**ただのフットサル大会じゃない!**  
フットサル大会のプレイヤー、1日マネージャーを大募集!  
「サッカーが好き」「国際協力がしてみたい」そんなあなたを待っています。  
速く感じてしまいがちな国際協力をもっと身近に感じましょう!  
※大会運営費を除き、収益はすべてカンボジア・スマオン村の支援に充てられます。

大会詳細	
日程: 2014/11/22 (sat) 12:00～18:00	QRコード
会場: フットサルタリオンちよだ	
参加費 チーム参加 15000円	お問い合わせ
個人参加 2500円	
1日マネージャー無料!!	
お問い合わせ: worldfut298@gmail.com	

フットサル  
TSUBUKA

フロンター: 大塚東部実  
連絡先: +81216335@tsukuba.ac.jp  
大会協力: 茨城大学公認サークル  
TSUKUBA

## ● 小中学生とのミュージカルワークショップ体験 (14058A)

T-ACT プランナー 大西 衿沙 (理工学群応用理工学類4年)

### 活動内容

#### ■問題意識

- ①自己肯定感の低い筑波大生  
→自分の表現が正解として認められる場であるミュージカルワークショップで、ありのままの自分で堂々として生きるきっかけを作る。
- ②既存の枠組みの中でしか動かない筑波大学生が多い。  
→もっと飛躍的な研究、活動ができるのではないかと？ 普段触れ合うことのない表現活動に触れ、既存概念を揺さぶることで創造性が高まるということが明らかになっている。
- ③地域の交流に参加する大学生が少ない  
→ミュージカルという場で心と身体を通して大学外の方々と触れ合うきっかけになる。

#### ■企画立案の経緯

- ①筑波大生にもっと身体も心も解き放って表情のある生活を提供したい
- ②演劇を通して地域や大学を更に豊かにしたい

#### ■最終的な目標

- ①自分を堂々と表現する筑波大学生を増やし、主体性が高く相手を尊重できる学生であふれる大学にする。
- ②ワークショップを通し、子どもたちに更に豊かな気づきを与える場にする。また、子どもたちから豊かな気づきを得る大人を増やす。
- ③心と身体を通して筑波大学生が地域の大人や子どもたちと関わる敷居を下げる。

#### ■ワークショップの内容

ワークショップは2パターン用意する。

- ①大学生対象のミュージカル入門ワークショップ  
ダンス、歌、芝居の基礎を学び、表現する楽しさを味わう。
- ②子どもたちと一緒にミュージカルの1シーンを作ろう  
子どもたちの表現力は無限大です。普段関わらない子どもと大学生がミュージカルを通して新たな気づきをお互いに与え合えたらと思います。

#### ■NPO 法人劇団クリエの講師（梅原美穂さん、大滝順次さん、上原久栄さん）を選んだ理由。

- ・つくば市在住で、筑波大生がアクセスしやすかったから。
- ・大人から子供まで、また初めてミュージカルを経験する人からプロやプロを目指す人まで、指導する生徒の層が厚く広く、初めての人でも楽しめる場を作れる方々だから。

### 活動計画

- 10月～ 活動開始  
メンバー集め、劇団との打ち合わせ、広報方法を考える
- 12月 ワークショップ開催！
- 12月末 メンバーで最終振り返りを行い、活動報告書をまとめる  
その後、参加者と連絡を取り合ったりしてつながりを広げる。  
今後の演劇の活動や地域交流の活動に生かしていく。

### 活動期間

平成26年10月20日～26年12月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：下村理愛（教育研究科）  
P：荒川麻里（人間系）

## 活動報告

### 活動成果

- 11月 ミーティング
- 12月17日 ミュージカルワークショップ1日目  
インプロゲームと台本を使ったお芝居、歌の体験  
懇親会
- 12月21日 ミュージカルワークショップ2日目  
インプロゲームと歌の体験

**今後の課題**

インフルエンザで講師が2人急きょ来れなくなってしまった。WSの内容が告知していた内容と違ったので、参加者に満足してもらえるか不安だったが、企画側が講師となり進めた。

**経験者からのメッセージ**

相手を楽しませようという気持ちが一番大事だと思いました。

**運営者側から見たパーティシパントの変化**

何かしらそれぞれが感じとっていたように見えた。

**T-ACT に関する感想**

チラシなどありがとうございました。

大久保さんも参加してくれてうれしかったです！

## Omochi Language Club Next Generation (14064A)

T-ACT プランナー 中島 隆伸 (体育専門学群4年)

### 活動内容

筑波大学には数多くの国際交流サークルが存在しますが、その多くが英語を主体としたものです。英語を交流の原点に置いてしまっただけでは、その組織自体が固定化、特定の人たちだけのサークルになってしまうのではないのでしょうか。

その問題を解決しようと思いました。

おもち Language club は決して英語と日本語の会話サークルなのではなく、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、あらゆる国の言葉が飛び交うものにしたいです。

初めの一時間、留学生がその留学生の母国語を習いたい人に、会話、テキストを通して教えてあげ、次の一時間は、最初の時間に教えてもらった人が、その人の母国語を教えてあげる時間に設定します。語学交換をするわけです。基本的には最初の一時間目は、留学生の言葉を勉強します。次の時間は日本語を留学生に教えるという形をとります。

語学交換は希望では週1回の頻度で行えればいいと考えてます。

ただ語学交換が真の目的ではなく、語学交換を通して、日本にきている留学生、学生の交流の発展につながるようしていきたいです。

As you know, there are a lot of English communication clubs in Tsukuba university but the almost member of those are from English countries and people who can speak English well and who wants to study it. In this situation, what happens is that the member is .. I mean the club can't have new winds from other culture and people.. etc. I want you guys to have fun with not only people who is from English countries, even if we can not speak English. That's why I organize this Omochi language club.

We are going to have two hours class for Exchange language. First one hour exchange students or people who is from overseas teach us their own language, another hour Japanese students teach Japanese to them. But it is not defined, if you have any suggestion, please let me know because the purpose is not exchange language, not learning languages. I want you guys to be good friends and have fun through this club.

I hope we have the class one a week but if someone wants and organize it, we can have classes anytime. Thanks cheers Takanobu

何か質問等あればこちらまでメールお願いします。IF you have any questions, please contact and text me. 56sprinter@gmail.com

ちなみに、なぜおもちかと言うと おもちもち米をこねて作るもの人種など関係なく、一緒になってくっついて、楽しみましょう という意味からです。

### 活動計画

11月～ 活動開始

毎週一回の Language Class

12月～2月末 活動の継続させつつ、メンバー集め。

世代交代のための準備

毎週の活動を続けながら不定期に交流イベント

### 活動期間

平成26年11月28日～27年 2月13日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：杉崎愛（比較文化学類）

P：宮本陽一郎（人文社会系）

### 備考

新リーダーの杉崎愛（比較文化学類）を迎え新たな体制を整える

## 活動報告

### 活動成果

・活動内容

11月28日 通常の言語交流活動、ご飯

12月5日 通常の言語交流活動、ご飯

- 12月12日 通常の言語交流活動、ご飯
- 12月19日 クリスマス映画「ラブ・アクチュアリー」の鑑賞、ご飯、プレゼント交換
- 1月9日 通常の言語交流活動、ご飯
- 1月23日 通常の言語交流活動、ご飯
- 1月30日 Team8と合同で節分ワークショップを開催、ご飯
- 2月6日 通常の言語交流活動、ビンゴゲーム、ご飯

・目標達成度

80%

良かった点

- ・毎週金曜日に言語交流の活動ができた
- ・Omochi が楽しいと多くの人に言ってもらえることができた
- ・Omochi 内で友達ができ、留学生がたくさんいた。Omochi の外でも交流があるようなので友達の輪を広げてもらえた。
- ・言語交流だけでなく、お楽しみ会のようなものもできたため、参加者同士の交流をより深めることができた
- ・始まる前に体パチで30分くらい自由に会話する時間があるので、習っている言語に関係なく交友関係を作ってもらえることができた

悪かった点

- ・ご飯まで行く人があまり多くなかった
- ・連絡がうまくいかず、スムーズに始めることができなかった
- ・お餅つきもできたら良かったのにできなかった
- ・得られた成果

私自身、あまりリーダーには向いていないと思っていたけれど、やってみたら意外とみんなが活動を始めてくれたので、自信になりました。私にとってかなりプラスの経験になっていると思います。留学生同士はもちろんのこと、留学生と日本人や、日本人同士でも友達になり、その点では大きな成果が得られたと思います。一週間の中で Omochi をいつも楽しみにしていると言いながら来てくれる人たちがたくさんいるので、そのような場を作ることができたことも成果の1つだと思います。

今後の課題

- ・教室を一回期限内に取り忘れたので今後は気を付けたい。
- ・始まる前の連絡がいつもうまくいかないのので、今後はマイクを取り入れるなどして声を大きくし、連絡事項を聞いてもらうようにする。
- ・いつも参加してくれる人とそうでない人がいるため、こまめにアンケートを実施し、今の何が良くて何がいけないのかをしっかりと把握したい。
- ・活動後のディナーの場所のバラエティが少ないが、今後はもっと行く場所の種類を増やしていきたい。
- ・Omochi を単なる言語交流の場ではなく、友達をつくる機会だともっと多くの人に知ってもらえるようにしたいので、活動前にもっと行っておくべきだった。
- ・学期の最後の活動日が私の中でも曖昧だったため、しっかりあらかじめ決めておきたい。その際、みんなの意見を反映できるようにしたい。
- ・なるべく来てくれた人全員の名前を覚えられるようにしたい。
- ・初めて来た人がもっと会話に入れるようにグループ分けのやり方を改善したい。

経験者からのメッセージ

絶対に Omochi を作っていくのは無理だと思っていたけれど、しゃべれば聞いてくれる人はいるし、チラシを作ればそれを見て参加しようと思ってくれる人もたくさんいるので、初めから無理だと思わずにまずはやってみて欲しいです。100%成功しなくても、気楽に自分が楽しもうという気持ちでやってみたらいいと思います。

運営者側から見たパーティシパントの変化

- 言語能力が上がった人や、友達が増えたという人がたくさんいた。
- 回数を重ねるごとにだんだん慣れてきているように見えた。

T-ACT に関する感想

特に要望はありません。いつも機材を貸していただいたり相談に乗っていただいたりと大変お世話になりました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ致します。

## ● ジャイアンナイト ねくすと@筑波大学 (14067A)

T-ACT プランナー 堀 みさき (人間学群障害科学類4年)

### 活動内容

「音楽やパフォーマンスでつくばを盛り上げたい!」という思いで企画をしようと考えました。筑波大生による DJ やパフォーマンスを行うイベントをつくりたいと考えています。そして、ゲストとしてお笑い芸人のダイノジが主催している DJ イベント「ジャイアンナイト」の DJ 兼ダンサーである森森子さんをお迎えします。

音楽好きな方、DJ イベントに興味がある方、純粋に楽しいことが好きな方、など多くの人に興味を持っていただけるイベントにしたいと考えています。

学外にも広報を行い、筑波大学を盛り上げることを目的としています。

ジャイアンナイト ブログ: <http://profile.ameba.jp/giannight/>

ジャイアンナイト Twitter アカウント: [https://twitter.com/gian\\_night](https://twitter.com/gian_night)

### 活動計画

- 11月~12月 ・メンバー募集
- ・ジャイアンナイト制作スタッフや出演者との打ち合わせによりイベント内容詳細を決定
- ・詳細が決まり次第、広報開始 (Web、SNS 等)
- 1月 ・広報実施 (ピラ、ポスター等)
- 2月 1日 ・「ジャイアンナイト ねくすと @ 筑波大学」開催予定

### 活動期間

平成26年11月1日~27年2月1日

### T-ACT オーガナイザー/パートナー

O: 大西彩美 (人文学類)、渥美雅俊 (応用理工学類)

P: 鈴木伸崇 (図書館情報メディア系)

## 活動報告

### 活動成果

- ・活動内容
  - 11月24日 「ジャイアンナイトねくすと」主宰との電話打ち合わせ
  - 1月30日 機材運搬
  - 2月1日 イベントの実施
- ・目標達成度
  - 90%
  - 根拠: 動員人数は82名 (内学外者11名) と多くの方にご来場いただき、イベントとしてもよいものになったと感じます。運営にいろいろ無理があった分がマイナスです。
- ・得られた成果
  - 音楽を通じた一体感の共有
  - DJ イベントを体験したことのない人たちを巻き込むことができた
  - 大学内外の団体間の交流を促すことができた
  - 様々なジャンルの音楽やパフォーマンスに触れる機会の提供を行うことができた

### 今後の課題

- 機材を全て揃えなければならなかったが、スピーカー等が学生生活課で借りることができず、他で借りるあてを見つけなければならなかった
- オーガナイザーやDJ をしてくださる人だけでは運営の人数が足りず、いろんな方にご協力いただくことになってしまった

### 経験者からのメッセージ

私は「DJ イベントをやりたい! 私の大好きなジャイアンナイトねくすとを知ってほしい!」という思いから、勢いで企画を始めてしまいました。

企画を始めるのには勢いは勿論必要ですが、協力してくれる仲間をたくさん見つけてから始めることが本当に大切だと感じました。

自分ひとりの力では技術的にできないことも多く、イベント当日を迎えるまでにはいろいろと悩むこともあり  
ました。

「うまく人を頼る力」が必要だと切に感じた企画でした。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

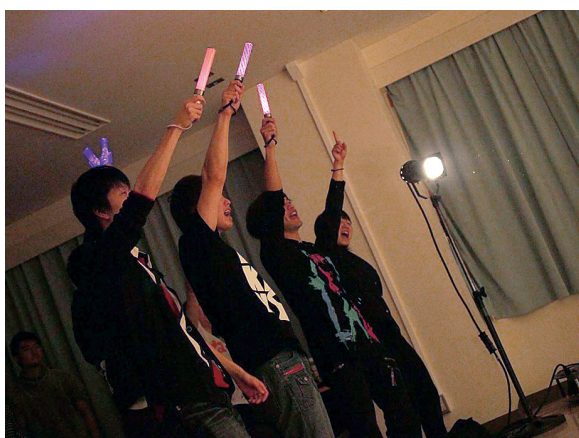
パーティシパントの中には「DJ イベント」というもの自体に馴染みのない方も多く、はじめはなかなか協力が  
得られにくいこともありました。

また、学内の中では無名のイベントであり、パーティシパント一人一人に宣伝をしていただかないと集客を見  
込めなかったため、再三の宣伝のお願いをしました。

イベントが近づくにつれ、宣伝をしてくださる方も多くなり、当日は学内外の多くの方に来ていただくことが  
できました。

更に、今回のイベントをきっかけとしてDJに関心を持ち、いろいろ機材を揃えはじめた方もいたり、筑波大  
生が中心として運営をしているDJイベントに参加表明をしている方も何名かいました。

今回の目的である「筑波大生にDJイベントを身近に感じてほしい」「DJイベントの楽しさを伝えたい」は、  
達成できたのではないかと感じました。



## 筑波大学学園祭ライブ2014 (保留)

T-ACT プランナー 澤田 悠太 (理工学群社会工学類3年)

### 活動内容

筑波大の学園祭をもっと盛り上げたい。

2年前に初めたプロミュージシャンを呼んだ学園祭ライブも今年で3回目になりました。

去年までは大学会館で有料で行ってきましたが、今年からはよりたくさんの方が楽しめるように野外ステージでの無料ライブの形での開催を考えています。

筑波大生による僕たちの、僕たちによる、僕たちのための学園祭ライブ。

手伝ってくれるスタッフの方も募集しています。

### 活動計画

6月 開催日時、場所決定

7月 プレイベント第一弾

10月 プレイベント第二弾、広報開始

11月 本番

### 活動期間

平成26年6月11日～26年12月1日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O：森夏紀 (知識情報・図書館学類)

P：白川直樹 (システム情報系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

- 4月 プロジェクト開始  
パートナーの選定  
イベントの基本方針の決定
- 5月 プレイベントの企画案づくり  
ステージ組合への参加スタート (日時、場所決め、機材の調整など)
- 6月 出演者案の提案
- 7月 開催日時、場所の決定  
第1回プレイベント (モヒートナイト @ つくば市天久保オーガキッチン) の開催
- 8月～9月 出演者交渉
- 10月 広報スタート (出演者発表、WEB 開設、ポスター発表、ラジオ番組出演等)  
装飾パネル作成  
スタッフパスなどの作成  
音響・出演者などの調整
- 11月 イベント本番  
決算

#### ・目標達成度

80%

- 初めての野外無料開催であったが、当日は約1000人の観衆を動員する事ができた。
- プレイベントの計画的な開催による活動資金の捻出や、他団体との機材のシェアなどを戦略的に行い無料イベントでありながら、赤字を昨年より約20万減らす事に成功したため。
- 少数先鋭によるコンパクトな運営が行えた事。
- 出演者のラジオ出演を企画する等、出演者や関係各所との良好な関係が築け、当日の運営をスムーズに行う事ができたこと。
- ×今年は晴天で結果オーライだったが、雨天時の対策が練られていなかったこと
- ×本来の目標であったプロジェクトの黒字化を成し遂げられなかった事。
- ×少ししか準備していなかった当日物販等が好調ですぐ売り切れたため、事前にもっと準備をしておけばよかった。
- ×諸問題により、T-ACT 承認が保留となったこと。



**・得られた成果**

- 学生団体主体の野外無料での学園祭ライブの開催が可能だということが証明できたこと。
- 来年度につながる施策の発見が多々できたこと（計画的なイベントの開催など）

**今後の課題**

- 必要諸経費の支払いを計画的に行う事
- 今回の開催を踏まえて来年度以降に更なる成功を目指す。
  - 財務面・・・悲願の黒字化
  - 動員面・・・動員の更なる増加
  - メンバー＆観客の満足度・・・最大化

**経験者からのメッセージ**

大学（特に雙峰祭）やつくば市内での音楽イベントの開催に興味がある方や、アドバイスが欲しい方はぜひご相談下さい。

**運営者側から見たパーティシパントの変化**

参加メンバーは、一仕事終えて晴れやかな顔をしていた。  
来年度以降につながるイベントになったと思います。

## ● 学生による大学と社会の学術交流推進 (14070A)

T-ACT プランナー 安達 光理 (図書館情報メディア研究科 M1)

### 活動内容

大学には研究の成果を社会へ還元するという責任がある。この活動では学生らによって、研究の成果を社会へ発信し、地域社会において学術交流が活発に行われる環境づくりを行う。具体的には平成27年度に向けて、大学図書館で大学院生や若手研究者のプレゼン交流を行う「プレゼンひろば」とつくば駅改札前で大学院生や若手研究者が自身の研究を一般向けに分かりやすく伝える「駅前キャンパス」の継続的な開催、また本学学園祭において、「学内研究企画」の広報活動と、学生が自身の研究を分かりやすくプレゼンテーションする技術を競う「学生プレゼンバトル」開催を計画することを目標とする。

### 活動計画

- 1月 ・メンバーを集める。  
・平成26年度の活動内容を元に平成27年度の改善案を話し合う。
- 2月～3月 ・平成27年度に向けた計画を立てる。

### 活動期間

平成27年 1月 1日～27年 3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

- O：藤田佑樹 (システム情報工学研究科)、藤野未来 (生命環境科学研究科)、伊藤敏 (人文社会科学研究科)、角谷雄哉 (人間総合科学研究科)、相関良紀 (医学類)、上田正登 (教育研究科)、松原悠 (人間総合科学研究科)
- P：善甫啓一 (システム情報系)

## 活動報告

### 活動成果

#### ・活動内容

1月～2月

新たな活動メンバーを獲得するために、ポスターを作成し大学校内の掲示板に掲示した

3月

プレゼンひろば、駅前キャンパス、学生プレゼンバトルそれぞれ今後どのような方針、企画で展開していくのか話し合いを行った。

#### ・目標達成度

100%

目標としていた新たなメンバーを得ることができた。また、平成27年度にどのように活動を展開していくのかある程度方向性を決めることができたと考ええる。

#### ・得られた成果

上記のように、新しいメンバーを迎えることができ、27年度の方針を決めることができた。4月以降の活動にスムーズに取り掛かるための準備を完了することができたと考ええる。

### 今後の課題

人数が集まり、次年度に向けた計画は立てられたため、今後実施するに当たって計画的に進められるかが課題となると考えられる。

### 経験者からのメッセージ

T-ACT は自分が思ったことを実際に実現できる良い制度だと思います。  
自分の思うままに自由に行動してみてください。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

プラン前もプラン中も、参加者は全員意欲的に活動に参加していたため大きな変化はなかったように思う。

## つくば LT (ライトニングトーク) (14078A)

T-ACT プランナー 山本 鷹之 (生命環境学群生物学類2年)

### 活動内容

小中高生の学習意欲の低下は、知的好奇心をくすぐるような学問との出会いや知識が少ないことが原因の一つである。そこで、すべての学群が一つのキャンパスにあるという特徴の筑波大学の学生が様々な分野の研究や課外活動を、小中高生に、短いプレゼンテーション形式で発表することで、小中高生へ学問との出会いの場を設けることができる。そして、発表の場に参加する小中高生や一般の方が様々な学問と出会うことで、小中高生の学問に対する興味を促し、知的好奇心の向上、意欲的に学習に取り組むきっかけをつくる。

### 活動計画

- 2月
  1. つくば科学研究コンテストの運営の方と打ち合わせをして機材、タイムスケジュール等の確認を行う。
  2. 当日 (3/28) の LT のタイムスケジュールの作成をする。
  3. LT 運営に必要な役職 (司会、発表者、記録、広報) を決める。
  4. LT 発表者を集めてスライドの作成を依頼する。
  5. LT 運営者を集める。
- 3月
  - ◆つくば科学研究コンテスト開催 2週間前
    6. 発表者中間報告会を行い、改善点等の話し合いを行う。
    7. 司会進行の内容を決める。
    8. 当日の流れを確認する。
  - ◆つくば科学研究コンテスト開催 1週間前
    9. ウェブサイト、Twitter、Facebook アカウントの作成、宣伝
    10. 発表者の発表内容の最終確認をし、本番形式で一度通す。
    11. 当日の流れを確認する。
  - ◆当日 (3/28)
    12. LT を行う。
  - ◆後日
    13. LT のフィードバックを行う。
    14. ウェブサイトに当日の様子を掲載する。

～当日 (3/28) の流れ～

1. 9:00-9:30 つくば科学研究コンテスト運営者と打ち合わせ
2. 12:00 全体集合 (大学会館)
3. 13:00-13:30 LT (ライトニングトーク)
4. 13:30-14:00 片づけ・解散

### 活動期間

平成27年 2月17日～27年 3月31日

### T-ACT オーガナイザー／パートナー

O: 森下夢子 (日本語・日本文化学類)

P: 尾嶋好美 (教育推進部)

## 活動報告

### 活動成果

・活動内容

○2月

- ・LT 発表者を集めてスライドの作成を依頼する。
- ・LT 運営者を集める。

○3月

- ◆つくば科学研究コンテスト運営者と使用のできる機材の確認をした。(3/10)
  - ・ここで、当日配るチラシの作成を依頼される。
  - ・チラシは簡単な LT (ライトニングトーク) についての説明とタイムスケジュールを載せた。
- ◆つくば科学研究コンテスト開催前日 (3/27)
  - ・発表者の報告会を行い、改善点等の話し合いを行う。
  - ・当日の流れを確認する。
- ◆当日 (3/28)

- ・ LT を行う。
- ・ 終了後、反省会
- ・ 目標達成度

満足できるものではなかった。大学生対象に開いた LT とは異なり、高校生は真面目に聞きすぎていて、雰囲気がとても固くなってしまった。また、当日までの準備もギリギリになってしまったため、もっと計画通りに動けるようにするべきだった。本来は、企画側にフィードバックするためのアンケートなどを考えていたが、本番までに間に合わなかったため、フィードバックすることができなかった。

- ・ 得られた成果

LT で発表していただいた方々のプレゼンに対する向上心が出た。数人ではあったが、直接質問や意見を言いに来てくれた高校生、中学生がいた。内容はとても面白かったとの声を得られたので、それをより多くの人から得られるよう、今後の課題が明白になった。

### 今後の課題

計画を立てたが、それ通りに動くことが出来なかった。今後は、一度大まかな計画を立てた後、こまめにミーティングをするなどして、細かい予定を立てていくべきであった。

LT の雰囲気が他の学生には伝わらないことがあるので、LT を始める前にアイスブレイクを入れるなどの工夫が必要だった。

今回は理系対象の LT であった。今後は、理系だけでなく多くの分野を交えた LT を開いていきたい。

この企画は、すでに人が集まるところで開いたので、聴衆の確保が容易であった。しかし、時間帯によっては人が少なかったり、多かったりするので、事前の呼び込みなどが必要と感じた。

### 経験者からのメッセージ

プランナーは自分の活動を計画するまでがとても大変だと思います。早い段階から動くことはとても良いことですが、やっていく中でモチベーションの変動もあります。そうしていくと、計画通りに動かなくなったり、自分を追い込む結果になってしまったりします。やらなければならないことはできるだけ周りに伝えて、分担して計画を進めていかなければ、実質動くのはプランナーのみみたいな形になってしまいます。

それから、自分のスケジュール管理をしましょう。多くの方が関わる場合、優先順位を考えて行動しなければなりません。

当たり前ようですが、当たり前のことをやるとはむずかしいです。

### 運営者側から見たパーティシパントの変化

パーティシパントには LT の発表者になっていただいたのですが、LT をするのが初めてという方も居り、スライドの作り方や、話し方、ネタの内容は最初に聞いた時よりも聞きやすく面白いものになっていました。

また、次回もやりたいかと聞いたところ、「リベンジしたい」と言っていました。少なくとも、パーティシパントの興味をたきつけることはできたと感じました。

### T-ACT に関する感想

計画を考えるとところから、相談にのっていただいていたありがとうございます。事前に教室確保の仕方や企画による使用した例など、マニュアルのようなものがあれば、計画の際に場所を考えやすいだろうと思いました。

## 「ボードゲームの広場」(20140003V)

受入団体名：つくばボードゲーム愛好会 (12002G)

### 活動内容

まだ児童館が設置されていないつくば市春日学園地区で、小学生の放課後を充実させる活動として、筑波学院大学 OCP (オフキャンパスプログラム) の学生と一緒に、園児～小学生の子ども達及びその保護者たちに、オセロ、将棋、チェスなどの指導や対局を行っています。ボードゲームを教えることができなくても“一緒に遊ぶ”、“危険がないように見守る”だけでも十分です。

### 活動実施日(期間)

通年 毎週水曜日15:00～17:00 ※学生が参加した日数37日

### 参加学生

T-ACT ボランティア：13名 (延べ数99名)

※団体参加：筑波大学将棋部 10名、チェスサークル Café・Rejansu 1名

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

筑波学院大学 OCP (オフキャンパスプログラム) の学生と一緒に、園児～小学生の子ども達及びその保護者たちにオセロ、将棋、チェスなどの指導や対局を行いました。(詳しくは Facebook 「つくばボードゲーム愛好会」で活動報告をしています。)

次年度から TIS (つくばインターナショナルスクール) のインド、スリランカの家族が参加します。保護者と小学校高学年の子どもは日本語が話せますが、将棋などができなくても大丈夫ですので、子供が好きな英語を話せる学生ボランティアも募集しています。

#### ●学生参加者：新井良征 (理工学群数学類 4年、チェスサークル Café・Rejansu)

##### 活動の成果

昨年同様、チェス、オセロ、立体四目並べなどのボードゲームで子供達の相手をしました。昨年より、教え方が上達したと思います。事実、子供達の理解が去年より早くなっているように見えます。低学年の一部の子に、「負けた、悔しい、もう一度勝負だ!」が出てきました。「子供の居場所をつくる」という活動目的を考えても、良い傾向だと思います。

##### 今後の課題

周囲に迷惑をかけている子供 (低学年の一部しかいませんが…) に対する対応。

→やめるように促しても、その場を離れて他のところに行ってしまう。毎回注意しているが直らない。どう対応すれば良いのか、倉橋さんや保護者の方の話を聞いて、考えていきたい。

##### その他

相変わらず学生ボランティアが少ないと思います (学院大学生が二人+私+たまに将棋部)。毎回四、五人ほど学生がいればもう少し倉橋さんが大変な思いをせずに活動できると思います。

#### ●学生参加者：匿名希望

##### 活動の成果

チェスをはじめ、将棋、オセロなどを行った。実際に自身で考えてプレイを行うのと教えることは全く別物なため、子どもの力となれたとは言い難いが、一緒に楽しみながら活動をすることができた。また、年少者の知育という観点について考える機会が増え、学童保育のあり方、児童館の増設など行政や地域の人々で行うべき行動もあると考えるようになった。

##### 今後の課題

子どもに分かり易く教えることが難しかったが、その後プレイした時に前回のアドバイスを理解し益々強くなっているときの喜びもひとしおだった。また、年少者とのコミュニケーションは必須であるが、それをスムーズに行うことも困難だった。



## 茨城県警察大学生サポーター（20140018V）

受入団体名：茨城県警察本部少年課（13005G）

### 活動内容

- 少年の非行防止や立ち直りを支援するボランティア活動
- ・街頭補導活動や非行防止キャンペーン
- ・非行少年等の立ち直り支援（学習支援など）
- ・非行防止教室および薬物乱用防止教室の補助

### 活動実施日(期間)

平成27年10月7日～平成28年3月31日 うち5日間

平成26年10月7日、11月14日、11月21日、12月5日 平成27年2月3日 各1名参加

### 参加学生

T-ACT ボランティア：2名

その他：1名

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

荒れた中学校に対する学習支援活動として、授業について行けない生徒に対し、積極的に話し掛けたり、生徒からの質問に答え、勉強を教えたりするなどの支援を行った。

#### ●学生参加者：讚井知（理工学群社会工学類4年）

#### 活動の成果

土浦第六中学校での学習支援を行いました。国語の授業中に、授業に集中できていない生徒さんに声をかけたり、考えを聞いたりしました。授業に集中していないという状態を改善しようというのはもちろんですが、それに対してただ怒る、ただ辞めさせるのでは単発的な効果しか得られないと考え、生徒に沿った声掛けができるよう心掛けました。

#### 今後の課題

中学校の先生は2人いましたが、生徒を管理するのは難しいような状況でした。ボランティアの私が教室に入ることによって余計に室内が興奮状態になった時は申し訳ないような気持ちになりました。ボランティアの学生が定期的に来る人ではなく、単発で参加せざるを得ないので、どうしても「お客さん」の扱いになってしまっているのが課題だと思いました。

## 「ボードゲームの広場」@矢中の杜 (20140019V)

受入団体名：つくばボードゲーム愛好会 (12002G)

### 活動内容

筑波大学将棋部の協力を得て、つくば市内にある「矢中の杜」(国登録有形文化財)を会場に、小・中学生対象(小4~中学生)の将棋大会を新規に開催する。大会受付、会場案内など将棋大会運営の手伝いをするボランティア活動。

### 活動実施日(期間)

平成26年 8月10日

### 参加学生

T-ACT ボランティア：12名(筑波大学将棋部)

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

平成26年 8月10日(日)、筑波大学将棋部12名は、つくば市北条「矢中の杜」にて、NPO法人「矢中の杜の守り人」、「つくばボードゲーム愛好会」とともに、小学校4年生以上中学生以下を対象とした「龍次郎杯将棋大会」および「はじめの一步将棋教室」を開催した。

企画から当日の大会運営までほとんどを学生たちの手で行っていた。特にジュニア将棋の大会や教室がないつくば市での開催は将棋ファンからも注目を集め、県外からも参加者があった。

台風通過に伴い天候は良くなかったが、大会参加申込者全員の11名、将棋教室2名の参加があり、来年度も実施してほしいと好評であった。(Facebook「つくばボードゲーム愛好会」に写真など活動報告あり)



## 合唱コンクールのための合唱指導サポート (20140022V)

受入団体名：茨城県県南生涯学習センター (120016)

### 活動内容

小さな学校のため、音楽の専門の先生がいない阿見町立実穀小学校における、合唱コンクールに向けた、合唱指導のサポートボランティア。対象は4～6年生の54名。指導サポート内容は、以下の通り。

- ①9月前半：発声練習
- ②9月後半：発表曲の練習
- ③10月前半：最終確認

### 活動実施日(期間)

平成26年9月4日～10月16日

### 参加学生

T-ACT ボランティア：9名（筑波大学混声合唱団）

9/4：5名、9/16：7名、9/24：4名、10/8：3名、10/16（合唱祭当日）：4名

### 活動報告

#### ●受入団体担当者（阿見町立実穀小学校担当教員より）

合唱指導の専門的な歌の指導をしてくれたことが、音楽専門の教師がいない実穀小にとって一番ありがたかった。強弱のつけ方、表現の仕方など細かいポイント、指揮者の指導など、積極的に行ってくれた。音楽会では学生の皆さんに教えてもらったことを発表する事ができた。来年度も是非SF（スクールフェロー）の制度を活用したい。

#### ●学生参加者：今枝拓己（知識情報・図書館学類3年、筑波大学混声合唱団）

#### 活動の成果

今回のボランティアは阿見町立実穀小学校における合唱指導でした。全4回、小学校に行って一回につき2コマ分指導を行いました。始めはもじもじして歌えなかった小学生たちが、段々と自信を持って歌い始め、本番では堂々と歌っている姿は指導した側でありながら胸を打つ光景でした。

#### 今後の課題

合唱の指導はあいまいで抽象的な表現が多いです。これをいかに小学生に伝えるかということが大変でした。これは小学生に関わらず、一般の合唱未経験者に対しても言える課題かと思います。また小学生の扱い方というのは、先生たちから学ぶ点が多かったです。様子を見て、適切に休憩をはさみ集中力を途切れないような練習を組み立てるのは、大学生相手でも同じことです。全体を通して、小学生への指導から自分たちの合唱練習の課題が見えてきたと思います。

※この活動は「STUDENTS 1月号」に掲載



## 市民農園でのバーベキュー ふれあいボランティア (20140024V)

受入団体名：土浦地区 BBS 会 (14008G)

### 活動内容

- 市民農園でのバーベキューを通し、自立援助ホームの子どもたちとのふれあうことを目的とした活動。
- ・自立援助ホームの子どもたちと一緒に遊ぶ
  - ・耕作放棄地を利用した市民農園にてバーベキューを開催
  - ・バーベキューの用意ができるまでは、テニスで汗を流す

### 活動実施日(期間)

平成26年 8月 3日

### 参加学生

T-ACT ボランティア：1名

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

午前は自立支援ホームの子どもたちとテニス、昼食はバーベキューを行った。ボランティアの学生は積極的に子どもたちとふれあい、すぐに打ち解けられていた様子であった。終始、子どもたちに気を配っていただき、円滑に活動を進めることを手助けしていただいた。

#### ●学生参加者：中島隆伸（体育専門学群 4年）

#### 活動の成果

活動内容は自立支援が必要としている子供のために企画されているバーベキュー・テニスのお手伝いをする事。テニスでは一緒にプレイし、バーベキューでは調理や後片付けをお手伝いした。両イベントともにトラブルなく終わった。参加している子供たち全員と話すことを心掛けて、行動した。一人一人と深く話す機会は少なかったが、子供たち全員と話ことができ、次に繋がる形で関係を結べた。

#### 今後の課題

今後の課題としては、交通手段の確保が必要である。ボランティア活動である以上、支援を必要としている側に頼る訳にはいかない。施設長がおっしゃっていたが、ボランティアしたいという人を送り迎えするのは、やはり負担になる。公共交通機関のアクセスの利便性、もしくは車を持っている人と一緒に参加できることがボランティアへの壁を下げると思われる。

## 守谷市陸上競技大会に向けての放課後練習補助 (20140027V)

受入団体名：茨城県県南生涯学習センター (120016)

### 活動内容

守谷市立郷州小学校における児童に対しての各陸上競技種目の指導ボランティア。  
守谷市陸上競技大会へ向け、約2週間、放課後15:30~16:30の1時間で各種目の指導を行う。

### 活動実施日(期間)

平成26年10月9日~10月17日 (指導実施日: 10/9、10/10、10/15、10/16、10/17)

### 参加学生

T-ACT ボランティア: 1名

### 活動報告

#### ●受入団体担当者 (守谷市立郷州小学校担当教員より)

陸上指導・準備・片付け・実演指導を実施してもらった。練習時間より早く来て、準備も取り組み積極的に活動してくれていた。陸上専門だったため、実技を披露し分かりやすく指導してくれていた。

#### ●学生参加者: 中島隆伸 (体育専門学群 4年)

#### 活動の成果

活動内容: 地域の陸上競技大会を控えた小学生に、陸上競技 (主に短距離) を教えること

目 標: 男女リレー決勝進出 結果: 男子総合2位 女子: 予選

ま と め: やはり放課後5回45分の間で教えることは限りがあったが、その中でも子供たちは私の言う事を素直に聴き努力してくれ、非常に楽しかった。今回は特別な技術練習中心ではなく、身体の動き作りをメインとした。小学生ということもあり、今後の活躍に繋がる練習メニューであったと思う。

#### 今後の課題

やはり、時間が少なかった。もう少し時間があれば、良い結果が出せたと思う。

陸上競技の練習は主に身体作りが中心であり、地味な練習が多い。その中でいかに小学生の注目を集め、飽きさせないようにするか、工夫を凝らした。

#### その他

学校側も非常に喜んでいてよかった。



## 「冬の学びの広場」学習支援ボランティア募集 (20140029V)

受入団体名：下妻市立高道祖小学校 (14009G)

### 活動内容

ねらい 補充深化学習を通して、一人一人をていねいに指導して学力向上を目指す  
指導対象 小学校6年生 35名  
指導教科 国語・算数・理科・社会  
使用教材 学校で用意したワークシート  
指導 学校職員とともに個別支援を担当

### 活動実施日(期間)

平成27年1月7日 8:15~12:00

### 参加学生

T-ACT ボランティア：1名

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

活動前の打合せ、及び当日の活動が大変丁寧で前向き、熱心さがあって感心しました。教職に就く予定だそうですが、今後の期待できると感じました。今後も筑波大との連携を希望します。

#### ●学生参加者：匿名希望

#### 活動の成果

補充深化学習を通して、児童一人ひとりをていねいに指導することを目的とします。第3学年から第6学年までの各学年に担当が分かれ、教職員とともに個別支援を行いました。指導にあたり、児童の理解度の違いや学習上つまづきやすい箇所を把握して、一人ひとりの児童と向き合うことの大切さを感じました。

#### 今後の課題

担当する学年が明らかになり次第、学校訪問を行うことで、学級担任と必要事項の連絡をしたり児童の様子を事前に把握したりすることができ、当日の学習支援がスムーズになり、教職員と学生の意思疎通が捗ると思います。



## 第42回筑波山梅まつり 縁結びイベント (20140030V)

受入団体名：一般社団法人つくば観光コンベンション協会 (13008G)

### 活動内容

昨年度もプロジェクト型ボランティアとして実施した筑波山梅まつりにおける縁結びイベント。  
2/21(土)～3/29(日)で実施される梅まつりにおいて、縁結びイベントを企画、実行する。

### 【縁結び 筑波山について】

筑波山は男体山と女体山が寄り添って立っており、それぞれの山頂に『筑波山男大神イザナギノミコト(男の神)』と『筑波山女体神イザナミノミコト(女の神)』が祭られている。この二神は日本書紀の中で、多くの神々を産み、日本国を創造した神話が描かれており、そのことから筑波山(神社)は縁結び・夫婦和合・家内安全・子授け・子育てにご神徳があるとされている。

### 活動実施日(期間)

企画・準備：平成26年11月20日～平成27年3月12日

イベント：平成27年3月13日、14日

### 参加学生

T-ACT ボランティア：1名

その他：9名(筑波学院大学学生)

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

#### 活動内容

筑波山梅林を利用した『クロスワード大会』

参加者：3月13日(金)30人、14日(土)100人 計130名

内容：梅林を散策しながらクロスワードの問題用紙を探し回答する

参加型レクリエーション・参加予約不要・参加賞・景品あり 年齢制限なし

時間：10時～16時

景品：特賞 40分以内にクリア 準賞 60分以内にクリア 参加賞

景品協賛：筑波観光鉄道株式会社・株式会社オーヤマ・つくばわんわんランド

#### 活動の様子

来場参加者が楽しんでいただけており、学生も熱心に活動していた。当初計画していた『梅コン』から『クロスワード大会』に急遽変更となってしまったが、企画内容はとても素晴らしい物であった。※参加者が集まらなかったのは、告知期間不足及び開催日が平日であったためと思われる。

#### ●学生参加者：林賢佑(人間学群心理学類2年)

#### 活動の成果

当初街コン型のイベントを予定していたが募集人数に対する参加人数が少なかったため、急遽当日イベントに変更となった。当日イベントとしてクロスワードを使用し梅林観覧をより楽しんで頂くものを企画し、二日間の日程で約130人の方に参加して頂いた。

#### 今後の課題

今回、筑波学院大学の学生の協力の元イベントを行うことが出来た。しかし筑波大学内でのスタッフの募集がうまくいかなかった。また、街コン型イベントを敢行できなかった原因として、広報が遅かった、あるいは弱かったことが考えられる。



## キララちゃんバス10周年記念「記念誌作成PJT」(20140031V)

受入団体名：特定非営利活動法人まちづくり活性化土浦（14010G）

### 活動内容

土浦の中心市街地を走る「キララちゃんバス」が今年10周年を迎えます。キララちゃんバスを軸に中心市街地活性化を図っているNPO法人のこれまでの活動軌跡と、「これからの土浦」をテーマとした「記念誌」を作成します。

○記念誌（無料）配布予定日：H27年3月1日

### 活動実施日(期間)

平成26年11月～27年2月

### 参加学生

T-ACT ボランティア：1名（12月8日）

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

当方NPO事務所にて記念誌作成の概要説明とデータの受け渡しを行ったが、12月末、電話にて「記念誌完成したものの保存媒体の不具合により消滅した」との連絡を受けた。再度作成し、1月中旬までに納付すると連絡を受けるも、その後連絡不通。

## 特別支援教育対象児童の学習や学校生活のサポート (20140033V)

受入団体名：茨城県県南生涯学習センター (12001G)

### 活動内容

つくば市立二の宮小学校における、特別支援学級対象児童の授業中（準備や個人の）サポートや一緒に休み時間や給食を過ごしながらの見守りなどを行うボランティアです。

休み時間やお昼の時間に廊下で前に歩いている人がいるといたらついで蹴ってしまうなど、ケガをさせてしまう恐れがあるため、だいたい先生が見守り役としてそばにいますのですが目の届かない時間もあるのでその部分をサポートします。

### 活動実施日(期間)

平成27年1月～3月

### 参加学生

T-ACT ボランティア：2名

2月23日、25日、27日、3月2日、4日、6日、9日（各2名）

### 活動報告

#### ●受入団体担当者（つくば市立二の宮小学校担当教員より）

とても穏やかな学生さんばかりで、子どもたちへの対応も優しく接することができていた。特別支援教育に対する理解をもって参加しているため、担当教諭と連携しながら対象児童へ適切な対応をすることができた。子どもたちも学生が来校するのを楽しみにしており、学校としても多くの目で子どもたちを見守ることができていた。

#### ●学生参加者：匿名希望

##### 活動の成果

活動内容は特別支援学級での学習指導（支援）および特別支援学級に在籍している児童の通常学級での授業の補助等。児童の方から積極的にコミュニケーションを取ってきてくれたので、かなりスムーズにサポートをすることが出来たように思う。

また、このボランティアを通じて特別支援学校（学級）の教員を志そうと思うようになった。教員になれるよう、実際の現場での仕事や雰囲気を出来る限り多く経験したいので、来年度もまた継続して参加させていただきたいと思う。

##### 今後の課題

興奮状態の児童を落ち着かせることに難儀したので、次回参加するときにはそれぞれの児童の特性に合わせて対処できるように心がけたい。また、通常学級とのかかわり方についてもさらに深く考えたいと思う。

#### ●学生参加者：匿名希望

##### 活動の成果

特別支援教育対象児童の学習のサポート、清掃活動、給食の準備等の学級活動のサポートを行いました。児童が授業に集中できなくなってしまうときは、やる気が出るよう声をかけ、学習で苦戦している部分があれば出来るだけ丁寧に説明するようにしました。児童がイライラしている時にクラスメイトを衝動的に蹴ったりたたいたりしないように、見守りも行いました。児童の調子が良くないように見受けられる日には、重点的にその児童のそばについて声をかけ、見守るようにしました。

児童や先生方との関わりの中で多くのことを学び得ることができました。しっかりと児童と向き合い、信頼関係を築いた上で、その時の様子や児童の特性を考慮してサポートをすることが大切なのだと思います。上手くいったことばかりではなく、課題も数多くありましたが、今回の経験は教員を目指す上で大きな糧となりました。このような経験を学類での学びと繋げて考えることで、より学びが深まっていくのではないかと思います。また、このような経験を積み重ね、教員になるためにより一層努力していきたいと感じました。

##### 今後の課題

苦手な科目のときや調子が悪いときに、児童が教室に入れなかったり、どうしても集中することが出来なかったりする場合にどのように対応したら良いか悩みました。声をかけるなどして出来る限りのサポートはしたつもりでも、集中出来ずに教室を飛び出してしまうこともありました。他にも様々な課題がありましたが、今後の学びの中でどのような解決の方法があるのかしっかり考えていきたいと思いました。また、ボランティアをさせていただく機会があれば、課題に関して考えたことを生かせたら良いと思っています。

## キラちゃん PJT vol.2 「新川お掃除大作戦」(20140037V)

受入団体名：特定非営利活動法人まちづくり活性化土浦（14010G）

### 活動内容

土浦市の桜まつり開催に際してのプロジェクトです。来街者の皆さんに気持ち良く桜を観て頂こうという目的で、桜の名所でもある新川のおそうじをします。

日時：3月21日（土）朝 8時～ 9時

お掃除内容：除草作業とゴミ拾い

※土浦市真鍋一丁目と城北町の間にある新川沿いの土手の草刈りとゴミ拾いです。

### 活動実施日(期間)

平成27年 3月21日

### 参加学生

T-ACT ボランティア：1名

その他：1名（T-ACT 職員）

### 活動報告

#### ●受入団体担当者

土浦市、新川堤の除草作業およびゴミ拾いに参加して頂きました。当日は約 100 名近い参加者が集まりました。毎回掃除用具は市から借用していますが、昨年除草作業に手間取ったことから、今年はNPO 予算から「カマ」を20本ほど購入し、より多くの参加者に手作業で刈ってもらったことで時間短縮が図れました。当日は、常陽新聞の取材や J-COM テレビの撮影があり、桜まつりの PR 効果が期待されます。

#### ●学生参加者：市原諒一（理工学群数学類 4年）

#### 活動の成果

参加された約100名の方々と一緒に、つくば国際大学高等学校の前にある川沿いの除草作業とゴミ拾いをしました。開花間際の桜並木が印象的でした。私は主に伸びきった雑草をカマで刈り、ゴミ袋に集めて所定の場所に運びました。参加された方々との協力もあり、川沿いは開始よりもずっと見晴らしが良くなりました。桜の開花が楽しみです。

#### 今後の課題

活動をより充実したものにしていくための課題として、2点あります。1点目は事前により体力をつけて取り組むことです。ゴミを休みながら運んでしまい体力の衰えを感じました。2点目は参加者への声かけをもっと増やしていくことです。参加者が多い割に、私は話し足りないと感じました。今後は体力づくりと意識的な声かけをしていきたいと思います。



## 2014 年度実施状況報告

つくばアクションプロジェクトは、学生が自らの関心に基づく多種多様な自発的活動（これを T-ACT とする）を新たな人間関係を構築しながら実行するよう促進することで、学生の人間力を育成する筑波大学の人間力育成事業である。T-ACT は、学生が企画立案し展開する T-ACT アクション、教職員が企画立案し展開する T-ACT プラン、地域活動団体が実施する社会貢献活動に学生が自発的参加をする T-ACT ボランティア（2012年度スタート）の3種がある。T-ACT の諸活動は、学生・教職員・地域による共創的コミュニティをベースに、半年以下の単発的・短期的活動を支援することによってアクティブな流動性をもつことを特徴としている。学生は、T-ACT の諸活動を通して、諸活動への積極的な参加力、経験から感じ取る体験力、他者と関わり協調するコミュニケーション力、人をまとめ率いる統率力、創造しそれを具現化する企画力などの「人間力」を養うことになり、自主性と社会性を備え、将来社会を担う人材として成長することができると期待されている。

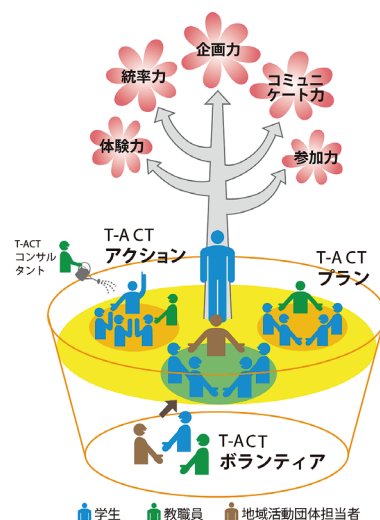


図1：共創的コミュニティ形成による T-ACT の展開と学生の成長

### 1. T-ACT 活動実績

2014年度の T-ACT アクション・プランにおける企画申請数及び承認数、T-ACT ボランティアにおける団体登録数及び活動承認数、それらへの学生参加者数、T-ACT フォーラム利用者数は次の通りである（但し、3月末日時点までに T-ACT 推進室にて把握できた数に限られる）。2014年度は、T-ACT アクション・プランの企画申請数は89件（アクション86件、プラン3件）であり、そのうち83件（アクション80件、プラン3件）が承認された（図2参照）。2013年度に比して企画数が減少しているが、継続的な企画については、そのいくつかは課外活動団体になったこと、本学内で連携することがより適切だと考えられる他組織に支援を受けることを促していることの影響もあると考えられる（例えば、4期行われた EXCHANGE ～海外体験～は、グローバル・コモンズ機構と連携し、活動していくこととなった）。学生プランナーは84名（重複者を除く実数は68名であり、承認されなかった企画も含める）、教職員プランナーは3名、教職員パートナーは86名（重複者を除く実数は2名）、学生オーガナイザーは337名（重複者を除く実数は264名）、学内者のパーティシパントは2,510名（重複していないことが確認できる実数は223名）、学外者のパーティシパントは0名であった（図3～5参照。但し、概数が報告された場合は計上していない）。

T-ACT ボランティアにおける登録団体数は19であり、活動申請は53件であったが、団体登録がなされた上での承認活動数は37件であった（図6参照）。T-ACT ボランティアからの活動参加者（パーティシパント）は51名であり（図7参照）、T-ACT ボランティアとは別に、独自に活動の情報を得て参加している学生も15名いることがわかった。ここで、学生の社会貢献活動・ボランティア活動に参加してみたいというニーズを踏まえると（図16参照）、今後の T-ACT ボランティアの周知と参加の促進により、学生の活動の活性化が期待される。

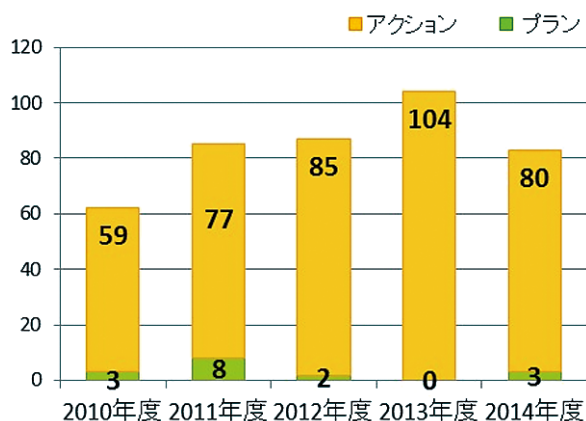


図2：過去5年間の T-ACT アクション・プランの企画承認数と企画申請総数

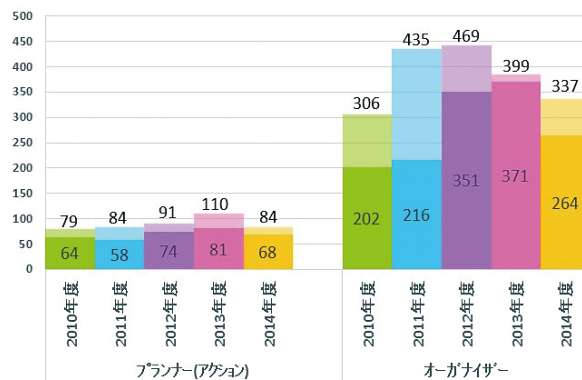


図3：過去5年間の T-ACT アクション・プランの参加者数（プランナー・オーガナイザー）  
注）棒グラフの頂点までが延べ数を示しており、色の濃い点までが重複者を除く実数を示している



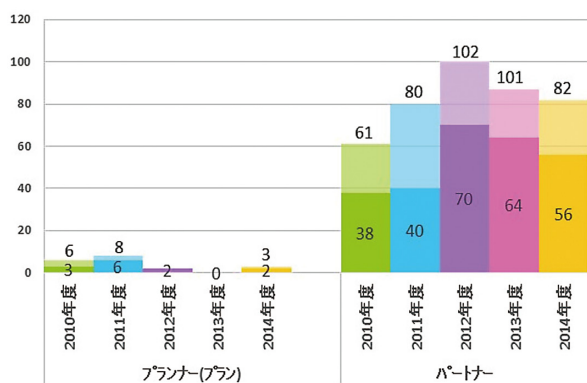


図4：過去5年間のT-ACTアクション・プランの参加者数  
(プランナー・パートナー)  
注) 棒グラフの頂点までが延べ数を示しており、色の濃い点までが重複者を除く実数を示している

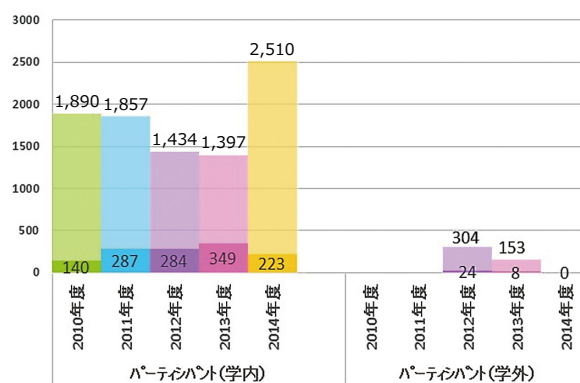


図5：過去5年間のT-ACTアクション・プランの参加者数  
(パーティシパント)  
注) 棒グラフの頂点までが延べ数を示しており、色の濃い点までが重複していないことが確認できる実数を示している。また、パーティシパントを学内外別に集計したのは2012年度以降であり、2011年度までは便宜的に学内の項にまとめて図示した。

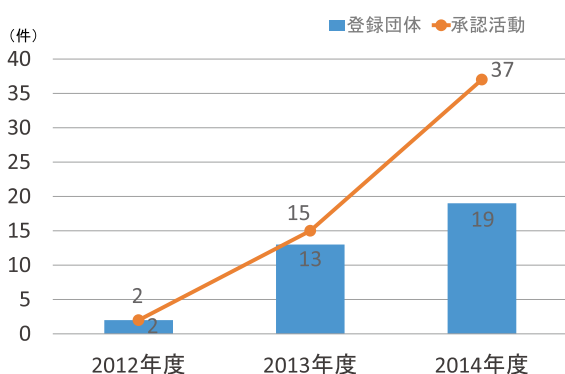


図6：これまでのT-ACTボランティアの登録団体数と活動承認数

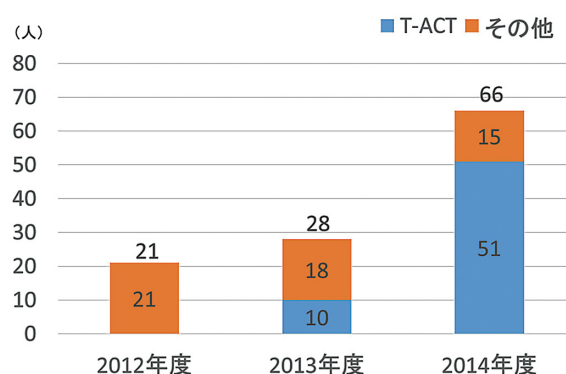


図7：これまでのT-ACTボランティアへの登録団体における本学学生の参加者実数

続いて、2014年度に、T-ACT フォーラムに来室した学生数は1,320名だった(図8参照)。学生の来室目的を分類したところ、T-ACT アクションの新規申請に関する相談(A 新規)が18%、T-ACT アクションの運営のための利用(A 運営)が50%、T-ACT アクションへの参加に関する相談(A 参加希望)が1%、T-ACT ボランティアへの参加に関する相談(V 新規)が3%、T-ACT ボランティア参加後の相談に関する利用(V 運営)が7%、T-ACT サポーターの来室(サポーター)が4%、総合科目に関する利用(授業)が13%、T-ACT フォーラムでの雑談等その他の利用(その他)が5%であった(図9)。T-ACT アクションに関する利用が4分の3を占めており、特に、T-ACT アクションの運営にとってT-ACT フォーラムという場所が必要であると言える。

2014年度のT-ACT ボランティアに関して来室した地域活動団体などの来室者数は、44名であり、当然ながら来室した地域活動団体の数は、T-ACT ボランティアの募集件数とともに増加した(図10)。来室目的を分類したところ、T-ACT ボランティアの団体登録あるいは募集申請に関しての来室が最も多かった(募集関連)。また、取材やイベントの打合せに関する訪問など、訪問理由も多様になっており、T-ACT ボランティア事業の認知度の広がりや機能の多様化が期待されていることが推測できる。



図8：過去5年間のT-ACT フォーラム来室学生数

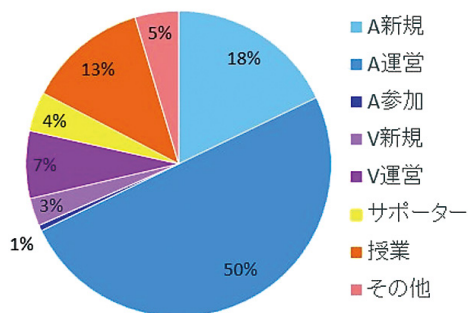


図9：2014年度の学生のT-ACT フォーラム利用目的

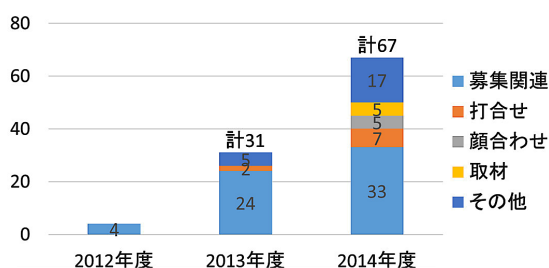


図10：地域団体等のT-ACT フォーラム来室者数

## 2. T-ACT による人間力の成長と学生生活の充実感

2014年度に活動が終了した企画で、活動の際にT-ACTシステムに登録した学生のうち198名が、活動終了後の人間力の成長に関するアンケートにweb上で回答した。参加力、体験力、コミュニケーション力、統率力、企画力の達成度に関する自己評価は以下の通りである（図11参照）。参加力、体験力、コミュニケーション力について達成できたという回答（「とても当てはまる」「すこし当てはまる」）は全体の約75%を占めたが、統率力、企画力について達成できたという回答は全体の約60%であることから、参加力・体験力・コミュニケーション力より達成することが難しいと感じられていることがわかった。

また、2014年4月中旬の健康診断時に行った調査では、T-ACTでの活動による学生生活の充実感への効果に関する回答を得た。「T-ACTでの活動によって学生生活が充実した」に対して「とても当てはまる」「少し当てはまる」と、T-ACT活動が充実感に寄与したと回答した学生は、T-ACT活動への参加が1回ある場合41.4%、2回ある場合79.0%、3回以上ある場合88.7%であった（図12参照）。また、T-ACT活動への参加がオーガナイザーとして1回ある場合48.9%、2回ある場合87.9%、3回以上ある場合85.7%、プランナーとして1回ある場合51.6%、2回ある場合85.7%、3回以上ある場合90.9%であった。ここから、T-ACT活動への参加の仕方がパーティシパントよりはオーガナイザー、オーガナイザーよりはプランナーである方が、T-ACTでの活動によって学生生活への充実感が高まりやすい傾向が窺える。ただし、いずれの参加の仕方であっても1回のT-ACT活動では学生生活の充実感への効果は非常に大きいというわけではなく、2回以上のT-ACT活動を経験している場合、学生生活の充実感への効果を大きく高めると言える。

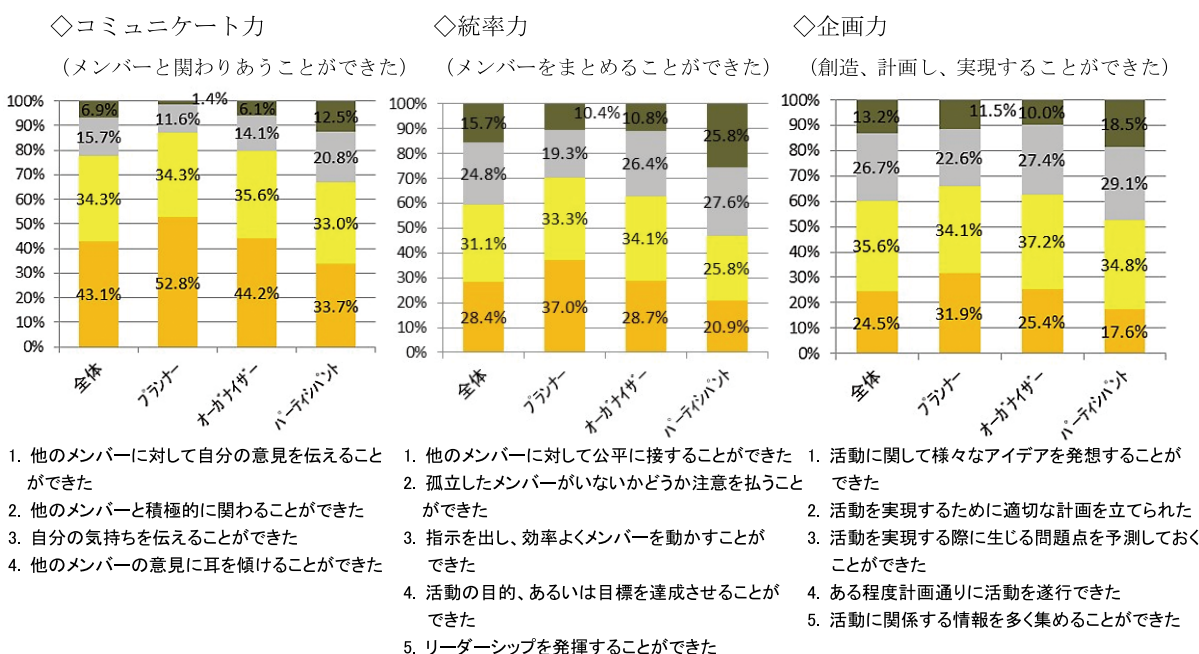
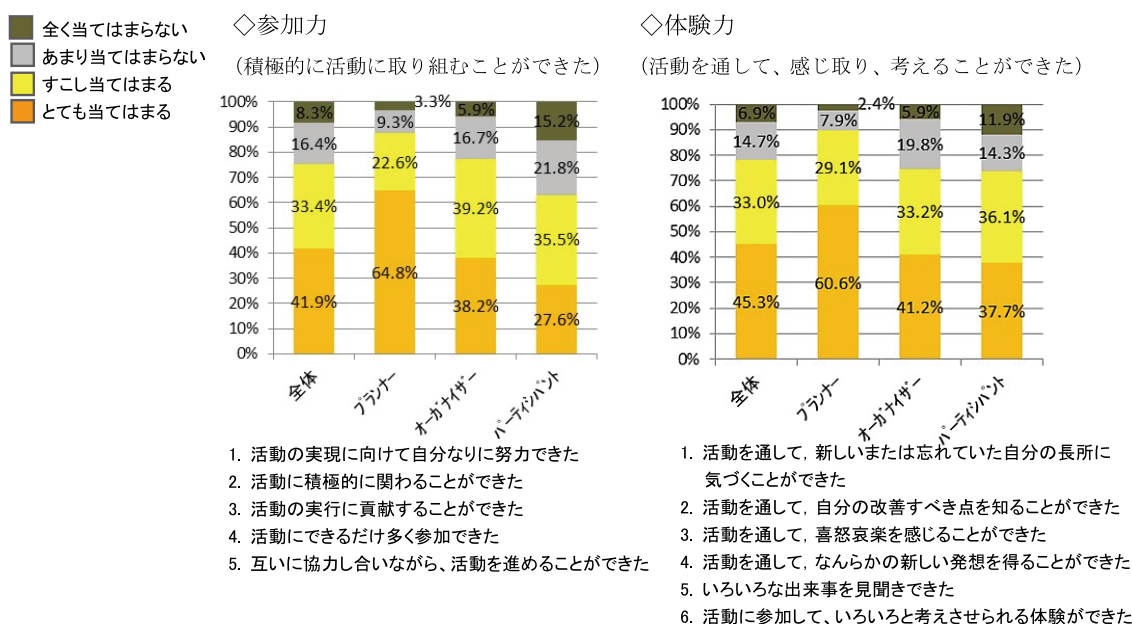


図11：2014年度の人間力の達成度に関する回答の割合

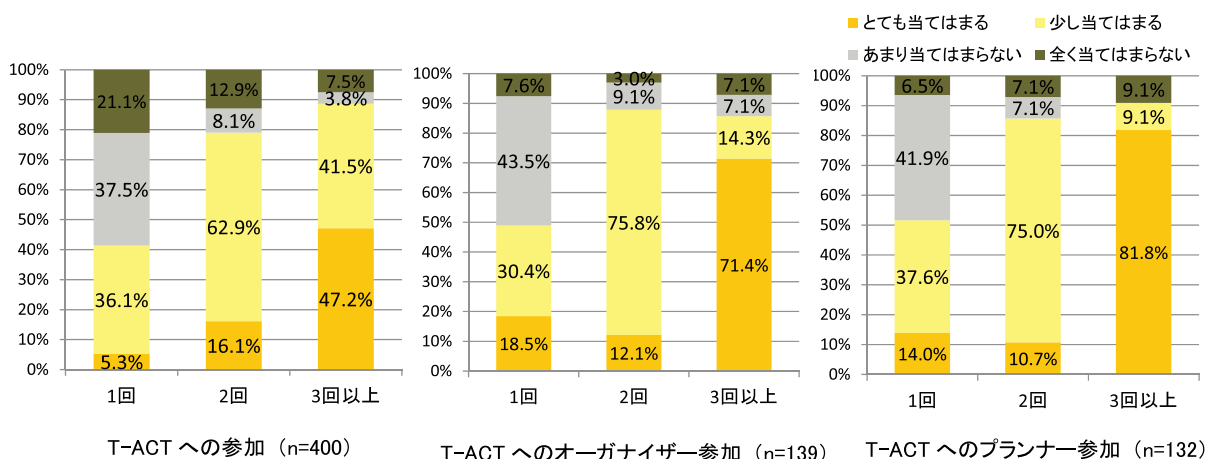


図12：T-ACT 活動による学生生活の充実感への効果 (「T-ACT での活動によって学生生活が充実した」に対する回答)

### 3. T-ACT 表彰

活動の奨励を目的に、年に二度、企画の独自性が高く、参加者の人間力をより高めたと評価される企画を表彰している。2014年度に表彰された企画は下記の通りである。

表1：2013年度上半期・下半期に表彰された企画

賞	上半期		下半期	
	承認番号	企画名	承認番号	企画名
最優秀賞	14024A	Women's Hackathon at Tsukuba	14004A	UNICO～星空から笑顔の輪を vol1～
優秀賞	13055A	Team8 3rd state ～imagine the future～	14011A	平砂トンネル・壁面リフォームプロジェクト
	13059A	Tsukuba for 3.11 第6弾		
	13089A	東北、フクシマを見に行こう、そして考えよう -東日本大震災文化的復興プロジェクト@つくば-		
	14025A	1000000人のキャンドルナイト2014@筑波大学 -でんきを消してスローな夜を。-		
特別賞	13086A	あなたの意見を言える場所 -CSC-	14006A	イベントVSお掃除ロボット派遣屋さん ～ロボットでお掃除いたします～
	13091A	つくばで恋チュン		
	13093A	Eating Place Map for Muslim Project part2		
	14008A	有志！神輿大好き人		
特別賞	13071A	松美池アヒルボート「博士号」の復活	14019A	つくパリMAP

### 4. 全学レベルにおける T-ACT の周知率・関心等

2014年度4月の調査において（有効回答は学群生4,733名、大学院生1,592名）、本学内の学生における T-ACT の周知率は、学群生で65.2%、大学院生で46.6%であり（「T-ACT について知っている」に対して、「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した割合。図13参照）、T-ACT の周知率は年々高まっている。また、「T-ACT の活動に参加してみたいと思う」（「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した学生は、学群生で40.5%、大学院生で35.5%であり、T-ACT の活動への関心は3～4割程度まで急増した。ただし、「T-ACT の活動に参加したことがある」（「1回」「2回」「3回以上」）と答えた学生は学群生で8.3%、大学院生で10.4%と1割程度に留まった（図14-15参照）。

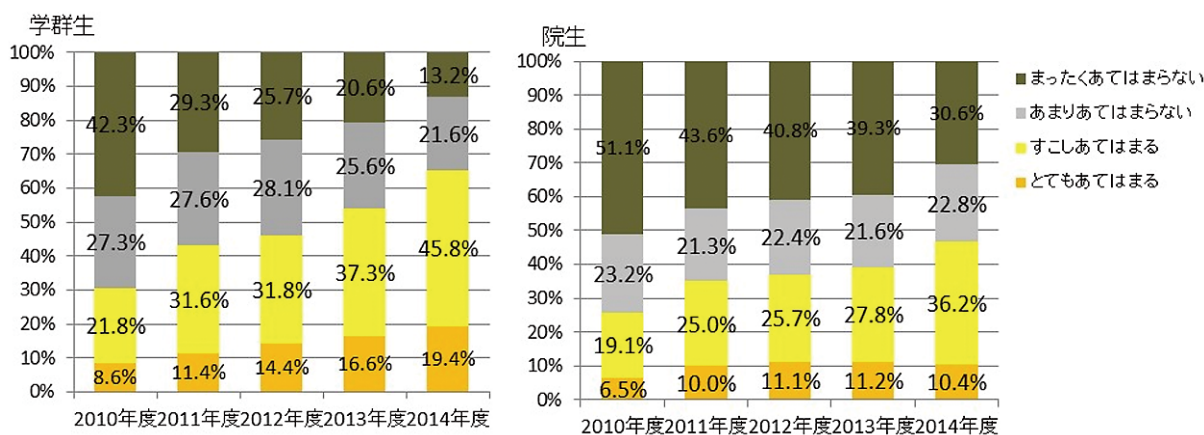


図13：過去5年間の T-ACT の周知率  
（「T-ACT について知っている」に対する回答）

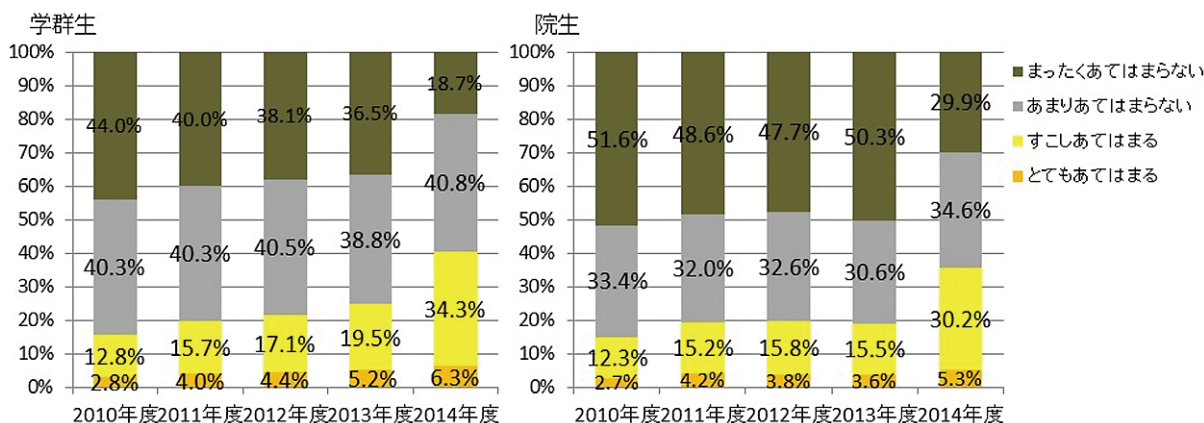


図14：過去5年間の T-ACT への関心度  
（「T-ACT の活動に参加してみたいと思う」に対する回答）

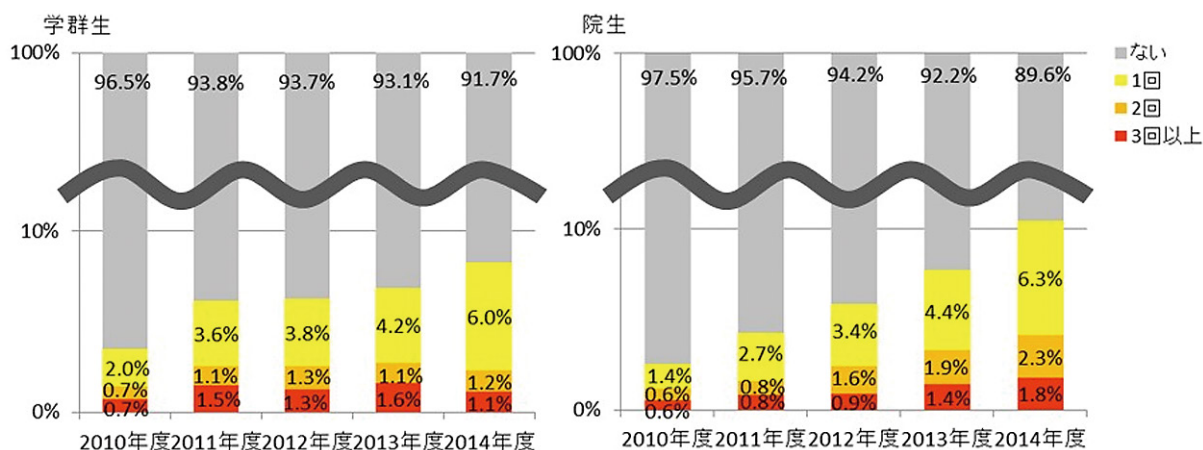


図15：過去5年間のT-ACTへの参加率

学生の社会貢献活動・ボランティア活動に参加してみたいというニーズは、2014年4月中旬の健康診断時に実施した調査によって大学生・大学院生ともに55%程度の学生にあることがわかっている（「社会貢献活動・ボランティア活動をしてみたいと思う」に対して「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答。図16参照）。ゆえに、今後のT-ACTボランティアの周知と参加の促進により、学生の活動の活性化が期待される。

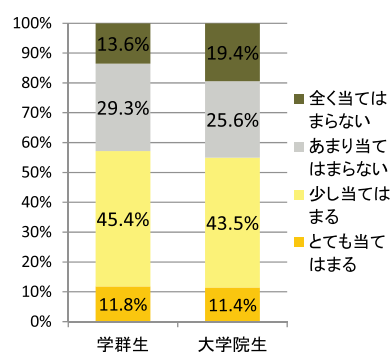


図16：社会貢献活動・ボランティア活動参加のニーズ（「社会貢献活動・ボランティア活動をしてみたいと思う」に対する回答）

### 5. 公開シンポジウム・活動報告会の開催

学生のさらなる活動の発展と地域参画を促進するため、筑波大学内外に向けて学生の活動とT-ACTの成果を発信し、意見交換や交流による関連組織との連携を図るイベントを開催している。

2014年度の活動報告会は5月26日に、「飛び込もう！ボランティアコミュニティ！」をテーマとして開催した。学外から、海老澤学氏（茨城県庁 企画部 企画課）を講師としてお招きし、「地域社会と学生の関わり方の可能性」についてご講演を頂いた。また、地域貢献活動の多様性をテーマにしたディスカッションでは、学生の地域貢献に向けた活動を代表して、T-ACTボランティアの「つくばボードゲーム愛好会」、「筑波山梅まつり『縁結び』イベント」、「自立援助ホーム『みらい』友だち活動」、「茨城県警察大学生サポーター」の4企画、T-ACTアクションの「Tsukuba for 3.11」がこれまでの活動と今後の活動計画などを魅力や課題などを交えて報告した。それについてT-ACT推進室の学外オブザーバーである横田能洋氏（NPOセンター commons）、武田直樹氏（筑波学院大学）に「より良い活動にするために、悩み続けることは大事」、「活動を通して相互交流を楽しんでいる。多様性のある活動をさらに広げていって欲しい」などご意見を頂いた。地域からはボランティア活動団体や公的機関、他大学、企業など約30名の方々にご参加頂き、報告会終了後の交流会では、学生も交え学生の地域参加について活発な意見交換が行われた。

日時 5月26日（月）16：45～18：00（18：15～19：00 交流会）

場所 第3エリア 3A403



2014年度の公開シンポジウムは、11月11日に「T-ACTの軌跡と可能性」をテーマとして開催した。まずは、2014年度よりT-ACT推進室へと改組されたことの報告も兼ね、これまでの事業報告を行った。その後、事例報告として、山下史雅さん（人文・文化学群）と中島隆伸さん（体育専門学群）からこれまでのボランティア関連のT-ACT活動を通して、ボランティア活動に抱くこともある壁を自分にできることを模索することで越えられたこと、大学生生活での様々な体験を通して学んだことは今後の可能性を広げられると感じられていること、またそれらの機会はT-ACTがあるからこそ得られやすいことが報告された。また、パートナー経験者の宮本雅彦氏（理工学群長）からは、学生のT-ACT活動を見守る中で、学生が活動を通して自律性と積極性、広い視野に立った考え方を身につけたという学生の成長の様子について熱のこもった報告を頂いた。さらに、「学生に期待するボランティアの課題と将来展望」をテーマに、小野村哲氏（認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所）、小林千洋氏（NHK サービスセンター）、武田直樹氏（筑波学院大学）、青柳悦子氏（比較文化学類長）をパネリストに迎え、フロアも交えて議論頂いた。その中で、ボランティア活動は他人や地域のニーズに応じるものであり、自分が楽しむだけであったりやりっぱなしにしたりすることはできないことを確認した上で、自分の特徴・限界を知り仲間と集えるという「参集」、他人が楽しいと思っていることに興味関心をもち「参加」すること、そして、経験を積むことで「参画」にまで至ることが期待されていることが活発に議論され、学生が様々な形で「やりたい」を行動に移すチャレンジを後押しするような今後のT-ACTの支援のあり方にとって示唆に富む機会となった。

日時 11月11日（火） 15：00～17：30（18：00～19：00 交流会）

場所 大学会館 国際会議室



## 6. 地域連携への取り組み

### 【ボランティアカフェ @ 雙峰祭】

11月1日から3日に行われた筑波大学学園祭、第40回雙峰祭において、2日と3日に、筑波大学学生ボランティアセンターピアラとT-ACTの共催によるボランティアカフェを開催した。2日は「留学生の地域参加」、3日は「障害者のためのまちづくり」をテーマにして行い、学生、地域活動団体の方々、筑波大学教職員がそれぞれのテーマに沿って意見を出し、学生のボランティア活動促進のためのアイデアについて話し合った。

日時 11月2日（日）、11月3日（月・祝） 各11：30～13：00

場所 スチューデントプラザ 2階談話室



### 【ボランティアフェスタ2014 in 筑波大学】

つくば市近隣でボランティア活動を行う団体を集め、学生・地域市民との交流、団体同士の情報交換などを通じてボランティアへの関心を喚起し諸団体の連携を強化することを目指し、特に学生に関してはボランティア団体とのかかわりを通じて人間力の育成、自発的な活動の啓発を目的とし、筑波大学学生ボランティアセンターピアラとの協力のもと、「ボランティアフェスタ2014 in 筑波大学」を開催した。学生サークル、地域団体などから約50名の参加があり、各団体の展示ブースにより団体や活動の紹介を行い、また、地域課題の提案などに基づき「学生の地域参加を促すには」というテーマによるグループワークを行った。今後学生が地域に出て活動することを促進するための地域ネットワークを広げる良い機会となった。

日時 12月14日（日） 14：00～16：00

場所 大学会館 3階特別会議室



### 【ボランティアフェスタ in つくば2015】

つくば市社会福祉協議会が主催する「ボランティアフェスタ in つくば2015」がイーアスつくばで行われ、筑波大学学生ボランティアセンターピアラの協力のもと、「筑波大学ボランティアブース」としてブース出展を行った。つくば市社会福祉協議会のつくばボランティアセンターに登録する地域の団体など42団体が参加し、ステージ発表、展示・販売ブース出展、体験コーナー出展を行った。筑波大学ボランティアブースではT-ACTの活動紹介、学生ボランティアセンターピアラの活動紹介、企画室の社会貢献プロジェクトの紹介などを行い、ブース訪問者への紹介や他団体との情報交換などを行った。

日時 1月10日（土） 11：00～16：00

場所 イーアスつくば センターコート



## 7. その他

12月11日（木）に、ボランティア活動推進協議会のタイ国組織である、Volunteer Spirit Network の調査視察の受け入れを行った。これはタイ大学関係者による日本の大学ボランティアセンター調査を行うもので、法政大学、明治学院大学、早稲田大学などのボランティアセンターとともに本学の T-ACT を調査視察するものであった。調査に際しては、本学の概要説明や学生支援に関する説明、T-ACT の事業説明などを行い、筑波デミにて開催した昼食会においては、本学タイ人留学生 9 名、日本人学生 1 名も参加し、タイからの調査団との交流を行った。調査団からは、「他の大学では聞くことのできなかつた、学生支援についての話が聞けて参考になった」、「国際化に向けた積極的推進や10年後の姿、地域をはじめ大学内外における多様で専門性を活かしたボランティア活動への取り組みが参考になった」などご好評をいただいた。

日時 12月11日（日） 14：00～16：00

場所 スチューデントプラザ 2階就職課会議室および大学会館レストラン





## 編集後記

つくばアクションプロジェクト（T-ACT）は、2008年度に学生支援GPからスタートし、2012年度に本学の人間力育成支援事業として学生生活支援室の一部会による支援体制の下でリスタートしました。また、2014年度にはT-ACT推進室へと支援体制が拡充されました。それは、T-ACTとして実施された活動が増加し、全学的にもT-ACTの周知率と関心が高まったことによります。2014年度の活動を振り返りますと、活動実施にあたっての難度が高い活動が多かったように感じます。学則や法人規定をよく読み直してできることとできないことを再検討したこと、賠償責任等の法的リスクの管理を検討したこと、筑波大学という名の下での発信や社会情勢に関して配慮が必要だったことなど、クリアしなければならないハードルについて学生とともに再検討し、再認識する経験が多かったように思います。また、T-ACT ボランティアへの参加を含めてパーティシパントとしての参加が目立つ1年のようでした。何か特定の活動だけでなく、新たな活動に興味関心を持ち参加できる力も非常に大事だと思っています。さらに、参加する力は育ったけれど、企画を立ち上げ、メンバーをまとめてリーダーシップを発揮するというような経験をしたことがない学生がいるとすれば、そういう機会をより多くの学生がもてるような支援のあり方を考えていきたいと思っています。単発的で流動的な活動を支援するT-ACTですが、学生がより豊かに人間力を育てて社会に出ていくことに寄与できればと思っています。

T-ACT 専任教員

大久保智紗

T-ACTのボランティア事業は3年目を迎え、徐々にではありますが、学生そして地域への認知度が上がってきており、学生が地域のボランティア活動に参加する機会も増えてきました。地域の課題に対し親身になって取り組む学生たちの姿勢は、地域の方々にとっても価値のある存在として認識されていると思います。地域のボランティア団体が募集するボランティアの活動分野も、子どもの学習支援、町おこし、スポーツや合唱指導など多岐に渡ってきており、学生ならではの専門性を活かした活動で活躍できるチャンスも広がってきています。

T-ACTの目標とする学生の人間力の育成、特にボランティア活動で目指す「市民力」の育成には、学生と地域市民が一緒になって地域の課題を見つけ、それを解決しようとする「プロジェクト型」のボランティア活動がこれからは求められてくるのだと思います。しかしながら、大学側だけの一方的な思いだけではそれを実現することはできません。より学生の能力を活かし、また成長を促すためには地域の方々の協力も不可欠です。これからは、「学生を地域に育ててもらう」という意識を持ちながら、学生がボランティア活動への一歩を踏み出すためのサポートができればと思います。

T-ACT ボランティアアドバイザー

鈴木 庸

## 平成26年度 T-ACT 推進室員一覧

		所 属	職 名
室 長	田中 博	生命環境系	教授 学生生活支援室長
副室長	加賀 信広	人文社会系	教授
室 員	五十嵐沙千子	人文社会系	准教授
	鈴木 大三	システム情報系	助教
	杉江 征	人間系	教授
	丹羽 隆介	生命環境系	准教授
	中内 靖	システム情報系	教授
	後藤 嘉宏	図書館情報系	教授
	三輪 佳宏	医学医療系	講師
	澤江 幸則	体育系	准教授
	山田 博之	芸術系	助教
	田附 あえか	人間系	助教
	唐木 清志	人間系	准教授
	西川 潔		特命教授
	大久保 智紗	学生生活支援室	助教 T-ACT 専任教員
	高岡 利嗣	学生部学生生活課	課長

つくばアクションプロジェクト活動報告書

平成 27 年 5 月発行

筑波大学 T-ACT 推進室

〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1

TEL 029 (853) 2222



 筑波大学  
*University of Tsukuba*



# T-ACT 2015

つくばアクションプロジェクト

TSUKUBA ACTION PROJECT REPORT

